

平成26年度

研究のまとめ

研究テーマ

一人一人の社会参加と自立をめざす一貫性・継続性のある指導

～アセスメントを利用した指導を中心に（1年次）～



平成27年2月



鹿児島県立大島養護学校

目次

1	はじめに	1
2	全体研究	2
3	小学部研究	21
4	中学部研究	41
5	高等部研究	70
6	研究のまとめ	112
7	資料	116
8	おわりに	126
9	研究同人	127
10	おまけのページ	128

＜表紙画＞

平成26年度 第33回「肢体不自由児・者の美術展」文部科学大臣奨励賞

高等部2年 越間 那央弥 「運動会」

はじめに

現在、共生社会の形成に向けた「インクルーシブ教育システムの構築」の考え方が整理されつつあります。また、大島地区においては、平成25年度から27年度の3年間、文部科学省の委託を受け、県教育委員会の指導の下「教育資源活用モデル地域事業」に取り組んでおり、地域の特別支援教育のセンター的機能の充実が課題となっております。

ところで、本校では、これまで、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導実践に取り組むことをめざし、「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」、「チェックリスト」等を活用し、「授業づくり」を充実するために、全教職員が協同的に、また、同僚生を發揮しながら、授業改善（PDCAサイクル）の相互研修に取り組んできたところです。

しかし、毎年の研究の積み重ねによる一定の成果は得られてきたものの、「個別の指導計画と授業との関連」や「チェックリストの活用」、「授業づくりの時間確保」、「実態差への対応」の4点を、課題として感じてきたことも事実であります。

これは、教職員の転出入により、継続した指導・支援へつながっていないのではないかという思いや、小・中・高等部、そして卒業後の児童生徒の社会参加や自立に生かされるための一貫した指導・支援ができていないのか、という疑問からでありました。

そこで、平成26年度は、これまでの研究の成果と課題を踏まえつつ、「一人一人の自立と社会参加をめざす一貫性・継続性のある指導～アセスメントを利用した指導を中心に（1年次）～」を研究テーマとして掲げ、学校教育目標にある「児童生徒一人一人の発達段階や特性等に応じた教育」の具現化に努めることが、「社会参加や自立に向けた『明るく、強く、豊かに』生きる人間を育成する」ことにつながるのではないかと考えました。

また、本研究は、「インクルーシブ教育システムの構築」との関係性も深く、本校のみならず、地域の小・中学校等への支援にも寄与すると同時に、本校のスクールクラスターとしての役割も果たせるのではないかと考えています。

まずは、児童生徒一人一人の実態に関して、教職員が共通の見立てや手立てを考えることができるようにするために、「アセスメント」を明確に実施できるようにしたいという考え方に立ち、標準化された心理検査やチェックリスト（本校作成）等を活用することとしました。これらを通して、グループでの分析（解釈）を行い、授業づくり（指導案検討→授業研究→授業検討会→評価・改善点）のプロセスを大切にすることにしました。

このように、アセスメントの一連のプロセスを協働して行うことで、授業づくりに関する共通の考え方や指導実践に役立つとともに、特別支援教育に携わる教職員の専門性や知識や技能の向上にもつながるのではと考えています。

本研究は、まだ、緒に就いたばかりであり、1年間で成果をお示しするまでには至らない点もありますが、「日々の授業を大切にしたい」という本校教職員の思いをつなぎ、児童生徒一人一人の将来に生かされる指導につながることを期待しています。是非とも、皆様方からの御批正いただき、今後の本校の取組に生かしてまいりたいと存じますので、忌憚のない御意見や御指導をよろしく申し上げます。

平成27年3月

校長 中村 良一

全体研究



(イラスト：中学部3年 田中陸「ヤルショウビン」)

全 体 研 究

I	研究テーマと概要	2
II	研究テーマ設定の理由	2
	1 研究テーマの視点	
	2 本校の学校教育目標, めざす生徒像から	
	3 学校経営方針の重点取組事項から	
	4 各学部の教育目標から	
	5 特別支援教育に関する動向から	
	6 これまでの研究から	
	7 本校や児童生徒の実態から	
	8 学校評価の課題・本校職員のニーズから	
III	研究テーマの意味(捉え方)	5
	1 一人一人の社会参加と自立とは	
	2 一貫性・継続性のある指導とは	
IV	研究の詳細	7
	1 研究の目的	
	2 研究仮説	
	3 研究の構想	
	4 研究の方法	
	5 研究組織	
	6 研究の流れ(計画)	
V	全体研究	9
	1 研究テーマ	
	2 研究検証用アンケートの結果	
	3 研究検証用アンケートから考えられること	
	4 授業参観や授業検討会で使用した掲示物	

I 研究テーマと概要

一人一人の社会参加と自立をめざす一貫性・継続性のある指導
 ～アセスメント※¹を利用した指導を中心に(1年次)～

心理検査(知能検査)や本校の財産である「チェックリスト」を基にした分析(解釈)を複数の職員で行うことにより、アセスメントの一連のプロセスを学び合い、一貫性のある指導と教員の特別支援教育に関する知識・技能の向上へつなげることができた。

※1 アセスメントを個人の状態像を理解し、必要な支援を考えたり、将来の行動を予測したり、支援の成果を調べるための一連のプロセスとして捉える。つまり、状態像を理解することだけがアセスメントではない。

II 研究テーマ設定の理由

1 研究テーマ設定の視点

研究テーマは、以下に示す事項を鑑みて設定した。その視点を図に示す。(図1)

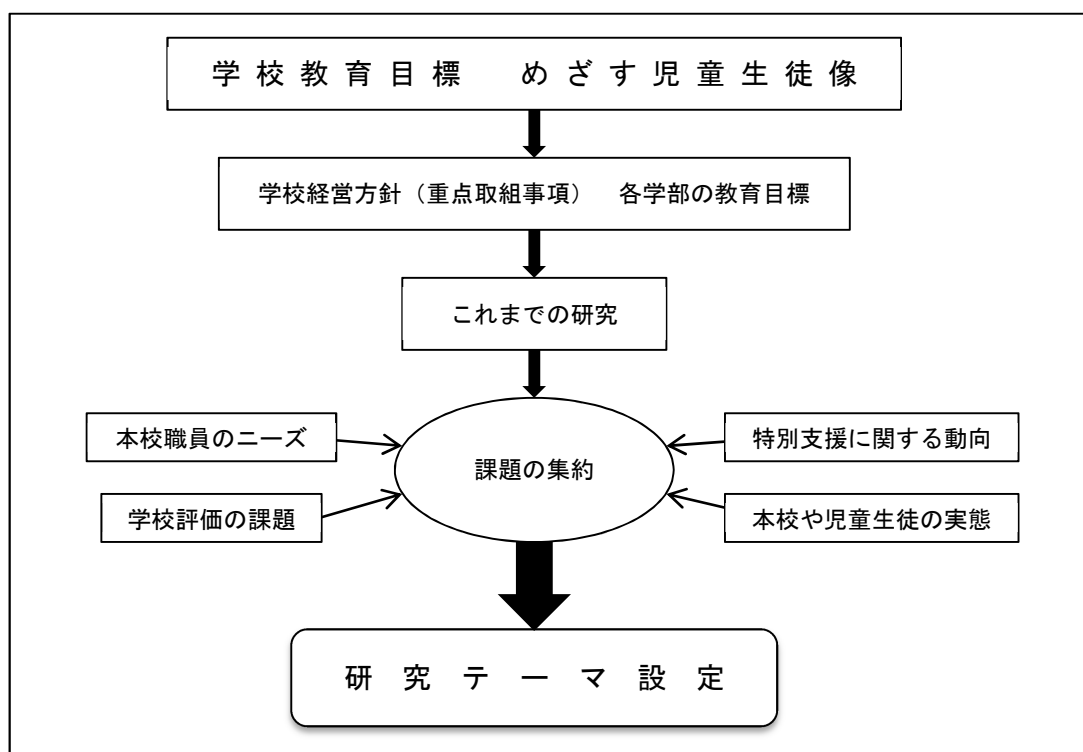


図1 研究テーマの視点

2 本校の学校教育目標、めざす児童生徒像から

(1) 学校教育目標

児童生徒一人一人の発達段階や特性等に応じた教育を行い、生きる力を身に付け、社会参加と自立に向けて、「明るく、強く、豊かに」生きる人間を育成する。

(2) めざす児童生徒像

- ・ 健康に関心をもち、明るく、元気で、礼儀正しい児童生徒
- ・ 周りの人の支援を受けながら、将来の社会参加と自立をめざす児童生徒
- ・ 友達と仲良くし、豊かな心をもち、命輝く児童生徒

3 学校経営方針の重点取組事項から

- (1) 児童生徒の実態や特性等を踏まえた適切な教育の追究
 - ・ 中等教育の充実のための試行的取組(中学部・高等部の6年間の連携・継続性)
- (2) 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用方法の検討
 - ・ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用(授業づくりとの関連性の検証)
- (3) 授業力向上のための教職員研修の充実
 - ・ 授業力向上の取組(テーマ研究・一般研修《授業提供及び実践紹介等》, 経験年次別研修)の充実

4 各学部の教育目標から

- ・ 児童の命を守り育み, 日常生活に必要な力を身に付けるとともに, 身の回りのことに自ら意欲的に取り組もうとする児童を育成する。【小学部】
- ・ 生徒の命を守り育み, 集団生活や地域生活に必要な力を身に付けるとともに, 自発的に周りの人と協力し合おうとする生徒を育成する。【中学部】
- ・ 生徒の命を守り育み, 職業生活や社会生活に必要な力を身に付けるとともに, 積極的に社会参加しようとする生徒を育成する。【高等部】

5 特別支援教育に関する動向から

- (1) インクルーシブ教育システムの理念
 - ・ 自立と社会参加を見据えて, その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供
 - ・ 一貫した指導・支援ができるような個別の教育支援計画の活用(引継ぎ, 情報交換)
 - ・ すべての教員は, 特別支援教育に関する一定の知識・技能を有することが求められる
- (2) 特別支援学校学習指導要領
 - 教育目標

児童及び生徒の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し自立を図るために必要な知識, 技能, 態度及び習慣を養う
 - 各教科の基本的な考え方
 - ・ 特別な支援や配慮が必要な児童生徒の状態は, 環境的・社会的条件で変わり得る可能性がある
 - ・ 教材・教具や補助用具を含めた学習環境の効果的な設定をはじめとして, 児童生徒へのかかわり方の一貫性や継続性の確保が大切

6 これまでの研究から

本校では, これまでに「個別の指導計画」, 「個別の教育支援計画」, 「チェックリスト」及び「あゆみ(通知表)」の様式とその作成システムについて先駆的に「テーマ研究」にて研究を進め, 年度ごとによりよい方向に改善がなされ, 大島養護学校の財産として現在に至っている。

近年では, 毎時間の授業を重視して, 題材等に関する実態把握, 目標設定の在り方, それを達成するための教師の手立てや状況設定, 評価の在り方など「授業づくり」における専門性を高める実践研究に取り組んできた。(表1)

また, 平成24・25年度は「語り合う」というキーワードを共有し, ワークショップ型の授業検討会を用いたPDCAサイクルのシステム確立を目指し, 相互研修に取り組んできた。その結果, 以下のような成果と課題が得られた。

【成果】

- ・ 授業者まかせにすることのない, チームでの学習指導案づくり
- ・ 授業研究での焦点化した話し合い及び全員が意見を出し合えるシステム作り
- ・ 日常の学習指導に生かされる授業研究

【課題】

授業づくりの課題について、次の4点が多く挙げられた。

- ・ 個別の指導計画と授業との関連
- ・ チェックリストの活用
- ・ 授業づくりの時間確保
- ・ 実態差への対応

表 1 本校におけるテーマ研究の過程(抜粋)

年度	研究テーマ	研究紀要等
平成 15～16 年度	個別の指導計画を活用するために ～様式の改善とシステム作り～	「碧海」第 23 集 別冊資料集
平成 17～18 年度	一人一人のニーズに応じた個別の教育支援計画はどうあればよいか ～個別の指導計画を生かした取り組みの検討～	「碧海」第 24 集
平成 19～20 年度	児童生徒一人一人がかがやく授業の実践をめざして ～日々の子どものかかわりや実践を通して～	「碧海」第 25 集
平成 21～22 年度	生活に生かす力をつける授業づくり ～授業力向上を目指して～	「碧海」第 26 集
平成 23 年度	明日に生かせる指導法 ～「やってみる?」「やってみよう!」「やってよかった♪」～	
平成 24 年度	みんなで語り合う授業づくりと授業研究 ～思いを授業改善につなげよう～	
平成 25 年度	児童生徒の生きる力を育む授業づくり ～みんなで語り合う PDCA サイクルを通して～	
平成 26～28 年度	一人一人の社会参加と自立をめざす一貫性・継続性のある指導 ～アセスメントを利用した指導を中心に(1年次)～	

7 本校や児童生徒の実態から

- ・ 大島地区唯一の特別支援学校
- ・ 児童生徒の中には、視覚障害、聴覚障害、病弱を併せ有する者や日常生活において医療的ケアを必要とする者も在籍しているなど、実態は様々
- ・ 大島本島以外の離島などから近隣の施設(社会福祉法人 クリスト・ロア会 希望の星学園)(以下「学園」という。)に入所し、登校する児童生徒もいる

8 学校評価の課題・本校職員のニーズから

(1) 平成 25 年度学校評価の課題

- ・ 中等教育の充実
- ・ 他学部・他学級への計画的授業参観による授業力向上

(2) 職員アンケート(平成 26 年 5 月実施)《資料 1》

- ・ 行われている指導・支援が将来的に(中・高等部, 社会に出てから), どのようにつながっていくのかが把握・理解した上で授業を立てていきたい。
- ・ 「〇〇な実態であり, △△な課題があるから」とか「こういう良さをもっと伸ばし, 次へのステップにしたいから」という視点での授業づくりと教師自身の評価をつけるということが大切
- ・ アセスメントなくして指導は成り立たない
- ・ 指導にあたって, アセスメントがしっかりされていると課題は明確になる
- ・ 日々の教育の中で, 目標の設定の仕方, 評価の方法, 実践の難しさを感じている
- ・ 児童生徒の発達段階や障害の特性をしっかりと把握した上での指導が重要

上記の項目から課題を集約すると, これまでの研究の成果(財産)を活用しながら, 教員として特別支援教育に関する専門性を高め, 児童生徒の自立と社会参加を見据え, 一貫性・継続性のある指導を実践することが大切である。このことが, 学校教育目標にある「児童生徒一人一人の発達段階や特性等に応じた教育を行い」の具体的実践であり, 「社会参加と自立に向けて, 『明るく, 強く, 豊かに』生きる人間を育成する」の実現につながるものと考えられ, 本研究テーマを設定した。

Ⅲ 研究テーマの意味（捉え方）

1 一人一人の社会参加と自立とは

中央教育審議会初等中等教育分科会の「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（平成 24 年 7 月 23 日）の中で、共生社会について「これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。このような社会を目指すことは、我が国において最も積極的に取り組むべき重要な課題である」と述べられ、そのために「障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念が重要であり、その構築のため、特別支援教育を着実に進めていく必要がある」としている。さらに、インクルーシブ教育システムにおいて「個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供」できる学び場の一つとして特別支援学校があげられている。

そこで本校では「一人一人の社会参加と自立」を以下のように確認したい。

一人一人の社会参加と自立とは、個別の教育的ニーズを基に身に付けてきた生きる力を生かしながら、地域社会における体験的な学習や主体的に行動・判断することを通して、必要な支援を受けながら積極的に働いたり、楽しい生活を送ったりすることである。

このことは、「一人一人の社会参加と自立」≠「就労」という意味も含んでいる。

以下に各学部における「一人一人の社会参加と自立」につながる具体的な目標と「めざす子ども像」の広がりを示す。（表 2）（図 2）

表 2 各学部における社会参加と自立につながる目標(各学部の教育目標から)

小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の周りの自立的な生活を送ることができる。 ・ 周囲の人と豊かな関係を築くことができる。 ・ 自分の気持ちや要求を伝えることができる。 ・ 集団生活に必要なルールや役割を理解することができる。 ・ 一日の生活や学校行事に見通しをもつことができる。 ・ 友達や教師と一緒に学校生活を楽しむことができる。 ・ 作業的な活動において達成感を得ながら、自ら意欲的に取り組むことができる。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たなことにチャレンジしようとする意欲を高めることができる。 ・ 自分の役割や責任を遂行することができる。 ・ 目的を共有し、共に活動することができる。 ・ 相互に気持ちや考えを伝え合うなどして課題解決をすることができる。 ・ 社会生活のルールやマナーについて身に付けることができる。 ・ 働く生活に関心をもつことができる。 ・ 自己選択、目標設定、自己評価をすることができる。
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身に付けてきた力を実際の社会生活で生かすことができる。 ・ 主体的に判断・行動することができる。 ・ 身だしなみや礼儀を大切にすることができる。 ・ 自分の役割を意識し、成し遂げる責任感をもつことができる。 ・ 作業に意欲的に取り組むことができる。 ・ 一定時間継続して作業のできる体力と気力をもつことができる。 ・ 社会や職場の決まりを守り、協力し合って生活を送ることができる。

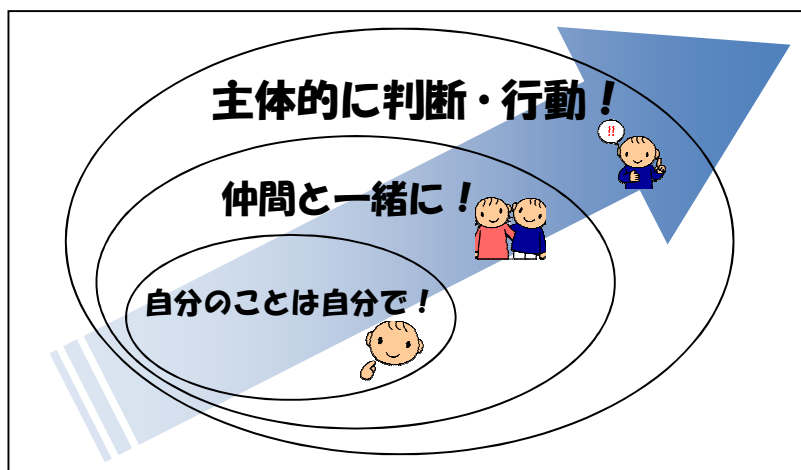


図2 めざす児童生徒像(キーワード)の広がり

2 一貫性・継続性のある指導とは

「一貫性・継続性のある指導」の捉え方について言及する前に、「一貫」と「継続」について、辞書^{※2}での意味について確認することで、研究テーマでの意味が鮮明になると考える。※2 広辞苑より引用

一貫	一筋に貫くこと。一つの考え方ややり方で貫き通すこと。
継続	前の状態・活動がつづくこと。また、受け継いでつづけること。

次に、鹿児島県総合教育センター平成 25 年度研究紀要「特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究 ―知的障害のある児童生徒の pdca サイクルに基づいた授業づくりを目指して―」での一貫性・系統性のある指導について整理されたものを引用する。本校は系統性ではなく継続性のある指導であるが、ここではその違いを考える参考とする。

一貫性のある指導	一人一人の教育的ニーズや指導内容・指導方法などを明らかにし、指導者間及び学部間などで共有して指導すること
系統性のある指導	一人一人の指導目標や指導内容を、各教科の目標や内容、発達の段階や生活経験、生活年齢などを踏まえて指導すること

これらのことや「Ⅱ 研究テーマ設定の理由」で述べられた項目から、本校では「指導の一貫性・継続性」を以下のように確認したい。

一貫性のある指導	心理検査（知能検査）、チェックリスト、行動観察、保護者とのミーティング（家庭訪問）を基にしたデータをケース会にて複数の職員で分析（解釈）し、得られた <u>個別の教育的ニーズ</u> に向かって児童生徒に <u>関係する者が手立てやかかわり方を共有して</u> 指導すること ----- <本校での実施場面> 保護者とのミーティング、学園との担当者会、ケース会、学部会、授業前ミーティングなど
継続性のある指導	個別の教育支援計画、個別の指導計画やその他の引継資料を活用し、 <u>学年や学部が変わっても手立てやかかわり方を受け継ぎながら</u> 、新たな（次のステップの） <u>個別の教育的ニーズ</u> に向かって指導していくこと。 ----- <本校での実施場面> 担任間引継、個別の教育支援計画、個別の指導計画、通知表（あゆみ）、指導要録など

IV 研究の詳細

1 研究の目的

今年度における研究の目的を次のように整理した。

- (1) 個別の教育的ニーズのある児童生徒に対して、アセスメントを通した一貫性・継続性のある指導を行えば、一人一人の社会参加と自立につながるることについて、実践を通して明らかにする。
- (2) 対象児童生徒を決め、国語、算数・数学のチェックリストを複数の視点（学部ごとの小グループ）から分析（解釈）することを通してアセスメントの一連のプロセスについて実践し、職員の特別支援教育に関する専門性を高める。

2 研究仮説

個別の教育的ニーズのある児童生徒に対する、一貫性・継続性のある指導において、次の3点に着目して指導を行えば、一人一人の社会参加と自立につながるのではないかと。

- 1 標準化された心理検査（知能検査）を利用したアセスメントによる指導実践
- 2 本校チェックリストを活用したアセスメントによる指導実践
- 3 研究授業、授業検討会で明らかになった評価や改善点（指導結果）を利用したアセスメントによる指導実践

また、アセスメントの一連のプロセスを行うことで職員の特別支援教育に関する知識・技能の向上へつながるのではないかと。

3 研究の構想

研究仮説で示された手立ての工夫から、実際の研究構想の柱は次のようになる。（図3）

- 1 標準化された心理検査（知能検査）でのアセスメントに基づく指導を行う。
- 2 本校チェックリストによるアセスメントに基づく指導を行う。
- 3 研究授業、授業検討会の評価や改善点（指導結果）をアセスメントに利用し、指導を行う。

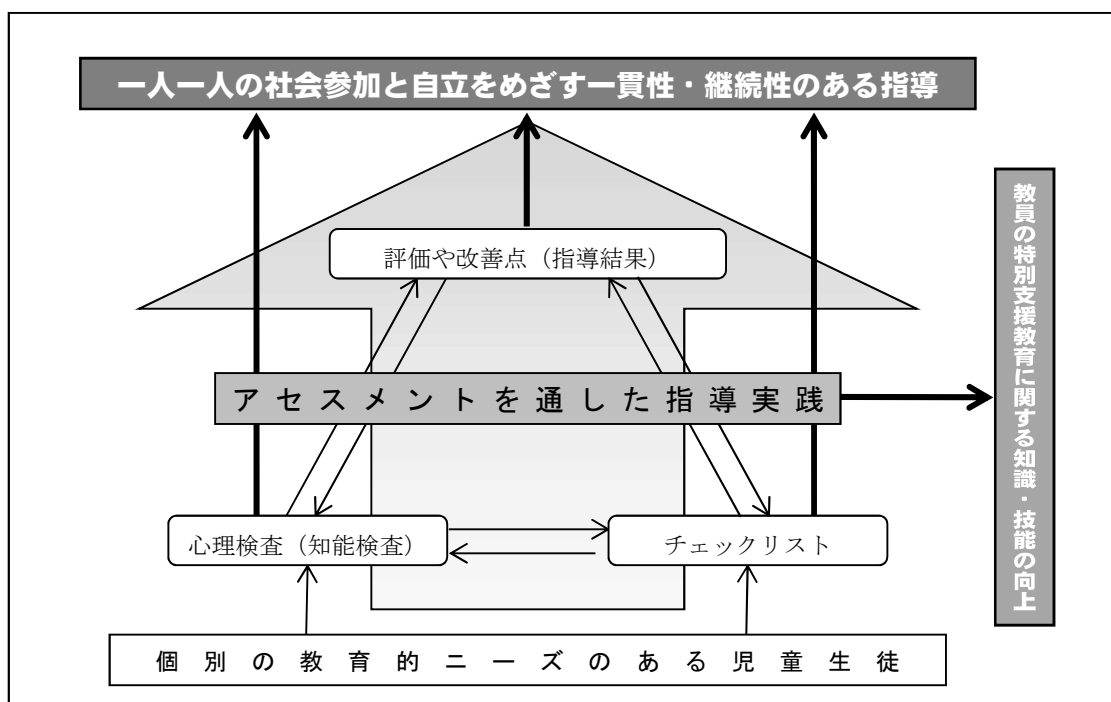


図3 研究構想図

4 研究の方法

「一人一人の社会参加と自立をめざす」については、家庭訪問、保護者とのミーティング、学園との担当者会などから得られた個別の教育的ニーズを学校教育目標や各学部の教育目標の視点を踏まえて、設定、指導、評価する。(個別の教育支援計画及び個別の指導計画にて作成)

「一貫性・継続性のある指導」については、心理検査（知能検査）、チェックリスト及び行動観察等によって得られたデータを①複数の職員で分析（解釈）し、目標を設定し、手立てを考え、②日々の授業や研究授業で実践し、③授業検討会や学期の反省から評価や④改善点を見出すアセスメントの一連のプロセス（①→②→③→④）を行う。



また、昨年度までの取組である「ワークショップ型の授業検討会を用いた PDCA サイクル」の定着化を図るため、授業実践を用いた研究を進める。さらに、本校の財産である「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」及び「チェックリスト」を複数の職員で実践をとおして使用することで、一貫性・継続性のある指導においての問題点や改善点を見出す。

これらのことから、研究テーマの捉え方や進め方の共通理解を図る全体研究とアセスメントの一連のプロセスを学部の実情に合わせて実施する学部研究に分ける。また、研究テーマからその検証や問題点を改善するためには複数年の研究が必要だと考えられ、平成 26～28 年度の 3 年間の計画とする。

(1) 全体研究

「一人一人の社会参加と自立」、「一貫性・継続性のある指導」についての捉え方、研究テーマ設定の視点、研究の進め方について全体で共通理解する。また、チェックリストの具体的な活用法について研修を行う。

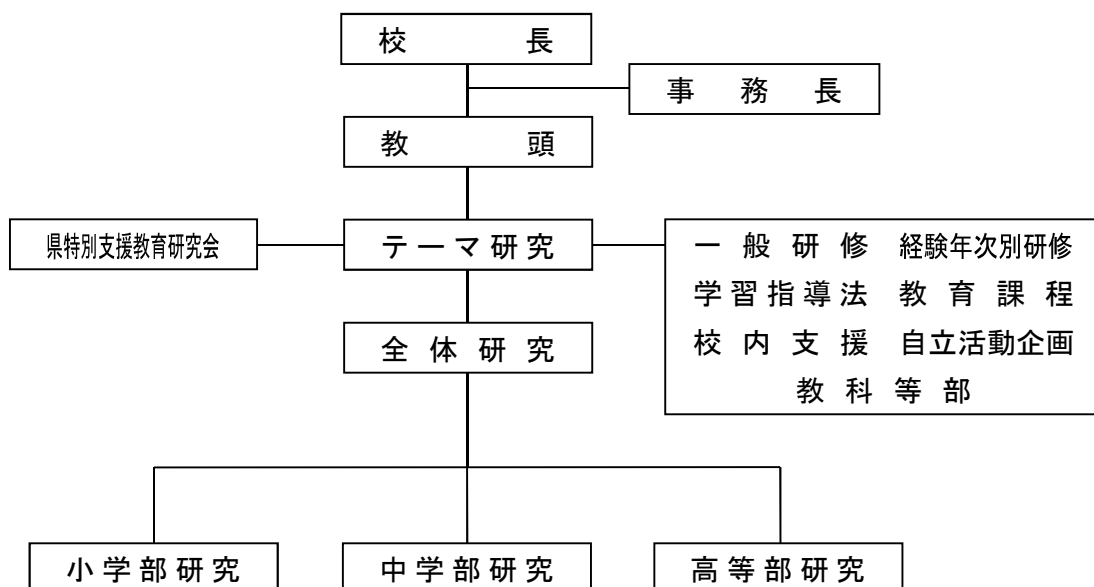
研究の始めと終わり（6月と1月）に職員にアンケートを実施し、意識の変化や取組状況の比較から成果と課題、来年度の方向性を見出す。

各学部の研究内容について紹介する「実践報告会」を設定する。

(2) 学部研究

国語、算数・数学に教科をしぼり、対象児童生徒を設定し、心理検査（知能検査）やチェックリストからのデータを複数の職員で分析（解釈）、目標設定、評価、改善を行う。このアセスメントの一連のプロセスを学び合うことで職員の特別支援教育に関する専門性の向上へつなげる。

5 研究組織



6 研究の流れ(計画)

【平成 26 年度 (1 年次)】

月	日	曜	主な研究内容		形態
5	2	金		今年度の研究テーマについて職員アンケート	
	29	木	テーマ研究①	今年度のテーマ研究について 今年度の研究計画について アンケート, 校長先生から	
6	12	木	テーマ研究②	研究テーマの捉え方 「一人一人の社会参加と自立」とは 「一貫性・継続性のある指導」とは 研究テーマの検証方法, 進め方について チェックリストの活用法～国語, 算数・数学～ 研究検証用アンケート	全体
	26	木	テーマ研究③	各学部での進め方について (メンバー構成) 研究授業, 授業検討会の実施期間, 進め方について 様式について	各学部
7	10	木	テーマ研究④	対象児童生徒を設定し, 国語, 算数・数学のチェック リストを中心に分析 (解釈) を複数の意見を交えながら 行う。	各学部
8	28	木	テーマ研究⑤		
9	25	木	テーマ研究⑥	明らかになった目標やそれに対する手立てを研究授業 にて検証し, ワークショップ型の授業検討会では改善点 へつなげる。	各学部
	30	火		授業参観, 授業検討会一覧表 掲示, 配付	
10	16	木	テーマ研究⑦	原則として, テーマ研究の時間を使用し, 授業検討会 を行う。 進捗状況を中間報告会, アセスメントの一連のプロセ スを実践報告会などとして設定してもよい。	各学部
11	13	木	テーマ研究⑧		
	18	火		県特別支援教育研究大会(大島大会)	
12	4	木	テーマ研究⑨	各学部での研究のまとめ 成果と課題, 来年度へ向けて	各学部
1	20	火		各学部の研究のまとめ 原稿提出	
	22	木	テーマ研究⑩	研究(成果と課題)の発表 (小・中学部, 高等部) 質疑応答, 研究検証用アンケート	全体
	28	水		平成 26 年度 「研究のまとめ」起案	
2	12	木	テーマ研究⑪	研究(成果と課題)の発表 (全体) 来年度の研究について, アンケート 校長先生から	全体
	18	水		「研究のまとめ」丁合, 発送, HP へアップロード	

V 全体研究

1 研究テーマ

研究テーマの意味(捉え方)や研究の計画について説明を行った。研究テーマは学校教育目標, 学校経営方針の重点取組事項, 職員アンケートなどから設定したため, 一定の理解が得られたと考える。しかし, 「一人一人の社会参加と自立」, 「一貫性・継続性のある指導」の捉え方(定義)については, 言葉の整理ができていなかったり, 全体で議論する時間を十分に設定できなかったりしたため, 職員の「共通言語」としての機能するまでには至らなかった。

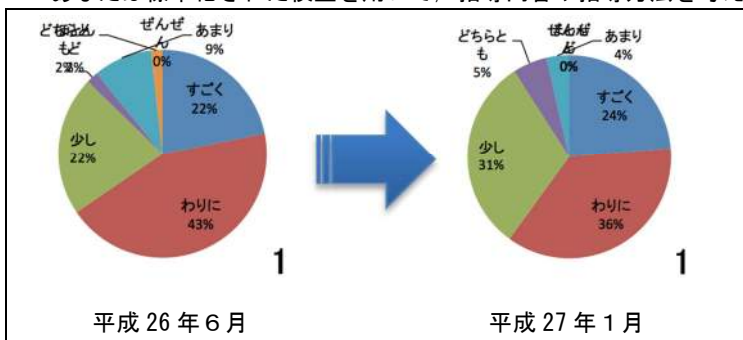
アセスメントの一連のプロセス(今年度は国語, 算数・数学にしぼり, チェックリストを活用して学び合うことに重点を置いた)については, 中学部でのチェックリストを活用した分析(解釈), 授業づくりについて, 実践例を紹介してもらい, 全体研修の場が設定でき, 「アセスメント」のイメージを具体的にすることにつながった。

これらのことは, 職員アンケート(平成 26 年 6 月, 平成 27 年 1 月実施)からも明らかである。

2 研究検証用アンケートの結果

研究の始めと終わり（6月と1月）に意識の変化や取組状況の比較から成果と課題、来年度の方向性を見出すため職員に研究検証用アンケートを実施した。その結果（全体）を以下に示す。研究検証用アンケートは、「すごく」、「わりに」、「少し」、「どちらとも言えない」、「あまり」、「ほとんど」、「ぜんぜん」の7段階評価で行った。

1 あなたは標準化された検査を用いて、指導内容や指導方法を考えたり実践したりしようと思いませんか。

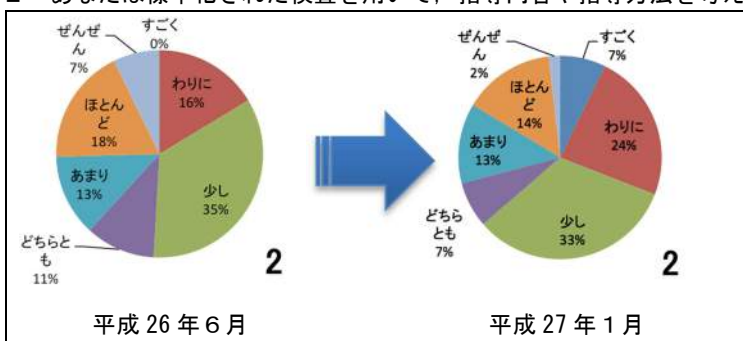


【結果】

「すごく」、「わりに」、「少し」を合わせるとどちらも 85% を越えることから、元々本校職員の意識（思い）は高い。

2 回目では「すごく」、「わりに」、「少し」の割合が更に増加し 90% を越えた。

2 あなたは標準化された検査を用いて、指導内容や指導方法を考えたり実践したりしていますか。

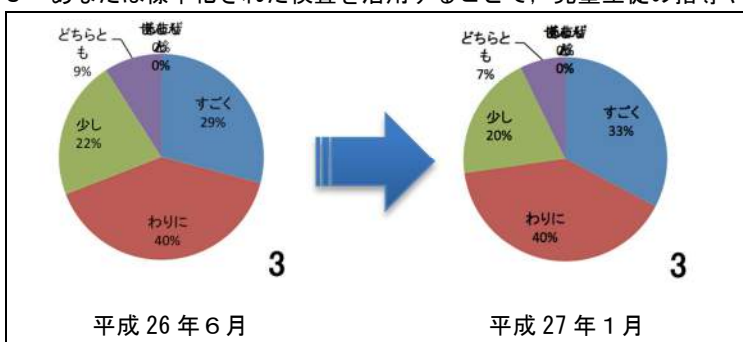


【結果】

「すごく」の割合が 0% から 7% へ、「わりに」の割合が 8% それぞれ増加した。

「あまり」、「ほとんど」の割合は、ほとんど変化がなかったが、「ぜんぜん」の割合は減少している。

3 あなたは標準化された検査を活用することで、児童生徒の指導や授業に還元されると思いませんか。

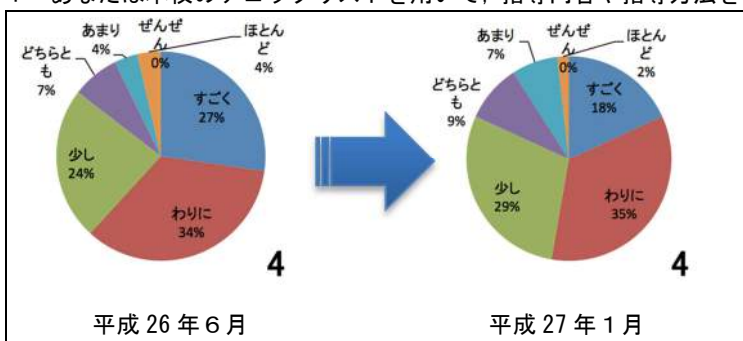


【結果】

「すごく」、「わりに」、「少し」を合わせるとどちらも 90% 以上であることから、元々本校職員の認識は高い。

いずれも「あまり」、「ほとんど」、「ぜんぜん」の評価はない。

4 あなたは本校のチェックリストを用いて、指導内容や指導方法を考えたり実践したりしようと思いませんか。

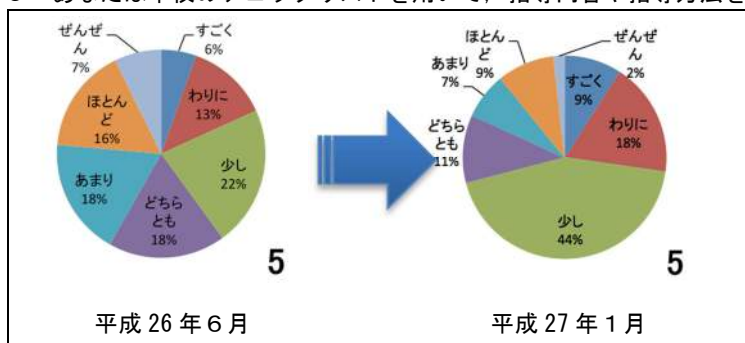


【結果】

「すごく」、「わりに」、「少し」の割合は元々高かったが、2 回目には 3% 減少した。

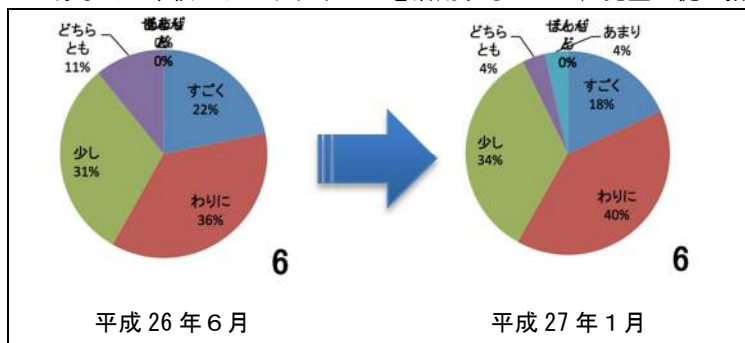
2 回目では「すごく」、「あまり」、「ほとんど」が減少し、「わりに」、「少し」の割合が増加した。

5 あなたは本校のチェックリストを用いて、指導内容や指導方法を考えたり実践したりしていますか。



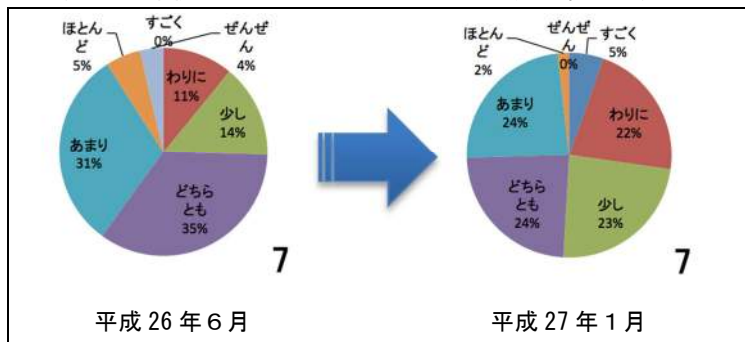
【結果】
 1 回目の「すごく」、「わりに」、「少し」の割合は 41% だったものが、2 回目には 70% を越えた。
 2 回目では「少し」の割合が 22% 増加し、「どちらとも」、「あまり」、「ほとんど」がいずれも減少した。

6 あなたは本校のチェックリストを活用することで、児童生徒の指導や授業に還元されると思いますか。



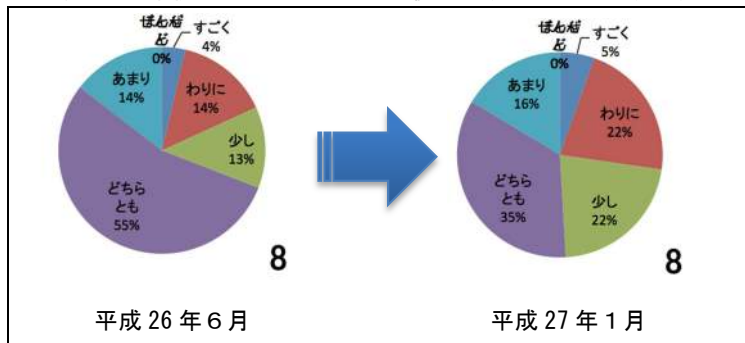
【結果】
 「すごく」、「わりに」、「少し」の割合を合わせると、いずれも 90% 弱である。
 2 回目では、「あまり」が 4% 現れている。

7 あなたは本校のチェックリストが活用しやすい環境にあると思いますか。



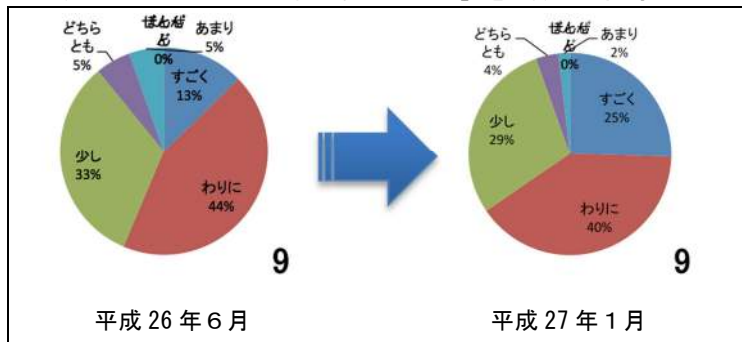
【結果】
 「わりに」、「少し」を合わせて 20% だったものが、2 回目には、「すごく」が現れ、「わりに」、「少し」を合わせると 50% まで増加した。
 2 回目では「どちらとも」、「あまり」、「ほとんど」、「ぜんぜん」が減少した。

8 あなたは本校のチェックリストが使いやすいと思いますか。



【結果】
 2 回目の「どちらとも」、「あまり」を合わせると 51% であった。
 「すごく」、「わりに」、「少し」を合わせて 31% だったものが、2 回目には、49% に増加したが、50% 以上には至っていない。

9 あなたは「一人一人の社会参加と自立」を意識して指導に当たっていますか。

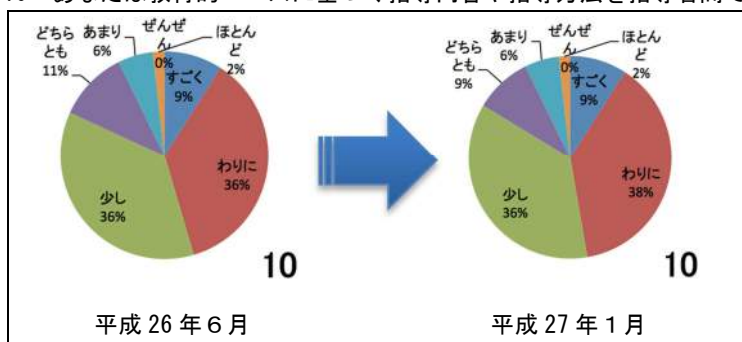


【結果】

「すぎく」、「わりに」、「少し」の割合を合わせるといずれも 90% を越え、2 回目には 94% まで増加している。

2 回目では「どちらとも」、「あまり」の割合が減少した。

10 あなたは教育的ニーズに基づく指導内容や指導方法を指導者間で共有して指導に当たっていますか。

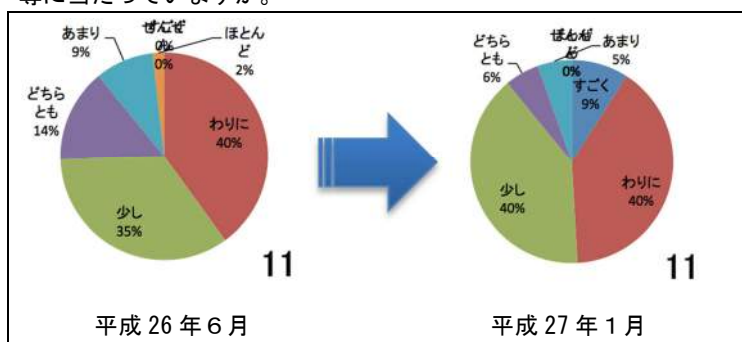


【結果】

「すぎく」、「わりに」、「少し」の割合を合わせるといずれも 80% を越えている。

2 回目では「どちらとも」が減少したが、「あまり」、「ほとんど」には変化がなかった。

11 あなたは教育的ニーズに基づく指導目標や指導内容を各教科の目標や発達の段階、生活年齢を踏まえて指導に当たっていますか。



【結果】

元々「わりに」、「少し」を合わせて 75% あったが、2 回目では、「すぎく」が現れ、「わりに」、「少し」を合わせると 89% まで増加した。

また、2 回目では「どちらとも」、「あまり」が減少し、「ほとんど」の割合がなかった。

3 研究検証用アンケートから考えられること

- 標準化された検査やチェックリストの結果を用いて、指導内容や指導方法を考えたり実践したりしようと思う職員の割合は「すぎく」、「わりに」、「少し」を合わせるといずれも 80% を超えていることから、元々職員の思いは高く、研究後も維持している。
- 標準化された検査やチェックリストを活用することが児童生徒の指導や授業に還元されると思う職員の割合は「すぎく」、「わりに」、「少し」を合わせるといずれも約 90% であり、その有効性を実感（期待）している職員は多い。
- 標準化された検査やチェックリストの結果を用いて、指導内容や指導方法を考えたり実践したりする職員の割合は、いずれも 2 回目で上昇しており、テーマ研究での取組の結果が数値でも現れている。
- チェックリストについて、保存場所（方法）の変更があり、「すぎく」、「わりに」、「少し」活用しやすい環境にあるという数値が上昇した。しかし、使いやすさ（内容）については、数値の上昇があまりなかったことから改善が求められている。

4 授業参観や授業検討会で使用した掲示物

昨年度までの取組を継続するために、①授業提供の事前のお知らせ、②研究授業での参観の視点、③マトリクスシート、④付せん紙記入上の留意点、⑤授業検討会でのねらいとルールを「目に見える形」として掲示物を作成した。このことにより、授業者や発表者の不安（負担）を減らし、話し合い等でのハード面の整備をねらった。

① 授業提供の事前のお知らせ (A 1 サイズに拡大印刷し、職員室に掲示)

5分の参観が 1枚の付せんが

授業者の「やってよかった」につながります。

一貫性・継続性のある指導へ あなたの意見が必要です!



テーマ研究 授業参観・授業検討会実施日一覧

授業参観 日時・場所	授業者	教科(題材名)	授業検討会 日時・場所
10月2日(木)5校時 高等部1年1組	有満 勝利 教諭	数学 「金銭」	10月2日(木)16:00～ 高等部棟 縫製室
10月7日(木)5校時 高等部2年6組	小野 恭一 教諭 久保香菜子 教諭	自立活動 「国語,数学の視点を含む指導」	11月13日(木)16:00～ 「全体報告会」
10月8日(水)2校時 小学部1年1組	中村かおり 教諭 中水 教仁 教諭	国語 「童話・物語」	10月8日(水)16:00～ 小学部学部室
10月10日(金)2校時 小学部3・4年1組	竹崎 浩記 教諭 松元 真紀 教諭	国語 「童話・物語」	10月16日(木)16:00～ 小学部3・4年1組
10月14日(火)4校時 高等部2年4組	里 康一郎 教諭	数学 「金銭」	11月13日(木)16:00～ 「全体報告会」
10月14日(火)5校時 高等部2年3組	濱田千代美 教諭 榊 慶太郎 教諭	国語 「物語」	
10月14日(火)5校時 高等部2年4組	島田 理香 教諭 北原 貴志 教諭	国語 「正しい文を作ろう」	
10月14日(火)5校時 高等部2年5組	岩元 美紀 教諭 前原 修一 教諭	数学 「金銭」	
10月15日(水)2校時 小学部星1組	藤尾 友香 教諭	算数 「お金」	10月16日(木)16:00～ 小学部星1組
10月15日(水)2校時 中学部2年1組	小倉 寿彦 教諭	数学 「形」	10月16日(木)16:00～ 音楽室
10月16日(木)5校時 中学部3年3組	墓本 武志 教諭 川村雄一郎 教諭	国語 「童話・物語」	10月16日(木)16:25～ 音楽室
11月11日(火)2校時 中学部棟 作法室	徳重 浩二 教諭 馬場 真理 教諭 栄 華子 教諭	国語, 数学 「生徒の実態に応じて取 り組む通年の題材」	11月13日(木)16:25～ 音楽室
11月12日(水)2校時 中学部3年2組	平 世理奈 教諭 板敷 大和 教諭	数学 「金銭」	11月13日(木)16:00～ 音楽室
11月18日(火)2校時 中学部1年1組	高野 博一 教諭 他中学部教諭3名	国語 「かるたを作ろう」	県特研にて実施

県立大島養護学校 テーマ研究係

② 研究授業での参観の視点 (マトリクスシートと一緒に掲示)

テーマ研究での授業参観の視点

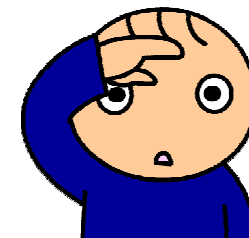
本時の個人目標に対する

実態把握を中心とした分析・解釈について

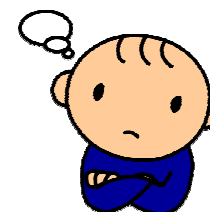
目標達成のための手立てについて

本時の授業に対する

自分たちの学部とのつながり (指導の一貫性・継続性) について



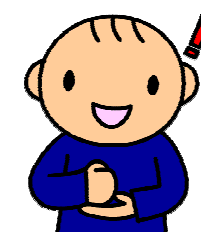
この視点で
授業研究



授業の成果をアセスメントへ!

分析や解釈, 目標やその手立てを見直し→変更

指導の一貫性・継続性を考える (整理する)



③ マトリクスシート（A 1 サイズに拡大印刷し，授業提供の教室入口等に掲示 付せん紙をはるので，繰り返し使用できる）

授 業 参 観 マ ト リ ク ス シ ー ト

	良かったところ	気になったところ	改善点や意見
導 入			
展 開			
終 末			

④ 付せん紙記入上の留意点（マトリクスシートと一緒に掲示）

ワークショップ型授業研究のために**付せん紙記入の際には、以下の点に御留意ください**

- 1 文字は濃く，大きく書く。**
- 2 具体的な事実を単文で記入する。**
- 3 1枚に1項目ずつ記入する。**
- 4 それぞれの立場，専門性だからこそ出せる観点で記入する。**

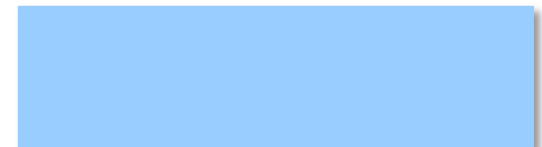
④ 付せん紙記入上の留意点 (マトリクスシートと一緒に掲示)

付せん紙は 3 色に分けてあります

「良かったところ」 →



「気になったところ」 →



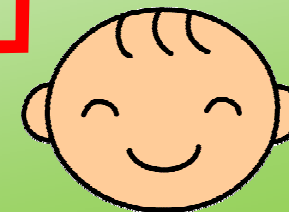
「改善策や意見」 →



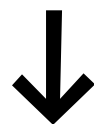
⑤ 授業検討会でのねらいとルール（授業検討会の会場で掲示し、司会者は声に出して読み、参加者全員で確認をする）

授業者が「**やってよかった**」

と思える授業研究を！



互いに改善策やアイデアを提案し合うものが
ワークショップ型の授業研究



“**授業者の支援会議**”

⑤ 授業検討会でのねらいとルール（授業検討会の会場で掲示し、司会者は声に出して読み、参加者全員で確認をする）

ワークショップ型授業研究 3つのルール

- 1 授業者を支援することを目的とする。**
- 2 テーマ（観点）に関して、専門的な知識がある／ない、詳しくないといった基準や意見は持ち出さない。**
- 3 授業者を批判しない。“もし自分が授業するなら”，“もし自分が授業者なら”といった視点で意見交換を行う。**

小学部研究



小学部 国語「童話・物語」

小学部研究

VI	小学部研究	21
1	研究テーマ	
2	研究の流れ（計画）	
3	研究組織	
4	研究の実際	
	Aグループ（全体像を捉えるためのアセスメントシート，指導案，取組のまとめ）	22
	Bグループ（全体像を捉えるためのアセスメントシート，指導案，取組のまとめ）	32
	Cグループ（全体像を捉えるためのアセスメントシート，指導案，取組のまとめ）	36
5	研究のまとめ	40

VI 小学部研究

1 研究テーマ

一人一人の社会参加と自立をめざす一貫性・継続性のある指導
～アセスメントを利用した指導を中心に（1年次）～

2 研究の流れ(計画)

月	日	曜日		内 容	形 態
5	29	木	テーマ研①	今年度のテーマ研について	全 体
6	12	木	テーマ研②	研究テーマについて	全 体
6	26	木	テーマ研③	小学部の研究の進め方について①	学 部
7	10	木	テーマ研④	小学部の研究の進め方について②	学 部
夏季休業				対象児童の担任：チェックリストの記入	
8	28	木	テーマ研⑤	グループ内分析①（様式1 1枚目を中心に）	グループ
9	4	木	小テーマ研①	グループ内分析②（様式1 2枚目を中心に）	グループ
	17	水	小テーマ研②	中間報告会 ・どのようにアセスメントをしたか ・どんな課題が出たか ・意見交換	学 部
9	25	木	テーマ研⑥	課題解決に向けた授業作り・略案作成 （グループごとに授業日を決める）	グループ
10	8	水	小テーマ研③	Aグループの授業研究〈中村かTのS研〉 （出てきた課題に対するアプローチはどうだったか 目標設定は正しかったか）	学 部
10	16	木	テーマ研⑦	B・Cグループの授業研究 （出てきた課題に対するアプローチはどうだったか 目標設定は正しかったか）	グループ
11	13	木	テーマ研⑧	実践報告会 ・目標設定の理由、手立ての工夫 ・実際に授業をしてみて、今後の課題	学 部
12	5	金	テーマ研⑨	研究のまとめ	グループ
1	22	木	テーマ研⑩	研究の発表①（小・中学部）	全 体
2	12	木	テーマ研⑪	研究の発表②（高等部） 来年度の研究について	全 体

3 研究組織

グループ	対象児	教科	研究メンバー	研究内容
A	A	国語	中村か, 中水, 飛永, 平ち, 東あ, 塗木	グループで対象児を1名決め、アセスメント実施。グループで実態を理解したり、実態から考えられる目標を決定したり、必要な支援を考えたりする。 なお、研究授業を実施する教科は国語か算数にしぼる。
B	B	国語	竹崎, 松元, 大漣, 嘉村, 尾前, 団塚	
C	C	算数	藤尾, 實島, 原, 板坂, 寺下	

4 研究の実際

【Aグループ】 対象児童Aの全体像を捉えるためのアセスメント 様式1 (1/2)

願 い

- ・できることをひとつでも多く増やす。(保護者)
- ・音感がいいので、音楽で伸ばせることがあればいいと思っている。(保護者)
- ・自分の感じたことを人に伝えることができるようになってほしい。(保護者)
- ・友達との適切な関わり方を身につけてほしい。(教師)
- ・自分のすべきことに集中して取り組むことができるようになってほしい。(教師)

重 点 目 標

- ・食事、排泄、着替え等日常生活動作を身に付けて、身辺処理で自分でできる部分を増やすことができる。
- ・様々なマッチング学習を積み重ね、「できた！」と思える経験を積み重ねていく。
- ・教師や友達と関わりながら、言葉でのやり取りを増やしたり、模倣力を高めたりすることができる。

チェックリスト

国語

聞く 3～4歳レベル 4/6:○

(催促:△)

※興味限定している。

話す 1～2歳レベル 6/7:○

(大きい:○, 二語文:△, 色, 自分の名前:○)

読む 2～3歳レベル 5/8:○

(筋のある絵本:△)

書く 1～2歳レベル 3/3:○

(丸をまねてかく:○)

算数

数と計算 1～2歳レベル 2/2:○

(5までの数唱:○)

量と測定 0～1歳レベル チェック困難

(熱い・冷たい:○, チャイムに関心をもつ:○)

図形 2～3歳レベル 3/5

(円, 三角, 四角が分かる:△, 直線をまねてかく:△)

数量関係実務 2～3歳レベル 3/4:○

(長い・短い:△)

行動観察・実態

- ・情緒は安定しており、いろいろな活動に教師と一緒に取り組むことができる。
- ・大人でも子供でも、他者と関わることが大好きである。
- ・いたずらをして友達が嫌がると、その反応を面白がり、余計に相手を怒らせようとすることがある。
- ・人がしていることや持っているものが気に入り、反射的に手がでることがある。
- ・集団活動にも楽しんで参加することができる。
- ・写真を見ることが好きであり、教室や廊下に掲示されている写真をじっくり見たり、一人一人指差して教師に名前を言ってもらったりすることを楽しむ。
- ・色の理解が高く、教師が示した色や学校生活の中で見つけた色など声に出して発することができる。
- ・クレヨンやペンを使って描く活動を好み、いろいろな色を使って紙いっぱいにながり描きをすることができる。
- ・一つの活動への持続性が低く、興味も移りやすいため、気になったことがあると、すべきことを終わらせないうちに別の活動を始めてしまうことがある。
- ・自分や友達の名前をよく理解していて、名前を呼ばれると大きな声で返事をするができる。
- ・教師が1対1で説明することはほぼ理解できている。
- ・語彙数は多くはないが、嫌な時は「いや」と言ったり、欲しいものを単語で言ったりと気持ちを言葉で伝えることができる。
- ・歌が好きでいろいろな歌を歌うが、言葉がうまくでないため、鼻歌のようになっている。
- ・それまで行っていた活動に飽きたり、違うことがしたくなったりしたときに、尿意はなくても「おしっこ」と言ってその場から離れようとするがある。

標準化された発達・知能検査

+α

- ・昨年度から発語が見られるようになった。
- ・友達が丸を書く姿を見て、真似て書くようになった。
- ・2学期になって、はっきりした言葉が増えてきた。例:「○○先生」「髪の毛」「汚い」
- ・二語文が出つつある。
例:「いっしょにいく」「牛乳ください」
- ・相手を意識した言葉で誘うことができた。
例:「きて」

対象児童Aの全体像を捉えるためのアセスメント 様式1 (2/2)

得意なところはなんですか？

- ・人とのやりとりや人と関わることが好き
- ・音感がよい
- ・好奇心旺盛
- ・歌を介したことや実体験したことは身に付きやすい

それはなぜですか？（背景・理由）

- ・人が好き，人と関わることが楽しい
- ・歌が好きだから学習や活動をイメージしやすく，結びつきやすい
- ・好きな人がやっていることをやってみたい

全体像としての課題

- ・人に伝わりやすい発語の獲得
- ・ものの名前を増やす

教科としての課題

国語 「童話・物語」：知っている言葉を使いつつ，新しい言葉を動作化や模倣することで覚え，達成感や成就感を味わう。

苦手なところはなんですか？

- ・手先に不器用さがある
- ・集中力が続かない，気が散りやすい
- ・写真や映像だけでは意識が向きにくい

それはなぜですか？（背景・理由）

- ・上肢の動きがかたい
- ・好奇心旺盛
- ・興味が限定されている（人，キャラクター）

算数

「お金」：ごっこ遊びの中で，お金の存在を知る。

国語科学習指導案

平成 26 年 10 月 8 日 水曜日 2 校時

指導者 中村かおり (C T) 中水教仁 (S T)

1 題材 「童話・物語」

2 題材について

(1) 題材設定の理由

【児童の実態】

本学級は、知的障害 2 人、ダウン症候群 1 人、自閉症 2 人、計 5 人の学級である。4 月に当初は、学校生活が何もかも初めてで見通しがもてなかつたり、特別教室等に入れなかつたり、落ち着いて活動に取り組むことが難しかった。しかし、繰り返し学習することで見通しをもつことができ、活動に取り組んだり、机上で学習できる時間が少しずつ増えてきたりしている。また一方では、人との関わりの面でとても積極的で、友達の顔をのぞき込んだり、名前を呼んだり、教師の手を引いて好きな遊びを誘ったりする場面が多い。言葉においても、2 語文で伝える児童や自分の知っている単語を使って相手に伝えようとする児童など実態は様々だが、相手を意識する様子が見られる。

今回の題材において、どの児童も絵本がとても好きで、図書室に行って本を読んだり、教師を誘って読んだり、好きなフレーズを口ずさんだり、自ら親しむ様子が見られる。また、学級で繰り返し読んだ本に関しては、休み時間に読んだり、ページをめくったりすることもあることから、非常に興味関心をもって取り組むことができる題材であると考えられる。しかし、2、3 文の簡単な絵本、自分の知っているものが出てくる絵本に関しては、集中して見ることが多いが、ストーリー性のある絵本に関しては、絵だけを楽しみ、じっくり聞いたり、見たりすることが難しい。これは、ものの名前をあまり知らなかつたり、絵本の中の出来事と実体験をつなげられなかつたりするからではないかと考えられる。

【題材の意義・価値】

本題材「童話・物語」は、児童たちの発達段階によって、身近なものが描かれている話から想像性のある話まで、様々な内容が選べることで、児童の実態に応じた物語を取り上げることができる。また、読み聞かせを行った後、動作化をしたり、実体験したりするなど発展的に展開しやすい。さらに、言葉と物や動作を一致することもでき、新しい言葉を知るきっかけになったり、言葉の広がりも促したりすることができる。今回は、三つの物語（「はらぺこあおむし」「さんびきのこぶた」「おむすびころりん」）を教材として使用する。これらは、登場人物が少ないこと、同じ展開が進んでいくこと、話の内容が分かりやすいことから、興味をもって見たり、聞いたりすることができる。考える。

【ねらい】

そこで、本題材では、読み聞かせを通して、絵本に出てきたものの名前やせりふを声に

出して言ったり、動作をしたりして絵本の世界を楽しむことができるようにする。また、絵本に出てきたせりふやものの名前を質問するなどして、新しい言葉を増やしていくことができるようにする。

【指導観（手立て）】

児童の共通する好きな活動内容として、歌や曲が好きなことからCD絵本や手遊び歌がある物語を取り扱うことで興味・関心をもつことができるようにする。一次では、1学期から食べ物に関する絵本で、ものの名前を学習してきたことと関連して、「はらぺこあおむし」の絵本を使って曲に合わせながら、出てきた名前を答えたり、動作化したりする。二次では、手遊び歌がある「さんびきのこぶた」の絵本で、登場人物やせりふを言うようにする。三次の「おむすびころりん」では、小学校音楽の「おむすびころりん」のあらすじに沿った曲を使ってペープサートで物語の世界を楽しんだり、せりふのやりとりを楽しんだりして物語に親しむようにする。

授業では、平仮名に興味をもつことができるように、学習の始めに「あいうえおペープサート」の曲を歌いながら、文字に触れる機会をもったり、曲に合わせて「あ・い・う・え・お」の付くものの名前カードをホワイトボードに貼ってものの名前に親しんだりすることができるようにする。

さらに、絵本を読む前にパネルシアターや手遊び歌を導入で行い、興味関心を高めることができるようにする。歌を歌いながら読むことで、絵本を長い時間見たり、聞いたりすることが難しい児童にも楽しく物語の世界に親しむきっかけになるようにする。

絵本の読み聞かせ後に、再度登場人物を聞いたり、児童参加型の読み聞かせ（繰り返しのせりふを一緒に言う等）を行ったり、話の内容を実体験する活動を展開したりすることで、より物語の世界に入ることができるようにする。次に、ものの名前を知ったり、平仮名の読み書きにつなげたりするために、ワークシート活動を行いながら、絵本の出たきたものの名前を書く、シールで文字のマッチングをする、色塗りをするなど児童の実態に応じた課題を設定する。

【展望】

このような学習を通して、絵本に対する興味・関心が高まり、決まった絵本だけでなく、いろいろな絵本を手にしたたり、読んだりすることができると思う。そして、いろいろな絵本を読むことで、言葉が増え、より相手に伝えたいことを伝えられるようになり、コミュニケーション力が高まり、人との関わりが豊かになると考える。

（2）児童の実態

	絵本への興味・関心	人との関わり	聞く・話す	読む・書く
(男)	<ul style="list-style-type: none"> 自ら図書室に行って本選んで、絵を見て楽しんだり、教師の真似をして紙芝居をめくったりする。 教師に「読んで」と本を持ってくることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 人が好きで、名前を呼んだり、緊張しながらも話しかけたりする。 学級の友達に過度に関わってけんかになることがある。 好きな友達のことが気になり、しなければならぬことも忘れて、友達に関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な指示・要求に応じることができる。 日常生活でよく使っているものや耳にしているものの名前を聞いて分かる。 吃音がある。 自分や友達の名前を言ったり、2語文で話したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を見て、知っているものの名前を言ったり、指差したりする。 読み聞かせが好き。 自分の名前の文字が読める。 数十個、平仮名が読める。 文字のマッチングができる。 なぐり書きをする。

	絵本への興味・関心	人との関わり	聞く・話す	読む・書く
(女)	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室に行って、好きな本を選び、絵を楽しんで見ている。 ・読み聞かせでは、じっと絵本に集中して見ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や周りの人をお世話することが好き。 ・力のコントロールが難しく、過度に関わって、友達を引っ張ったり、押し下げてしまうことがある。 ・知らないところや緊張すると恥ずかしくって、物や教師の側で隠れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・恥ずかしがったり、気分のたたりするまでに時間が掛かるが、簡単な指示・要求に応じることができる。 ・簡単な質問に答えることができるが、不明瞭な言葉も多い。 ・右耳高度難聴だが、日常生活に支障はない。 ・友達や教師と 2 語文で話す。 ・教師口調を真似しながら友達に注意することがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を見て、知っているものの名前を言ったり、指差したりする。 ・読み聞かせが好き。 ・自分の名前の文字が読める。 ・数十個、平仮名が読める。 ・文字のマッチングができる。 ・筆圧は薄いですが、ゆっくり文字を見ながら、なぞろうとする。
対象児童 A (女)	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本は好きで、教師に「読んで」と本を持ってくるが、ページをめくって雰囲気を楽しみ、じっくり見たり、読んだりすることは少ない。 ・簡単に身近な絵本(食べ物)は、じっと見たり、指差して名前を言ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人が好きで、誰でも手を引いたり、声を掛けたりする。 ・友達の動きをよく見て、観察して、その後真似する。 ・友達の名前を呼んだり、困るようなことをしたりして反応を楽しむ。 ・友達の顔を見て、名前を伝えたり、簡単なやりとりしながら教師に伝え満足する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で耳にしている簡単な指示や要求に応じることができる。 ・日常生活でよく使っているものの名前は分かる。 ・イントネーションを模倣して伝える。 ・日常生活でよく使う言葉は、はっきりした言葉で伝えることができるようになってきつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知っているものが出てくるとじっと見たり、指差したりする。 ・自分の名前の頭文字がなんとなく分かる。 ・友達の名前の文字を読んでとせがむ。 ・2 択でマッチングができつつある。 ・なぐり書きをする。
(女)	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら図書室に行って、好きな本を選び、絵をみて楽しむ。 ・特に最近、「バムとケロ」シリーズにはまっている。 ・1 学期、国語で取り扱った絵本(食べ物に関する絵本)は、休み時間に何度も見ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人の時間が好きだが、友達の顔をのぞき込んだり、髪の毛を触って楽しんだりすることがある。 ・友達にして欲しい行動があると、名前を言って欲しい行動を伝えたり、世話したり、注意したりする。 ・苦手な活動や見通しがもてないときは、怒って教師に伝えてくるが、終わる時間や流れを書くと少し落ち着く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な指示や要求に応じることができるが、自分の意に沿わないと納得しない。 ・日常生活で耳にしているものの名前は分かる。 ・知っている言葉を組み合わせて伝えようとする。 ・知らない言葉でも一回教えると覚えて使うことができる。 ・友達や教師に 2 語文で話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を見て、知っているものの名前を言ったり、指差したりする。 ・読み聞かせが好き。 ・自分の名前の文字が読める。 ・数十個、平仮名が読める。 ・文字のマッチングができる。
(女)	<ul style="list-style-type: none"> ・療育施設で読んだ本で、特に印象に残っているものは、繰り返しの言葉を覚えて言ったり、何度もページをめくって楽しんだりしている。 ・簡単に身近な絵本(食べ物)は、じっと見ている。 ・1 学期、国語で読んだ本(食べ物に関する絵本)は好きで自分で手にして絵を見ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男の人が少し苦手で、女の人との関わりを求める。 ・ボールや追いかけごっこ、歌を通して人と関わることができる。 ・レポートが取れると自分から遊びに誘ったり、集団活動に参加したり、簡単な指示にも応じることができる。 ・気持ちが落ち着くまで待つて次の行動を促すとスムーズに行くこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活でよく耳にしている簡単な指示や要求に応じようとすることができる。 ・普段使っているものの名前は知っているが、限られている。 ・落ち着いていると音声模倣できる。 ・自分の知っている単語で相手に伝えたり、繰り返し教えた言葉は覚えて、使おうとしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知っているものが出てくるとじっと見たり、興味をもつと絵本を手にとったりする。 ・なぐり書きや丸を描く。 ・教師が指差しを行うことでマッチングしようとする。

3 題材の目標

(1) 全体目標

○登場人物の名前や出てきたせりふを言うことができるようにする。

(2) 個人目標

	○読み聞かせの際に、教師と一緒に出てきたせりふを言うことができるようにする
	○登場人物を答えることができるようにする。
A(対象児童)	○絵を見て、出てくるものの名前を答えることができるようにする。
	○読み聞かせの際に、教師と一緒に出てきたせりふを言うことができるようにする。
	○物語の曲を口ずさんだり、絵本に興味をもってページをめくろうとすることができる。

4 指導計画

次	主な学習活動・内容	時数	資料・準備
一	1 「はらぺこあおむし」の物語に親しもう ・ 歌を通して「はらぺこあおむし」のあらすじを知ったり、食べたもの確認したりする。 ・ 歌に合わせて、「はらぺこあおむし」が食べた絵カード（月曜日から金曜日）（土曜日）を選び、はらぺこあおむし（模型）に入れる。	4	絵本 ぬいぐるみ（はらぺこあおむし） 食べ物カード はらぺこあおむし（模型） CD プリント
二	2 「三匹のこぶた」の物語に親しもう ・ 手遊び歌を通してあらすじを知る。 ・ 登場人物を知ったり、動作化して物語に親しんだりする。	4 / 4 (本時)	絵本 パネルシアター ぬいぐるみ 家（わら、木、れんが）の模型 プリント
三	3 「おむすびころりん」の物語に親しもう ・ 歌を通して「おむすびころりん」のあらすじを知る。 ・ 登場人物を知ったり、動作化や疑似体験を行い物語に親しんだりする。	4	絵本 ペーパースート おにぎり（模型） CD プリント

5 本時の学習（4 / 4）

(1) 全体目標

- 「三匹のこぶた」の物語を通して、登場人物を答えたり、「いれて」や「ふー」のせりふを言ったりすることができる。

(2) 個人目標

	○読み聞かせの際、教師の促しによって「いれて」と自ら言うことができる。
	○「だれがでてきたか」の質問に答えることができる。
A (対象児童)	○絵を見て「ぶた」「おおかみ」「いえ」を答えることができる。
	○読み聞かせの際、教師の促しによって「いれて」と言うことができる。
	○教師と一緒に絵本をめくったり、絵カードを見て「ぶた」と教師と一緒に言ったりすることができる。

(3) 指導及び支援にあたって

本学級は、注視が難しかったり集中力が持続しなかったりするため45分間の机上での学習は難しい。よって児童が落ち着いて学習できている朝の会や帰りの会の隊形（ホワイトボード周辺に椅子を並べ学習する隊形）を教科にも取り入れることで、落ち着いて取り組んだり、教師や提示されたものに注目しやすいようにしたりして学習に取り組むようにする。

また、1時間の学習の流れをパターン化し、（導入で始めの挨拶、学習の流れ確認、展開で平仮名歌、絵本の読み聞かせや手遊び歌など、操作活動、プリント学習、終末で、頑張ったこと、終わりの挨拶）繰り返すことで児童らが見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。

パネルシアターを読み聞かせの前に行うことで、活動に注目したり、物語のあらすじを捉えたりすることができるようにする。また、読み聞かせの際は、声の強弱や速さを変えたり、読み方を工夫したりして児童らの表情を見ながら児童のつぶやきを拾うようにする。

児童らが絵本の中のせりふを自分から声に出したり、動作を真似したりすることができる

るように、「さんびきのこぶた」の歌を歌いながら、おおかみのぬいぐるみを使っておおかみになりきってせりふを言ったり、それぞれの家の模型を提示し、おおかみが家を吹き飛ばす場面を実際に行ってみたりする。さらに、どの場面で誰が行うのか分かるように場面カードには児童の写真カードを提示する。

プリント学習では、児童の実態に応じた内容を精選して提示することで見通しをもちながら、取り組むことができるようにしたり、友達の書いたプリントを見たり、聞いたりして頑張りを賞賛するようにする。

(4) 実際（次のページ参照）

(5) 評価

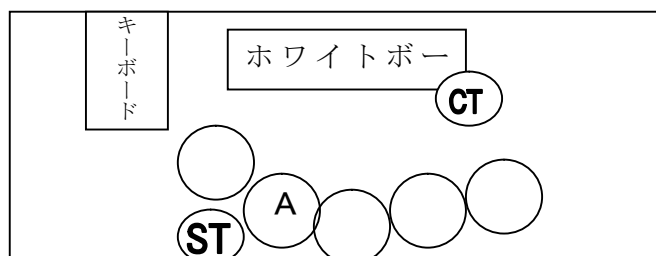
ア 全体目標

「三匹のこぶた」の物語を通して、登場人物を答えたり、「いれて」や「ふー」のせりふを言ったりすることができたか。

イ 個人目標

	○読み聞かせの際、教師の促しによって「いれて」と自ら言うことができたか。
	○「だれができたか」の質問に答えることができたか。
A(対象児童)	○絵を見て「ぶた」「おおかみ」「いえ」を答えることができたか。
	○読み聞かせの際、教師の促しによって「いれて」と言うことができたか。
	○教師と一緒に絵本をめくったり、絵カードを見て「ぶた」と教師と一緒に言ったりすることができる。

(6) 場の設定



(4) 実際

過程	学習内容	指導及び支援状の留意点			
		A			
導入 5分	1 始めの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2時間目の学習へ気持ちを切り替えることができるようにCDを流し、気持ちを高めることができるようにする。 ・ 良い姿勢ができていない児童を賞賛し、背中を伸ばした状態で挨拶ができるように促す。 			
	2 学習の流れを確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様子を見ながら着席するように言葉掛けをしたり、手をつないで席へ誘導したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶のジェスチャーを大きく行い、一緒に行うように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恥ずかしい気持ちを受け止めながら、一緒に挨拶ができるように言葉掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上手にできているところを賞賛したり視線を合わせて、挨拶のジェスチャーを一緒に行う。 ・ 言葉掛けを行いながら、挨拶のジェスチャーを促す。
展開 35分	3 「あいうえおペーパー」を歌ったり、カードを貼ったりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の近くで、小ホワイトボードを提示したり、平仮名の読みを確認したりする。 ・ カードを貼る順番は、児童の意見を尊重しながら決めるようにする。 			
	4 「三匹のこぶた」のパネルシアターを見る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自由な動きを認めながら、楽しく参加できるように見守る。 ・ カードを貼る際は、前に出て貼るように促したり、一緒に貼ったりする。 ・ 上手にできたときは、賞賛をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手拍子をして歌を楽しむ姿を見守りながら、ホワイトボードに集中できるように言葉掛けをする。 ・ カードを貼る際は集中して取り組むことができるように指さしや手を添えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恥ずかしい様子を見せ、自分で前に出て発表できないときは、気持ちに寄り添いながら、ホワイトボードを近くに提示したり、教師と一緒にカードを貼るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イラストカードを見て、何の絵か質問して、確認する。 ・ カードを上手に選べたときは、賞賛する。 ・ カードを貼る順番が誰が良いか発言しているのを受け止め、一緒に順番を決めるようにする。 ・ イラストカードを見て、何の絵か質問して、確認する。
	5 「三匹のこぶた」の読み聞かせを聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒントを出しながら、どんな動物が出てきたか前回の振り返りをする。 			
	6 ワークシート学習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ぶたの絵カードを提示し、言葉促したり、貼る活動を促したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵カードを提示して、動物の名前を質問するようにする。 ・ 一緒に手遊び歌に合わせて手を添えて促したり、近くで手本を行ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物の名前を答えることができるようにヒントを提示しながら質問をする。 ・ 手遊び歌を上手に行っている際は、賞賛を行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どんな家を作ったか質問し、答えに困ったときは、絵カードを提示して前回は振り返ることができるようにする。 ・ 近くで手本を行い、教師を見ることができるようになる。 ・ 友達が質問に答えた後、もう一度質問して、パネルシアターの本体に貼るように促す。 ・ 様子を見守りながら、言葉掛けを行い、真似をするように促したり、近くで手本を行ったりする。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童たちの視線や様子を見ながら、ゆっくり、はっきり読み聞かせを行う。 ・ 最初は、教師主導の読み聞かせを行い、その後、めあてを伝え学習の頑張ることをホワイトボードに提示する。 ・ 場面をピックアップして、子供参加型で「ふー」や「いれて」のフレーズを言ったりするように促す。 ・ 場面シートと子供たちの顔写真カードを提示し貼ったり、言ったりすることができるようにして、積極的に取り組むことができるようにする。 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・ どんなプリントを行うか提示し、見通しをもつことができるようにする。 ・ 言葉掛けをしながら、机に椅子を持っていくように促す。 ・ 終わったプリントは前のホワイトボードに貼るように促す。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動を見守りながら、着席を促す。 ・ 一緒に塗ったり、シールを貼ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師と一緒に色を選んで塗ったり、シールでの文字のマッチングをしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人で、名前を書いたり、単語を書いたりした後、教師と一緒に書いた文字を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語を書いたりした後、教師と一緒に書いた文字を確認する。 ・ 名前や単語6個をプリントで書いた後、教師と一緒に書いた文字を確認する。 	

終末 5分	7 今日の振り返りと 次の予告を聞く。	<ul style="list-style-type: none">・友達のワークシートを見て、友達の頑張りを聞いたり、学習の振り返りができるように流れ表を提示したりする。・見通しをもつことができるように、次の新しい物語について絵本を提示する。
	8 終わりの挨拶	<ul style="list-style-type: none">・良い姿勢ができている児童を賞賛し、背中を伸ばした状態で挨拶ができるように促す。

グループにおける取組のまとめ（小学部 A グループ）

教科「題材名」	童話・物語「さんびきのこぶた」	授業者	中村 かおり
アセスメントメンバー	中水, 中村, 飛永, 平, 東, 塗木		

1 授業参観で出された意見 [○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見]

- 子どもたちが集中できるような歌遊びを取り入れているのがよい。
- 家ごとのイラスト, 模型の準備等, わら, 木, レンガの違いを出そうとする工夫があった。
- めあての提示のタイミングはよかったのか。
- わら, 木, レンガという言葉, 物に対しての理解はどうだったか。
- ※ 板書の流れがあるといい。(左から右に)
- ※ 学習時の隊形は机を使ってはどうか。机が子どもの前にあることで, 前方への動きがなくなり, STやCTの動きも楽になる。また, 子どもの姿勢改善にもつながるのでは。

2 授業検討会で出された意見 [○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見]

- 指導計画が, 各 4 時間ずつというのは, 1 年生の実態, また話に「親しむ」というねらいからよかったのではないかと。3 つの題材の中でも難易度があるので, PDCA が生かされている。
- ※ 同じ物語でも, 子どもの年齢が上がるにつれて感じ方も変わってくるので, 学年によって, この学年には「これ」と決めず, 題材, ねらい, 達成度を引き継いでいけるとよい。小, 中, 高全体で残していけるとなるとよい。具体的に残していく方法があれば…。
- ※ わら, 木, レンガの実物があってもよかったのではないかと。
- ※ 話をするということは, “聞く” ことが大事。“聞く” ことを目標にする場合, どのような方がいいのか…。

3 授業検討会を受けて, 改善に取り組んだ点

[実態把握を中心とした分析・解釈, 目標達成のための手立て, 他学部とのつながりなど]

- ・ 絵本にでてきたものを絵だけではなく, 本物に触れ合うようにすることで言葉と物をつなげることができるので取り入れていくことで, アセスメントをして上がった課題を反映していけるのではないかと。
- ・ 対象児は, ゆっくりと言葉を獲得していく様子が見られるので, すぐの効果は難しいかもしれないが, アセスメントで上がった課題の評価がどうだったか評価したい。
- ・ 対象児は, 今, 少しずつ言葉が増えてきたり, 発音が聞き取りやすくなってきたりしているところである。今後, 更に舌の動きや口の広げ方, 給食と発語の関係など意識しながら言語活動を充実させていきたい。

4 アセスメントの一連の流れや授業参観→授業検討会を終えて, 所属学部での「指導の一貫性・継続性」を行う上での成果や課題等について

[○:成果 ●:課題(困っていること) ※:改善点や意見]

- 検証するのが難しい。
- これまでは, チェックリストを見ながらというよりも, 目の前の子どもの実態に沿って題材設定をしていることが多かった。
- ※ 他学部への参観が難しかった。学部を解いて, 同じ単元のグループにすると, 見に行きやすかったのではないかと。
- ※ 今年したことを生かすためにも, 研究組織図のテーマ研の枠の中の係の連携を深めていくことが大事なのではないかと。それが, 継続性につながるのでは。教科等部で動くことはできないのか。
- ※ 今回取り組んだアセスメントの様式は, これで終わりなのか。青ファイルには入らないのか。個別の指導計画の様式を変更するきっかけになってもいいのかも…。

〔Bグループ〕 対象児童Bの全体像を捉えるためのアセスメント 様式1 (1/2)

願 い

- ・排便後、お尻を自分でしっかりふけるようになってほしい。
- ・何度も同じことを繰り返すことが多いので、軽減してほしい。
- ・ひらがなのひろい読みができるようになってほしい。
- ・数字が読めるようになってほしい。 ・ひらがなを正しく読めるようになってほしい。
- ・お店の物を勝手に持ち出さないようにしてほしい。
- ・正しい書き順でひらがな・数字を書けるようになってほしい。
- ・ルールが分かり、行動することができるようになってほしい。

チェックリスト

- 〔算数〕
 数と計算 2～3 オレベル○
 3～4 オレベル1/4
 3までの大小比較△ 3までの合成分解△
 5までの数詞と数字の対応△(3までOK)
 量と測定 2～3 オレベル3/4 数量の多少比較△
 3～4 オレベル1/2 いっぱい、たくさん、多い△
 図形 3～4 オレベル5/6
 上下の理解?
 4～5 オレベル2/6
 紙飛行機を折る△ はさみの使い方? 左右?
 5～6 オレベル3/3
 三角をまねてかく○ 円・正三角形・正方形のマッチング○
 具体物の中から円・三角形・四角形を取り出す○
 数量実務関係 2～3 オレベル1/4
 色による分類△ 大小の理解? 長短の理解?
 3～4 オレベル 2/3 高低の理解?
 国語
 読む 5～6 オレベル 3/6
 平仮名の短い言葉を一字ずつ拾い読みする○
 似た形態の平仮名を読み間違う(ね・れ、め・ぬ)△
 書く 6～7 オレベル 1/7
 平仮名を視写する ○
 聞いた言葉を書字する場合書き間違いがある△
 聞く 6～7 オレベル 3/6
 簡単な指示理解ができる○
 分からないときに聞き返す△
 話す 3～4 オレベル 5/8
 3語文を話す○
 言葉で自分の思いを伝える△

行動観察・実態

- ・好きな物から先に食べてしまう。果物、牛乳が苦手ですが、好きな物と交互に食べるように促すことで食べることができる。
- ・環境の変化によって体調を崩しやすい。
- ・排便は、学校ではあまりせず、家ですることが多い。
- ・左目をかいて腫れることがある。
- ・疲れがたまったり、緊張や不安があったりするとおう吐することがある。
- ・嫌なことや嫌なことをされたとき、自分の嫌なこと(特に病院のこと、バスが来ないこと)や否定的なことを繰り返し言ったり、たたいたりする。
- ・登下校のバスの確認をしないと不安そうな表情をする。
- ・人なつっこく、自分からかわりを求めることができる。
- ・苦手な大きな音を聞くと耳をふさぐことがあるが、好きな音楽などはスピーカー部分に耳を近づけ、大音量で聞いている。
- ・車やバスに興味があり、近づきすぎることもある。
- ・興味があるものに集中してしまい、周りのことが見えなくなることがある。
- ・手先が少し不器用で両面テープなど上手くはがすことができない。
- ・筆圧が強く、ペンや鉛筆の先がつぶれてしまうことがある。
- ・握り箸で食べる。
- ・机上での学習の際の姿勢保持が継続しない。
- ・排便後、おしりを自分でふくが、ふき残しがある。
- ・困ったときには「手伝って。」「お願い。」と言うことができる。
- ・分からない質問には、おうむ返しになることがある。
- ・帰りの会で楽しかったことを発表するとき、時間割を見て行ったことを単語で伝え、「楽しかったです。」と最後に言うことができる。
- ・出かけることができる。(おつかいの経験)
- ・自分の行きたい所に「～に行ってもいいですか。」と教師に伝えることができ「○○だから行けない。」と言われても受け入れることができる。
- ・親しい友達に過度なかわり(頭を触るなど)をして反応を楽しむ様子が見られる。
- ・給食の時に7人分の箸の配膳を正しく行うことができる。

重点目標

- ・「どこで」「だれと」「何をした」の質問に答えることができる。
- ・学期ごとに、物の名前を10個ずつ覚えることができる。
- ・重なりのある平仮名の視写ができる。

標準化された発達・知能検査

☆田中ビネー 知能指数39 (1年時)

☆新版K式発達検査 (3年時)

- ・姿勢・運動P-M 発達年齢3歳5ヶ月以上
- ・認知・適応C-A 発達年齢3歳3ヶ月 発達指数38
- ・言語・社会L-S 発達年齢3歳8ヶ月 発達指数43
- ・全領域 発達年齢3歳5ヶ月以上 発達指数40

- ・積木やブロックの操作はできるが、折紙などより巧緻性を必要とする操作は難しい。
- ・大小や長短などの事物同士を比較して理解することが難しい。
- ・3語文復唱が難しいなど、聞いた言葉を正しく記憶することに課題がある。

+α

- ・JMAPの検査18: 肢位模倣より
 …ボディイメージ、模倣する力は発達年齢(3才5ヶ月)相応である。
- ・Eye move testより
 …眼球運動がスムーズにいかず注視する範囲が狭い。
 (一部分しか見ていなかったり注目できずにいろんなところへ視線が飛んでしまう)

対象児童Bの全体像を捉えるためのアセスメント 様式1 (2/2)

得意なところはなんですか？

- ・身体模倣をする力
- ・硬貨の種類を理解
- ・(国) 読む, 書く, 聞く
- ・係などの役割を果たそうとする

それはなぜですか？(背景・理由)

- ・発達年齢以上に模倣する力, ボディイメージがついている。
- ・繰り返し続けることで学習する(形, 文字, 硬貨, ○さんの車椅子など)。
- ・シングルフォーカス(ある一部分に注目する)。
- ・2つの事柄を自分なりに結び付ける。

全体像としての課題

- ・動作化をとおした比較概念(大小, 長短)の獲得
- ・形態の似た平仮名の認識
- ・語彙力の拡大

教科としての課題

国語

- ・2文字の単語のまとまり読み
- ・○○の名前を覚えること

算数

- ・大小の比較
- ・長さの比較

苦手なところはなんですか？

- ・数量実務関係 大小の比較など
- ・平仮名の逐次読み
- ・似た字の読み間違い

それはなぜですか？(背景・理由)

- ・言葉の理解が不十分(質問を理解できていない)
- ・経験不足
- ・視覚的なこと(眼球運動がスムーズに行われず一部分を注視してしまう)

国語学習指導案(略案)

日 時 平成 26 年 10 月 10 日(金) 2 校時

指導者 竹崎 浩記(CT) 松元 真紀(ST)

1 題材 童話・物語

2 対象児童 Bさんの実態

(1) 個別の指導計画における重点目標

- ・ 「どこで、だれと、何をした」の質問に答えることができる。
- ・ 学期ごとに物の名前を10個覚えることができる。

(2) 標準検査の結果

検査名(実施日)	検査結果 ※解釈等は(3)で述べる
田中ビネー (H23, 6, 24) 新版K式発達検査 (H25, 7, 9)	知能指数 39 姿勢・運動 P-M 発達年齢 3歳5ヶ月以上 認知・適応 C-A 発達年齢 3歳3ヶ月 発達指数 38 言語・社会 L-S 発達年齢 3歳8ヶ月 発達指数 43 全領域 8 発達年齢 3歳5ヶ月以上 発達指数 39.

(3) 話し合いでの分析・見えてきた課題(標準検査の解釈等)

- ・ チェックリストや発達検査から比較概念が発達年齢に比べて未形成である。一方模倣する力は高いので動作化を通して比較概念の獲得を目指したい。
- ・ チェックリストの結果から読む力は発達年齢に比べて高いが、平仮名の似た文字を読み間違いがある。これは視覚情報の一部分のみに着目して認知する傾向があるために部分から全体への情報認知を促したい。

(4) 本時の個人目標

- ア 物語に出てくる動物を順番通りに積み重ねる際、大小がはっきりしている動物を比べてどちらが大きいかを答えることができる。
- イ 物語に出てくる動物の名前を正しく答えることができる。

(5) 個人目標に対する指導及び支援に当たって

- アについて
物語を読みながら順番に段ボールで作った動物を積み上げていく際、どちらの動物が大きいかを確認しながら積み重ねていくようにする。
- イについて
間違いやすい平仮名が出てきたときには、二つの似た平仮名カードを用意して、クイズ形式で少しずつ文字を見せていくことで、児童の注視する場所を意識させ、平仮名の違いに着目しやすいようにする。

3 本時の実際

過程	主な学習活動 ※指導及び支援上の留意点は除く	資料・準備
導入 (7分)	1 始めの挨拶をする。	
展開 (33分)	2 本時のめあてを知る。	
	3 物語「ぞうくんのさんぽ」を読む。	本 段ボール
	4 物語を動作化しながら段ボールを積み重ねる。	ひらがなカード
終末 (5分)	5 登場する動物の名前を確認する。	プリント
	6 プリントを使って動物の名前を書く。	
	7 感想を発表する。	
	8 終わりのあいさつ	

グループにおける取組のまとめ（小学部Bグループ）

教科「題材名」	国語「童話・物語」	授業者	CT:竹崎・ST:松元
アセスメントメンバー	団塚・尾前・竹崎・松元・嘉村・大漣		

① 授業参観で出された意見〔○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見〕

【目標ア:大小比較について】

- 読み聞かせの座学だけでなく、リズムカルなせりふの歌と動作化や段ボール箱の構成遊び、クイズ形式の写真カード貼りなどの活動量の確保がなされている。 ○ 動作があり子どもが楽しそうに活動していた。
- 教材が大きくて子どもたちの「大きい」という概念につながっている。 ○ 分かりやすい教材・教具だった。
- 本児の目標達成のために、大きがはっきりしている動物だったか? 「少し似ているもの」も必要なのでは?
- 活動量を考えると「見るだけ」が少し多いのでは?
- 注視力を育てるには、板書での活動→机上で操作など位置を変えることも必要な。
- ※ 大きい・小さいをじっくりと触ったり持ち上げたりするのもよいかも。(視覚+触覚)
- ※ 登場人物以外にも動物の選択肢を増やす。※個別の活動と合同の活動を合わせると活動量が増えるのでは。

【目標イ:似た平仮名の違いについて】

- 「ぬ」と「め」の違いを丁寧に気付かせる教材や指導方法の工夫があった。○子どもたちがよく注目していた。
- ※ 正しい平仮名はどちらかという発問をした方がよいのではないか?少しあいまいに聞こえた。
- ※ 本児の平仮名の形態エラーもあるが、違いのポイントを意識させる際に自分で違うポイントを選ばせることをプリントでさせてから書く活動につなげることも考えられないか。

② 授業検討会で出された意見〔○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見〕

【目標ア:大小比較について】

- 前時までに、「ぞう」と「かめ」の大きを周りの友達を見て理解してきていた。
- ※ 「ぞうは大きい」「かめは小さい」と言葉のフレーズだけで大きを答えているということはないか?動物の絵がなくても大きが分かるのか、ボール等他の物でも理解できているのか生活場面で確認していくことが必要。
- ※ 「ぞう」と「かば」、「かめ」と「かば」というふう「かば」を加えることで比較対象が変わり「かばが大きい」場合「かばが小さい」場合とが出てくる。これを答えることができれば大きを理解していることになるのでは。

【目標イ:似た平仮名の違いについて】

- ※ 平仮名の違う部分により気付かせるために、全体から部分へと違う部分を焦点化させることができればよかったかな。
- ※ 例えば、本児の好きな「しおかぜ号」の文字を一字だけ違えたもの(「しあかぜ号」等)を提示し、違いに気付けるかどうかを試してみるのもよいかも。
- ※ ゲーム感覚で正しく平仮名を学ぶことができる教材を探したい。

③ 授業検討会を受けて、改善に取り組んだ点

〔実態把握を中心とした分析・解釈、目標達成のための手立て、他学部とのつながりなど〕

- ・ 大小比較の課題について、日常の中で教師が意識して問いかけたり、朝の課題の時間にプリントをしたりするなどして理解を図るようにした。「小さいのはこっち」などと言葉で言えるようになってきた。
- ・ 平仮名の課題について、パワーポイントで違いの部分を焦点化させる教材を作成して活用したり、文字を書くプリントを繰り返し行ったりした。学習してきた文字については定着してきている。
- ・ 担任や周りの教師が話しかける(質問する)機会を意識して多くもつようになった。会話の中で言葉や文章の広がりを感じる。児童同士でのやりとりも増えてきている。
- ・ 国語の時間のプリントだけでなく、お礼の手紙や宿題等、文字を書く機会を多くもつようにした。以前よりもスムーズに書けるようになり、文字も見やすくなっている。

④ アセスメントの一連の流れや授業参観→授業検討会を終えて、所属学部での「指導の一貫性・継続性」を行う上での成果や課題等について

〔○:成果 ●:課題(困っていること) ※:改善点や意見〕

- +αの検査を知り、行ったことで本児の支援の手掛かりを見つけることができた。
- グループで集まりいろいろな人の話を聞いて勉強になった。共通したアプローチの仕方を知り実践できた。
- チェックリストをよく見ていくことで課題を明確にすることができた。
- ※ 今ある物(チェックリストや検査結果等)をうまく活用していければよい。
- ※ 検査結果は数字だけでなく中身を見ることで課題を知ることができた。特に引き継がれた学年のときは検査の中身(どこまでできていて、どんなところにつまずいているのかなど)を見てみる必要があると思う。
- 今回のこの考え方を他教科等や他の児童に対して生かしていけたら。例えば、負担のない範囲で学年部会を設定できれば、お互いにこのような話が気軽にできるかな。

【Cグループ】 対象児童Cの全体像を捉えるためのアセスメント 様式1 (136/2)

願 い

- ・文字や数字に興味を持ち始めているので伸ばして行ってほしい。
- ・衣服の着脱や食事に多少時間がかかるので、声掛けしてほしい。
- ・尿意を伝えることができるが、支援が必要であり、一人でも出来るよう伸ばして行ってほしい。
- ・思い通りにならないと泣くことがあるので、納得いくように説明してほしい。
- ・いろいろなことに挑戦させて行ってほしい。

重 点 目 標

- ・膝立ちで姿見を見て、ボタンの位置や裾を確認して、衣服の処理ができる。
- ・文字の読み、並び替えや、半具体物の操作等を通して平仮名・数

チェックリスト

算数

数と計算 4～5歳レベル 3/4 : ○
(和が5までの足し算：△, 50までの数唱：○)

量と測定 4～5歳レベル 2/4 : ○
(広い・狭い, 思い・軽い等の概念：△, 時計を見て時刻に興味をもつ：△, 形の大中小区別：○)

図形 6～7歳レベル 3/3 : ○
(円, 四角形, 三角形の名称：○, 円, 四角形, 三角形の分類：○, 前後, 上下, 左右などの理解：○)

数量関係実務 3～4歳レベル 3/3 : ○
(高い, 低いの理解：○, お金の必要性の理解：○)

国語

聞く 5～6歳レベル 4/4 : ○
(絵本やテレビを見て興味をもつ：○, 5数詞の復唱をする：△, 教師の説明などのあらましが分かる：△)

話す 6～7歳レベル 6/10 : ○
(要件をおとさず簡単な伝言をする：△, 聞き取ったことや経験したことを話す：○)

読む 4～5歳レベル 4/5 : ○
(人物の絵の脱落を発見する：△, 子どもかるたをほとんどとる：○)

書く 5～6歳レベル 3/4 : ○
(三角形を真似て書く：△, 自分の名前をひらがなで書く：○, 点線の上をなぞって書く：○)

行動観察・実態

- ・自分でボタンの付け外しをすることができるが、首元のボタンは付けることが難しい。
- ・日常生活の流れをだいたい理解して、自分で着替えや準備・片付け等に取り掛かることができる。
- ・背筋が弱く、座位の姿勢をとるとき背中が丸まったり、割座で座ったりすることが多い。
- ・立位をとるとき、右足のかかとが床につかない。
- ・座位姿勢のとき、背中が丸まっていることが多い。
- ・遊んでいるとき、テンションが上がると四這いで移動するとき、頭を激しく左右に振って進む。
- ・自分の思い通りにならなかったり、注意されたりすると、不機嫌になったり、ふてくされたり、しゃべらなくなったりする。
- ・大人や友達との関わりが好きで、遊びに誘ったり、話したり、名前を呼んだりして、積極的に関わる事ができる。
- ・自分がしたい遊びがあるとき、友達を誘導するように質問し、自分のしたい遊びに誘おうとすることがある。
- ・はさみや糊付け、なぞり書きなどの細かい作業ができる。
- ・似た字や濁音を読み間違ふことがあるが、平仮名を読める。

標準化された発達・知能検査

+ α

対象児童Cの全体像を捉えるためのアセスメント 様式1 (2/2)

得意なところはなんですか？

- ・人との関わり
- ・注目を浴びられる環境に積極的に入ること。
- ・身体を動かすこと。
- ・言葉でのコミュニケーション（会話を楽しむ）
（国）平仮名の読み
（数）数唱, 図形の認識

それはなぜですか？（背景・理由）

- 生育環境（施設で, 対大人との関わりが多い中で育ったから）
- 保護者や教師に褒められる経験と結びついているから
 - ・コミュニケーションをとる手段として身体を動かしているから。
 - ・生活経験から培われたものだから。
 - ・知的好奇心が高い。学習の定着が早く, 記憶力が良い。

全体像としての課題

- 経験不足
- 一人で課題に取り組む力（長時間の集中）

教科としての課題

国語

- ・平仮名の濁点, 半濁点
- ・語彙力を増やすこと
- ・書字（交じり合った線, 曲線, 角）

算数

- ・時計
- ・お金
- ・数の合成, 分解

苦手なところはなんですか？

- ・姿勢の保持（座位, 膝立ち）
- ・一人での活動
- ・自分の予想に反すること。・絵を描くこと
- ・見えない位置のボタン付け
（国）濁点, 半濁点の読み
平仮名の書字（角や斜めの線がある文字）
（算）お金, 時間

それはなぜですか？（背景・理由）

- ・体幹が弱いから。
- ・経験不足だから。
- 注目を浴びないから
- ・長時間の注目が難しいから。（一人の時）

算数科学習指導案(略案)

日 時 平成 26 年 10 月 15 日(水)2 校時

指導者 藤 尾 友 香 (C T)

1 題材 お金の学習をしよう

2 対象児童 C さんの実態

(1) 個別の指導計画における重点目標

- ・ 膝立ちで姿見を見て、ボタンの位置や裾を確認して、衣服の処理ができる。
- ・ 文字の読み、並び替えや半具体物の操作等を通して、平仮名・数字の理解を深めることができる。

(2) 標準検査の結果

検査名(実施日)	検査結果 ※解釈等は(3)で述べる
田中ビネー知能検査V(H25.12)	IQ 68

(3) 話し合いでの分析・見えてきた課題(標準検査の解釈等)

・ 知的好奇心が旺盛で、何事にも積極的に取り組むことができるが、幼少期を長い間施設で過ごしていることから、生活経験が乏しいことが考えられる。主に大人との関わりの中で生活してきたことから、褒められたり、構ってもらってきたりしていることが予想できる。そのため、注目を浴びない状況での学習や活動(一人で課題に取り組む力)では、注意散漫になり、集中できなくなることが多い。

・ 他人(大人・友達)との関わりが好きで、積極的に話をしようしたり、遊びに誘ったりすることができる。ボール遊びなど、相手がいる遊びを好み、一人遊びはすることはあまり見られない。言葉によるコミュニケーションも好きで、過去の出来事や予定などを話すことができるが、5H1Wで話すことはまだ難しい。また、詳しく内容を聞き出そうとしても、うまく言葉を繋げられないことなどから、語彙力の低さが考えられる。

(4) 本時の個人目標

ア 硬貨を弁別することができる。

(5) 個人目標に対する指導及び支援に当たって

アについて

- ・ 実際の硬貨を使って、10円玉が何枚あると何円になるか答えることができる。

3 本時の実際

過程	主な学習活動 ※指導及び支援上の留意点は除く	資料・準備
導入 (5分)	1 始めの挨拶をする。 2 今日の学習の確認をする。 おかねをよもう。	・ ホワイトボード
展開 (30分)	3 お金の仲間分けをしよう。 ・ お金の名前を復習する。 ・ 10円が何枚でいくらか考える。 ・ プリント学習	・ 硬貨 ・ 仕分け箱 ・ プリント
終末 (5分)	5 今日の学習の振り返りをする。 6 終わりの挨拶をする。	

グループにおける取組のまとめ（小学部Cグループ）

教科「題材名」	算数「お金」	授業者	藤尾
アセスメントメンバー	實島 原 寺下 板坂		

① 授業参観で出された意見〔○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見〕

- ゲームを取り入れて楽しく学習していた。
- 語りかける言葉や表情がやわらかく、子どもも落ち着いて授業を行っていた。
- めあてをホワイトボードなどを書いて提示してはどうか。
- 児童が自分で問題の正解を見つけられたり、お買い物遊びのように動いて買い物をしたりするとよいのではないか。
- 実態にもよるが、教師と児童の1対1対応は、今度中学部につなげていくにあたり、全体で授業を行うことも必要ではないか。

② 授業検討会で出された意見〔○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見〕

- 硬貨を置くシートを作ってはどうか。
- 教師が正解だよ間違っているよと言うのではなく、本人が自分で合っているか確かめられるシートがあればよい。
- 耳からの支援が多かったなので、視覚の支援として、数唱だけでなく、数詞もいれて数字も書いて指導することで理解が深まるのではないか。
 - ・数の量感覚も養う必要がある。
- 視覚の課題として机の上で硬貨を動かしていたが、黒か白のシートをひいて動かすと見えやすいかもしれない。

③ 授業検討会を受けて、改善に取り組んだ点

〔実態把握を中心とした分析・解釈、目標達成のための手立て、他学部とのつながりなど〕

- ・ 授業検討会を受けて、お金の確認シートを作成して実践してみた。自分で確認しながら振り返りをする姿がみられ、よかった。
- ・ 学習の見通しを持たせるためにホワイトボードを活用した。
- ・ 読む・書く等の活動を取り入れて、聴・視覚等で理解を深められた。

④ アセスメントの一連の流れや授業参観→授業検討会を終えて、所属学部での「指導の一貫性・継続性」を行う上での成果や課題等について

〔○:成果 ●:課題(困っていること) ※:改善点や意見〕

- チェックリストを把握してから授業を作ることで、視点がはっきりしてきた。
- 小学部ではクラスごとに国数を行っているが、中学部からはクラスをといて実態にあわせて授業を行っている。そのメリットとしては、複数の目で児童を見られる。デメリットとしては、担任がクラスの児童の授業を把握しづらく、宿題も出しにくい。ということが考えられる。小中の一貫性をもたせていくことも必要なのではないか。
- 授業で作った教材やプリントなどを全体で共有したり、データとしてためたりしておくといよいのではないか。(個人フォルダの中にその子が使っていたプリントのデータなどを置いておいてもよいのではないか)

5 研究のまとめ

(1) 成果

- ・ チェックリストや検査等で実態を把握できたり、目標や支援策の視点がはっきりしたりした。
- ・ 一人の児童についてグループで協議することで多方面から実態を把握したり、目標、支援策を考えたりすることができた。
- ・ アセスメントシート（小学部用）を利用することで、子どもの目標を導き出すまでの流れが分かりやすかった。

(2) 課題

- ・ 今年度の研究方法からは主テーマとのつながりが見えにくい。
- ・ 今年度の研究（アセスメント様式等）を他教科、他児童にも生かしたいが、できるのだろうか。
- ・ 他学部との指導の一貫性・継続性が見えづらかった。
- ・ 授業で使った教材・プリントを共有化できるようにしてほしい。

(3) 改善点・来年度へ向けて

- ・ 今年度取り組んだ研究の実際は良かったので、アセスメントの方法は継続して行った方がよい。

しかし、以下三つの疑問は残っている。

ア より多くの子どもについて話をしたいけど時間の確保はできるのか。

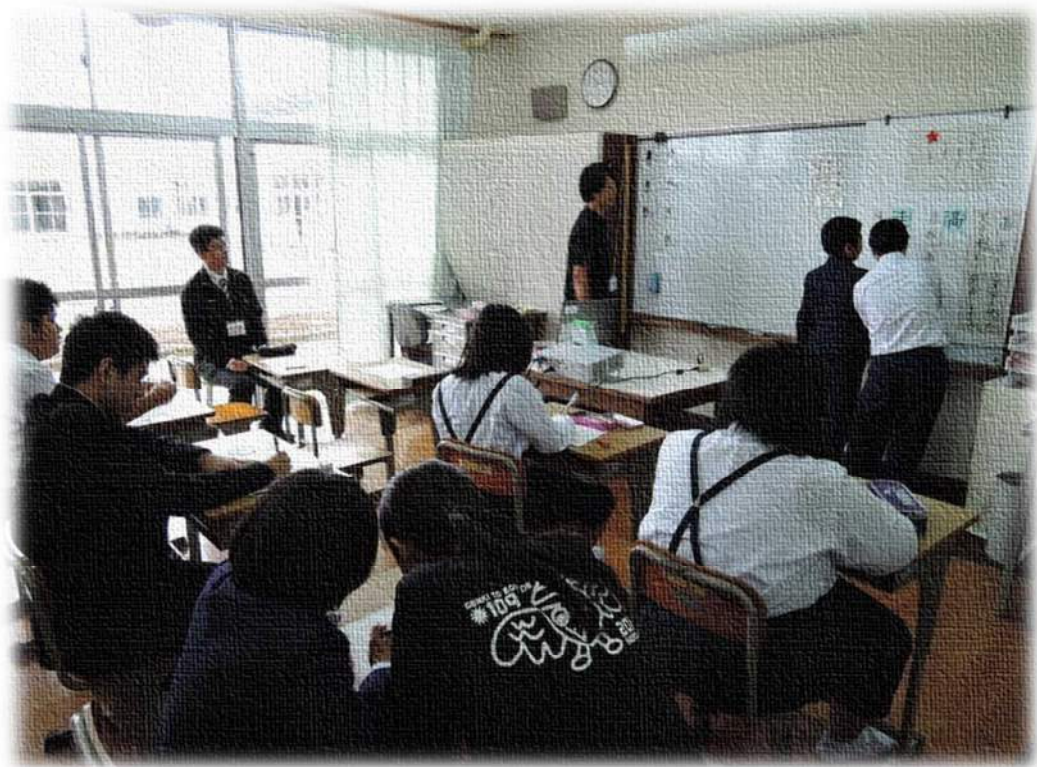
イ 他学部との一貫性・系統性はどうか検証していくのか。

ウ 本テーマと今年度の研究の実際とのつながりが見えづらいのではないか。

- ・ 参観者が少ない授業もあったので、授業研究を充実させるために研究授業の実施方法を検討したほうがよい。



中学部研究



中学部 国語「かるたを作ろう」

中 学 部 研 究

VII	中学部研究	41
1	研究テーマ	
2	研究の流れ（計画）	
3	研究組織	
4	研究の実際	
	Aグループ（分析・課題シート，指導案，授業検討会まとめ，取組のまとめ）	42
	Bグループ（分析・課題シート，指導案，授業検討会まとめ，取組のまとめ）	46
	Cグループ（分析・課題シート，指導案，授業検討会まとめ，取組のまとめ）	52
	Dグループ（分析・課題シート，指導案，授業検討会まとめ，取組のまとめ）	56
	Eグループ（分析・課題シート，指導案，授業検討会まとめ，取組のまとめ）	60
5	研究のまとめ	65
6	資料	66

VII 中学部研究

1 研究テーマ

「一人一人の社会参加と自立をめざす一貫性・継続性のある指導」

～アセスメントを利用した指導を中心に～

2 研究の流れ（計画）

月	日	曜		主な研究内容	形態
6	26	木	テーマ研究③	・ 各学部の研究テーマについて(提案)	各学部
7	10	木	テーマ研究④	・ 対象生徒の決定(Eグループは除く) ・ 重点目標, チェックリスト, 検査等の確認・解釈 ・ グループ内の分析①	編成グループごと 授業研究は中全体
夏 休 み 期 間				・ グループ内の分析② ・ 分析結果のまとめ	
8	28	木	テーマ研究⑤	中間報告会 (中学部のみ) ・ 各グループの分析結果の発表, 意見交換 ・ 略案作成	
9	25	木	テーマ研究⑥	・ 2学期の指導を受けてグループ内での分析 ・ 略案作成	
10	16	木	テーマ研究⑦	授業研究① (A, Cグループ) ※学部全体	
11	13	木	テーマ研究⑧	授業研究② (D, Eグループ) ※学部全体	
	18	火		県特別支援教育研究大会(大島大会) 研究授業, 授業研究③ (Bグループ)	
12	4	木	テーマ研究⑨	実践報告会 (中学部のみ) ・ 各グループで授業研究後のまとめ	各学部
1	16	金		研究のまとめ 原稿提出	全体
	22	木	テーマ研究⑩	研究(成果と課題)の発表① (小・中学部)	
2	12	木	テーマ研究⑪	研究(成果と課題)の発表② (高等部) 来年度の研究について	全体

3 研究組織

グループ	メンバー		研究内容
A【数学】	小倉・緒方・田浦・山田	藤 山	各グループから対象生徒を2名選び, 本校のチェックリストを用いて実態把握をした。分析結果からわかった課題を解決するための指導法を話し合い, 授業の中で実践し, 授業研究で様々な意見をもらった。 授業研究で得られた意見は改善点として, 次時以降の指導に生かすようにした。
B【国語】	高野・若松・駒走・宮崎		
C【国語】	墓本・川村・古村		
D【数学】	平・板敷		
E【国・数】	徳重・栄・馬場・二禮木		

4 研究の実際

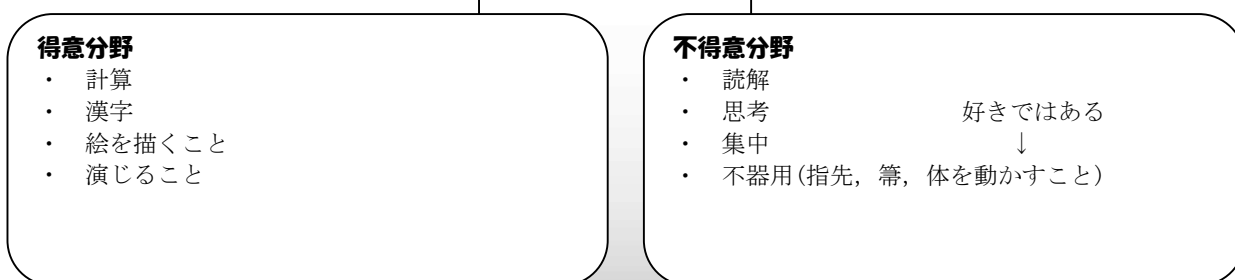
【A グループ : A さん】

中学部 分析・課題シート

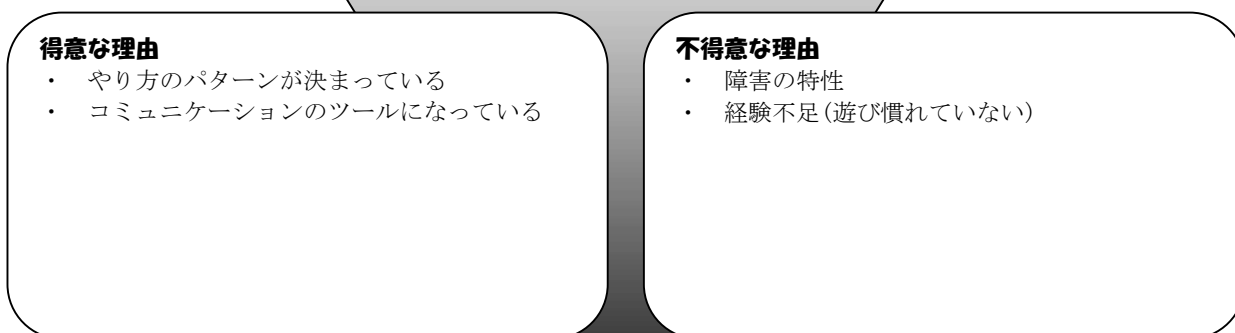
1 国・数のチェックリスト

国 語		数 学	
観点	(○～○歳レベル) そのレベルで○が付かなかった項目の内容	観点	(○～○歳レベル) そのレベルで○が付かなかった項目の内容
聞く	7～8 歳レベル 終わりまで静かに聞く，分からないときは聞き返す，要点が分かる	数と計算	8～9 歳レベル ○倍，○分の 1 の意味，時間や日数の計算をする
話す	7～8 歳レベル 用件を落とさずに伝言をする・話す，はっきり応答する，分かるように話す	量と測定	8～9 歳レベル 長さ・重さ・容積を表す単位が分かる
読む	8～9 歳レベル 内容を読み取る，読み返して間違いを正そうとする，読んだ内容について考える	図形	8～9 歳レベル 三角定規やコンパスを使って簡単な図形をかく
書く	8～9 歳レベル 要領よく聞く・メモをとる，句読点「」	数量関係 実務	8～9 歳レベル 棒グラフの読み方と書き方が分かる

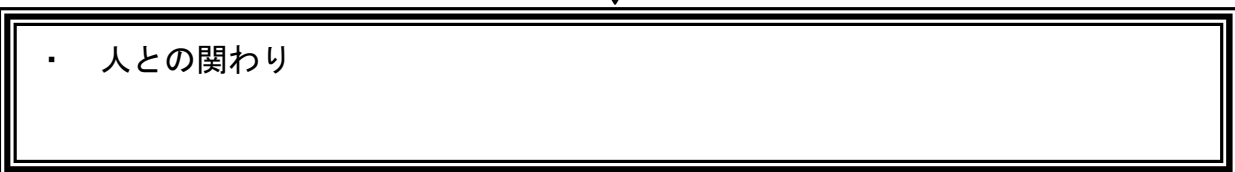
2 得意分野・不得意分野の洗い出し（全体像）



3 得意・不得意の理由



4 生徒の課題（1と3の結果から）



5 生徒の目標 が見えてくる！！

数学科学習指導案(略案)

指導者 小 倉 寿 彦

1 題材 「形 ～角の大きさ・角の書き方～」 小4 (上) の教科書より

2 対象生徒 Aさんの実態

(1) 個別の指導計画における重点目標

- ・話す人に注目して話の内容や指示を正しく聞き取り、行動に移すことができる。
- ・様々な状況(困った、予想と異なる、咄嗟の、思い通りでない…)のときに、感情をコントロールして行動することができる。
- ・何をすべきか分からないときに、「次は何をすればよいですか。」「〇〇してもよいですか。」のように教師に確認することができる。
- ・相手の状況(連絡帳を書いている、他の人と話し中である等)を判断して、関わることができる。

(2) 標準検査の結果

検査名(実施日)	検査結果 ※解釈等は(3)で述べる
・ 本校チェックリスト	国語 聞く(6～7歳) 話す(6～8歳) 読む(7～9歳) 書く(7～10歳) 数学 数と計算(8～9歳) 量と測定(8～9歳) 図形(7～9歳) 数量関係実務(8～9歳)

(3) 話し合いでの分析・見えてきた課題(標準検査の解釈等)

- ・ 苦手な問題や初めての問題になると集中力がなくなる。注意力散漫。(関心・意欲・態度)
- ・ 受け身になることが多く、自分で選択したり考えたりする習慣が身に付いていない。
- ・ 周りの友達を意識して、競い合うゲームなどに関心が高い。
- 基礎的な学習(既習内容)を中心に学習しながら、新しい学習や興味のあるパソコン、ゲーム要素のある課題も扱って関心を高める必要がある。
- 友達と関わりながら学習することで、意欲を高め、人間関係力やコミュニケーション力を養う。
- ・ 実生活で使えるほど、基礎知識が身に付いていない。チェックリストでは、小3～4程度とでるが、課題(問題)によっては、小2～3の内容が身に付いていないところがある。(知識・理解)
- 基礎的な力が身に付くまで、スモールステップで繰り返し学習を行い、自信を付けさせる必要がある。
- 既習内容でも、身に付いていないところを把握するためにも、CRT・NRTのような具体的に通過率を出せる実態把握用のテストを使い、習熟度を把握する必要があるのではないか。
- ・ 文章題のように、考えて解く問題や実際に活用する問題となると難しい。(見方・考え方)
- 基礎を身に付けた上で、体験活動を通して活用できるようにする必要がある。
- 授業の流れをパターン化し、自分たちで課題を見付け、意見を出し合う学習環境を整える。

(4) 本時の目標

- ・ 分度器を使って180°までの様々な角度を書くことができる。

(5) 個人目標に対する指導及び支援に当たって

- ・ 分度器の使い方が分からないときは、ワークシートで確認したり、友達や教師に自分から聞いたりすることで、自分で解決できるようにする。

3 本時の実際

過程	主な学習活動 ※指導及び支援上の留意点は除く	資料・準備
導入 (10分)	1 始めの挨拶をする。 2 前時の復習をする。「角度を測る問題を解く」 3 本時の課題を知る。「いろいろな角度を作ってみよう。」	2 パソコン ワークシート1 「角度を測る」
展開 (30分)	4 ワークシートを使って、角度の書き方について学習する。 5 分度器を使って様々な角度を書く。 6 友達が分度器で書いた角度を測る。	4 ワークシート2 分度器 5 作図セット
終末 (5分)	7 三角定規やコンパスで書いた角度を考える。 8 次時の内容を知る。 「三角定規やコンパスでできた角度を求めよう。」	

テーマ研究⑦ 「授業検討会①」まとめ

【小倉教諭】

① 授業者より

角度を書くことができるという目標設定であったが、授業をする中で 180 度以上の角度を測る部分を長くした。基準線を変えて時計回り、反時計回りにしたときの角度測定ができるのかということを目標に置き、その部分に付いて重点的に行った。パソコン用いてゲーム形式で問題を解くことでコミュニケーションの活性化を意図していた。FくんがGくんの見えづらさを補っていた。満点を目指して、プレッシャーを与えながら行った。PC では書くことができないので、ワークシートを用いた。次の授業では 180 度以上の角を図ることができていた。目標達成していた。

②グループ発表

生活とのつながりについて

分度器を使うことで、応用力を学ぶことを身に付けることができる。直角は生活によく使われる。角度を知ることで物事の全体を把握することができる。生活との直接的つながりとは言いにくいですが、新しいことを学ぶ楽しさを与える。(知的好奇心)

右向け右が 90 度、敬礼の角度、ケーキをわけるとき、布を断つときに角度を用いた説明が分かる。(他教科との関連)生活の中での説明の幅が広がる。

Aさんの困り感について

言葉での話のときにわからなくなっていることが多い。言葉での説明のみの難しさ。視覚情報も一緒に提示する。

グループにおける取組のまとめ（中学部 A グループ）

教科「題材名」	数学「形」	授業者	小倉 寿彦
アセスメントメンバー	田浦清美, 緒方晶		

1 授業参観で出された意見〔○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見〕

- 学習意欲を喚起させる内容で、教材教具が工夫されていた。
- 本時にすることが示されていたので、3人ともやるべき課題に集中して取り組んでいた。
- 返事や報告、お礼など、学習のしつけができていた。
- ※ 分からないこと・困ったことがあるときにどのようにするか、日頃から指導が必要。
- ICTの活用で、難しい問題にも取り組もうとする意欲が窺えた。
- ※ Web 上のアプリならパソコン室で一人1台でもよいかも。
- 集団→個人 メリハリがあったので集中力が持続しやすかった。
- ワークシートで繰り返し問題を解いていた。
- Gくんが角度を見るときに、拡大鏡(PC ツール)を使っていた。合理的配慮がなされている。
- 角の測り方の説明のときに自作の分度器があったので分かりやすかった。
- 自然な形で生徒同士が教え合う場面があったのでよかった。言葉で友達に伝えていた。
- 生徒の座席と黒板の位置関係を斜めにしている意図は何か。
- ※ Gくんは、左目の方が視力があるので、座席を右側にするとよいか。
- 「角」の学習は、生活にどう活かされていくのか、発展していくのか。
- ※ 数学科の位置付けと他の教科や領域に活かせる指導内容をどのように考えていくかということが重要だ。
- ※ 道路の標示について大まかな角度で示すとか。
- 待ち時間があったからか、Aさんは友達がパソコン学習をしているときにボーッとしていた。また、発言が少ないのは、理解できていないからではないかと感じた。
- プラスマイナス5度以内(誤差)を理解できただろうか。
- ワークシートやプリントにはまず名前を書く癖を付けさせたい。
- ※ 自作の分度器の数字・文字をもっと大きく書いてあるとよかった。

2 授業検討会で出された意見〔○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見〕

- 分度器を使うことで、応用力を学ぶことを身に付けることができる。直角は生活でよく使われる。
- 角度を知ることで物事の全体を把握することができる。
- 生活との直接的つながりとは言いにくいですが、新しいことを学ぶ楽しさを味わわせることができる。(知的好奇心をくすぐる。)
- 「右向け右」が90度、敬礼の角度、ケーキを分けるとき、布を裁つときに角度を用いた説明が分かるなど、生活の中で説明の幅が広がる。
- 課題を解決するという行程が、問題解決能力に繋がる。
- Aさんは言葉での話のときに分からなくなっていることが多い。言葉での説明のみの難しさがある。視覚情報も一緒に提示するとよい。

3 授業検討会を受けて、改善に取り組んだ点

〔実態把握を中心とした分析・解釈、目標達成のための手立て、他学部とのつながりなど〕

- ・ Aさんの実態に合ったプリント教材を使うようにした。小2の内容から始めて基礎を学習している。
- ・ パソコンの教材は、毎回同じものを使って、基礎の定着を図っている。

4 アセスメントの一連の流れや授業参観→授業検討会を終えて、所属学部での「指導の一貫性・継続性」を行う上での成果や課題等について

〔○:成果 ●:課題(困っていること) ※:改善点や意見〕

- 様々なアセスメントの方法を知ることができた。
- ※ チェックリストは担当者によって評価が違って、「これはまだ難しそうにしている」「これはクリアしている」というのがあった。もっと細分化された実態把握用のテストのようなもので、通過率などで評価できるものがあると、客観的に実態を把握でき、継続した指導ができと思う。

【B グループ : B さん】

中学部 分析・課題シート

1 国・数のチェックリスト

国 語		数 学	
観点	(○～○歳レベル) そのレベルで○が付かなかった項目の内容	観点	(○～○歳レベル) そのレベルで○が付かなかった項目の内容
聞く	5～6歳レベル 簡単な童話・放送を楽しんで聞く	数と計算	7歳レベル 20からの逆唱・4桁の数の大小と読み書き
話す	6～7歳レベル 聞き手の方を向いてはっきり話す・用件を落とさずに伝言	量と測定	8歳レベル 一日=24時間、長さ・重さ・容積の単位・3糖分がわかる
読む	7～8歳レベル 身近な標識・広告を正しく読む・自分の書いた文章の校正をしようとする	図形	5～6歳レベル 自分を中心として前後・左右が分かる・紙飛行機を折る
書く	7～8歳レベル 句点・読点などに注意して書く	数量関係 実務	6歳レベル 一人で買い物をしてお釣りをもらう、じゃんけんの5回戦で勝負決定

2 得意分野・不得意分野の洗い出し（全体像）

得意分野

- ・パソコンローマ字打ち
- ・話すこと、見ること
- ・野球
- ・記憶力
- ・きまりを守る
- ・まじめ

不得意分野

- ・空間認知
- ・聞く力が弱い
- ・リズム感
- ・絵を描く
- ・動きの再生

3 得意・不得意の理由

得意な理由

- ・野球は経験が豊富→テニスでは？他にも（下舞T）
- ・パソコンが好き
- ・勝負にこだわる
- ・視覚優位
- ・のめりこむ＝集中力
- ・見通しをもてる

不得意な理由

- ・聴覚情報が苦手
- ・一応入力はされているような気がする
- ・絵は嫌いなのでは？
- ・ボディイメージがつかみにくい
- ・経験不足である
- ・我慢が足りない
- ・興味がない

4 生徒の課題（1と3の結果から）

- ・ 聴覚情報を基に行動する。
- ・ 空間認知が弱く自分の位置を知りながら、活動する。

5 生徒の目標 が見えてくる！！

【B グループ : C さん】

中学部 分析・課題シート

1 国・数のチェックリスト

国 語		数 学	
観点	(○～○歳レベル) そのレベルで○が付かなかった項目の内容	観点	(○～○歳レベル) そのレベルで○が付かなかった項目の内容
聞く	7～8歳レベル 簡単な放送や録音内容の要点がわかる・4数逆唱が1/2で きる	数と計算	6～7歳レベル
話す	7～8歳レベル 人に尋ねられた時にはっきり応答する・電話応答に慣れ る	量と測定	7～8歳レベル 間接比較で広い・狭いがわかる
読む	7～8歳レベル 身近な標識や広告を正しく読み・自分の文章を校正しようと する	図形	6～7歳レベル
書く	7～8歳レベル 簡単な手紙や日記を書く。句読点に注意して書く	数量関係 実務	7～8歳レベル 1000円までの金額と硬貨を対応できる・1000円の両替

2 得意分野・不得意分野の洗い出し（全体像）

得意分野

- ・ゲーム
- ・名前を覚える（三国武将・漫画）
- ・バスケ
- ・絵

不得意分野

- ・会話のやり取り（一問一答形式になる）
- ・人との関わり（特に新しい人）
- ・漢字の読み
- ・暗算
- ・マット運動

3 得意・不得意の理由

得意な理由

- ・興味・関心が高い
- ・失敗経験が少ない
- ・自分の得意・不得意がわかっている

不得意な理由

- ・自信がない
- ・自主性・積極性がない
- ・出力が弱い
- ・自分のことがわかっており、できないところがはっきりしている

4 生徒の課題（1と3の結果から）

- ・ 自信がないこと，自主性・積極性に欠ける
- ・ 自分のことをよくわかっていて，できないことへのチャレンジがみられない
- ・ 家庭との連携をもっと図りたい

5 生徒の目標 が見えてくる！！

(4) 実際

過程	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	資料・準備
導入 10分	1 はじめのあいさつをする。 2 本時の学習の流れを知る。 3 詩を読む。 (1) 全員で読む・個人で読む 全員で読む部分, 1年生が読む部分などに分けて読む 4 今日の漢字を学習する。 「門」を学習する	<ul style="list-style-type: none"> 授業のはじまりを意識できるように, 前を見るように指示する。 見通しがもてるように, 教師と一緒に確認する。(ST) プロジェクターを用い, 表示する (CT) どこを読むのか, どのくらいのスピードで読むのかを指示棒を使って示す。(CT) Bがみんなと同じスピードで読めるようにST3が横で一緒に読みながら支援する。 漢字を使った単語を発表できるように, 教師が支援する。また, CTからも提示する。 	ファイル プリント プロジェクター ホワイトボード 部首カード ひも・書き順シート
展開 35分	5 本時の学習を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 今日めあて 「高」, 「走」という漢字を使った文を考えて発表しよう。 </div> 6 「高」「走」という漢字の復習をする。 この漢字を使った言葉を考える(個) 7 単語をカードに書き, 掲示して発表する。 8 読み札となる文を考える。 発表した単語を使って日常生活場面を考える(個→グループ) 9 ワークシートに記入する。 10 考えた文を口頭で発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 今までのファイルを見ながら考えることができるように言葉掛けをする。 発表の方法は個に応じる。答えはカードに書いて前に掲示するようにする。 Bへは, 3個を目標に書くよう伝え, ファイルを見せる支援する。(ST3) 単語を使った文を作るときには, 動詞カードを使ってもよいことを知らせる。 文を作ること課題があるCへはカードの使用を促し, 確認しながら行う。(CT) 読み札の形式に合わせたワークシートを用意し, 文のバランスに気をつけて書くように指示する。(CT) ワークシートには薄い線を入れ, 文がバランスよく書けるようにする。 Bへは三語文以上の文になるように, 考えた文に言葉を加えるような支援する (ST3) ワークシートに記入した文を発表するように指示する。(ST) 	漢字カード 動詞カード ワークシート
まとめ 5分	11 本時の振り返りをする。 12 次時の内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 読みの確認ができるように, 単語カードをフラッシュ形式で提示する。(CT) 	単語カード

中学部授業研究 記録

1 題 材 国語「かるたを作ろう」

2 授 業 者 大島養護学校中学部 高野 博一 駒走 俊彦 若松 千代 宮崎 究

3 授業者反省

(1) 設定の理由

ア 漢字ができたときや新しいことを獲得したときの喜び、自分もできるんだ、すごいなどという喜びを日常につなげていくか、そして、生活にあふれている漢字を読めたときにすごいねと言われる喜び

イ 気持ちを伝える・整理することで、コミュニケーションが広がる。

ウ 生活の中で出てくる頻度の高い漢字から扱っている。

(2) 元気で活発、発表の多いグループである。書字への苦手意識のあり、書かない生徒もいる。

(3) 興味関心を高める書字指導の在り方

4 質疑応答及び討議 (STも参加して二グループに分かれてインシデントプロセス法により討議)

(1) Aグループ…生徒の興味関心を高める書字指導について主に話し合いを進めた。

ア モールや部首の活動のとき一斉指導だった、習得パターンに応じてグループにすると生徒の「待ち」時間を解消することができ、生徒同士の関わりも出てくるのではないかな。

イ 生活とのつながりが大事である。子どもたちは今日の漢字を使って、先生や友達の名前を作ったりしていた。そこをもっと大げさに認めて賞賛すると、自己肯定感も高まって生活とのつながりも出てくるのではないかな。教師が意識的にかかわることが大事ではないかな。

ウ 細かいところまで指導がなされていたが、それが指導案の展開などにも現れていたら授業の様子が指導案からも分かったのではないかな。

エ 中学部では国語は学年を解いたグループで学習している。だからこそ教科担と担任が連携を取ることが大事で、そうすることで宿題に取り入れることなどもでき、学んだ漢字を定着させることができるのではないかな。

オ 生徒も教師も生き生きしていた。今日の漢字も、もっと高いレベルの漢字の子も、もう定着している子もいるのではないかな。今後、子どもたちに自由に漢字を選ばせてもよいのではないかな。

(2) Bグループ

ア 子供たちの意欲が高いこと、ゲーム形式を取り入れていたこと、これまでの学習の積み重ねであること、連携のことなどに称賛があった。

イ モールを使つての文字形成は、今後どのようにつながっていくのか、どういう意図で行われたのかなど授業者に情報をもらいながら話し合いを進めた。

アセスメントや認知特性に対応したりすること、書字への苦手意識の高い子にとっては取り組みやすく、また、モールで形を作ることで細かいところまで意識ができるというよさもあるのではないか。子ども自身が取り組みたい課題を選択したことも意欲につながっている。

ウ 定着は、テストしたりや繰り返したりすることで図っている。「高」「走」も生徒の様子からは一見簡単そうに思えるが、これまでの繰り返しによるのではないか、それを教師が分かっていることも大事だ。生徒が課題を選ぶところでは、左右対称の漢字であったりそうでなかったり、曲線の運筆が入っていることなども考慮に入れて課題を設定していることも授業者から教えてもらった。

エ 他には、詩を読むところの指導、横の学び(漢字を使えるところまでいく)のことなど話題に上がった。

4 授業者より

意欲を高めつつ定着を図る、定着の評価ということだと思うが、自分たちも気にしているところだ。

テストの形式も実態に応じて 3 パターン準備しているが、それがどのように身に付いているか、日常にどうつなげるかについては、今後課題にしていきたい。

漢字の取り扱いについても話題に上がったが、既習の漢字でもこういう使い方もあるという横のつながりをもたせることで日常につなげて、身近な人とのつながりをもっと大事にしていきたいと思った。

5 指導助言（県教育庁義務教育課 特別支援教育係 谷村 真由美 指導主事）

(1) 20 年度の学習指導要領の改訂による指導計画の見直しの観点は「言語活動の充実」で、さらに国語には「伝え合う力」がキーワードだった。

(2) 「どういう姿が見られたから△と考える」「こう望んでいたが、少しできなかったから△ 理由をこう考えるから次の授業にはこう活かす」 授業改善には評価が不可欠である。どの授業でも常に大事にしてほしい。

(3) よく「よい文ができたね、拍手～」と言ってしまいがちだが、何を評価したいのか。子どもが、何をどうがんばったからほめられたということを知るような賞賛の在り方を考えていけるとよい。

(4) 「かるた」は頭文字を使うが、「運動会」は「動」のカードだった。「かるた」と言えば、頭文字からイメージする言葉が分かりやすいのではないか。「かるた」の遊び方を大事にしてほしい。それから、絵を見て絵札を作る活動が次に設定されているが、絵札を見て取るのではなく、あくまでも文字が主体なので、絵札の代わりに漢字があってもよいのではないか。

※ B グループは県特研での研究授業、授業検討会のため、様式が異なる。

グループにおける取組のまとめ（中学部Bグループ）

教科「題材名」	国語「かるたを作ろう」	授業者	高野 博一
アセスメントメンバー	駒走俊彦，宮崎究，若松千代，藤山美由紀		

1 授業参観で出された意見〔○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見〕

- 生徒が見通しをもち、学習することができている。
- アセスメントに基づいた漢字学習が展開されている。(筆順・モール・部首カード)
- 発表のポイント制により、生徒の意欲が高く挙手がすばらしい。
- 学習スピードの差によって、生徒の待ち時間があつた。
- 発表がたくさんあつたが、教師が板書していない。生徒への視覚的フィードバックがない。
- ※ 導入部分の漢字学習が長すぎたため、内容の精選が必要ではないか？
- ※ グループ活動を取り入れることで生徒の待ち時間が解消されないか？

2 授業検討会で出された意見〔○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見〕

- T Tの方法がよかった。(プリントの配付・C T, S Tの役割分担)
- 漢字学習の際に定着を図るための学習形態があればよかった。→グループ活動をしては？
- 内容を精選し、生徒にじっくりと考えさせる場面があればよかった。
- ※ 称賛するときは、目標を意識した評価をして生徒に分かりやすく返していく。
- Q 学習する漢字を選んだ理由は？文字選定の理由。
→A 発達段階の配慮，生活でよく使うもの
- Q モールを使う意図は何なのか？
→A 書くことから離れ，操作性のしやすさから選んでいる

3 授業検討会を受けて、改善に取り組んだ点

〔実態把握を中心とした分析・解釈，目標達成のための手立て，他学部とのつながりなど〕

- ・ 称賛のポイントを具体的に伝えることをしている。
- ・ ペア学習の機会を取り入れ，生徒同士で取り組ませる環境を作った。
- ・ 文を書くということの指導について，生徒の書いた文の広がりをもたせるために，「どこで」や「誰と」などの発問をするように心がけている。
- ・ 教師と生徒の言葉のやり取りが一往復で終わらないように，再度発問するなどして言語活動の充実を図っている。

4 アセスメントの一連の流れや授業参観→授業検討会を終えて，所属学部での「指導の一貫性・継続性」を行う上での成果や課題等について

〔○:成果 ●:課題(困っていること) ※:改善点や意見〕

- 年度が変わったときに，同じグループで持ち上がった教師が一人でもいると指導の一貫性・継続性があると思う。
- 他のグループの学習状況が共通理解できたところは，よかった。
- チェックリストの活用がこれまで以上にできているのはよい。
- テーマ研究の時間を活用して，生徒のアセスメントや授業の進め方を共通理解できたことはよい。ちゃんと授業に還元できていたと強く思う。
- 来年度に向けてグループ編成を今後考えていくと難しいと感じている。
- ※ チェックリストの項目を達成できるための学習活動を計画するとよいことと，チェックリストからわかる発達年齢ごとにグルーピングするとよいと思う。

【Cグループ：Dさん】

中学部 分析・課題シート

1 国・数のチェックリスト

国 語		数 学	
観点	(○～○歳レベル)	観点	(○～○歳レベル)
	そのレベルで○が付かなかった項目の内容		そのレベルで○が付かなかった項目の内容
聞く	(9歳以上レベル) ・(4～5歳) 左右の弁別をする	数と計算	(5～6歳以上レベル) 5/8 ・差が5までのひき算をする ・具体物や数字で5までの数の合成・分解 ・2けたの数字の読み書き ・(2～3歳) 3までの数字の読み書き
	(8～9歳以上レベル) 2/8 ・(6～7歳) 他人に簡単な要件を伝言する ・(7～8歳) 要件を落とさずに話す ・(7～8歳) 必要などときには標準語で話す ・(8～9歳) 要件を落とさず要領よく話す		(5～6歳以上レベル) 3/4 ・何時半かわかる ・(4～5歳) 形の大中小を区別する ・(6～7歳) 太い・細いに分かり比較する ・(6～7歳) 厚い・薄いに分かり比較する
話す	(6～7歳以上レベル) 6/7 ・読み方や意味の不明な文字や語句に注意する (5～6歳) 左右の弁別をする	量と測定	(6～7歳以上レベル) 2/3 ・(3～4歳) 2枚の三角板で四角形をつくる ・(4～5歳) 紙飛行機を自分で折る ・(6～7歳) 前後、左右、上下などの言葉を正しく使う
	(6～7歳以上レベル) 5/7 ・自分の名前などを漢字で書く ・ひし形をまねてかく		(6～7歳以上レベル)
読む		図形	
書く		数量関係 実務	

2 得意分野・不得意分野の洗い出し（全体像）

得意分野

- ① 意見を発表すること（表現）
- ② 簡単な漢字が使われた内容なら読む（要実態把握）
- ③ 平仮名を書くことができる
- ④ 簡単な内容を説明したり、相手に伝言をしたりすることができる

不得意分野

- ① 筆圧が弱い
- ② 単語を書くときに、どうも→ども、うれしいな→うれしななど長音の表現に課題がある
- ③ 大きな文字を書いたり、大きな絵を描いたりすること
- ④ 授業内容や出来事・気持ちなどの詳細の説明

3 得意・不得意の理由

得意な理由

- ① 聞く力が強い。話すことが得意。
簡単な英単語や歌詞などを覚えることが得意
- ④ 人と関わるのが好き。興味・関心が強い。
学習全般への意欲が強い。

不得意な理由

- ① 濃い鉛筆を使用し、線をはっきり出すことで意識付ける。
- ② 繰り返しの学習を行う機会の減少
- ③ 一行の高さや幅が分かっていないから
視覚の理解力が弱いから（認知面）
視覚情報と聴覚情報（書く→整理）
マスの大小の区別の必要性

4 生徒の課題（1と3の結果から）

- ・ 改まった状況で、教師からより詳しい説明を求められる際に、自分で文章化して説明をすること
- ・ 決められた枠内に適切な大きさと文字を書いたり、絵を描いたりすること

5 生徒の目標が見えてくる！！

国語科学習指導案(略案)

指導者 墓本 武志(CT) 川村 雄一郎(ST)

1 題材 童話・物語

2 対象生徒 Dさんの実態

(1) 個別の指導計画における重点目標

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達に対して、正しい言葉遣いでコミュニケーションを図ることができる。 ・ 休み時間等を利用して、自分のタイミングでトイレに行くことができる。 ・ 授業中や休み時間において、話している人の目を見て、話を聞くことができる。 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(2) 標準検査の結果

検査名(実施日)	検査結果 ※解釈等は(3)で述べる
S-M社会生活能力検査(H 2 4 . 4 . 2 1)	CA21-3, SQ42, SA5-2
WISCIII (H 2 4 . 6 . 1 3)	全検査 40 未満, 言語性 47, 動作性 40 未満
本校チェックリスト	国語 聞く(9歳以上) 話す(8~9歳) 読む(6~7歳) 書く(6~7歳) 数学 数と計算(5~6歳) 量と測定(5~6歳) 図形(6~7歳) 数量関係実務(6~7歳)

(3) 話し合いでの分析・見えてきた課題(標準検査の解釈等)

<p>・相手の話を聞いて、自分の言葉で説明をしたり、伝言をしたりすることができるが、肝心の要件を落とすことがある。相手の話を聞いて、質問をしたり、話したりすることや関わることに積極性が見られ、学習全般に対する学習意欲は高い。また、筆圧が弱く文字が薄いため文字を見落とすことが多い。文字の大きさに関しても、一文字ずつ枠を与えれば枠内に適した大きさで書くことができる。よって、Bや2Bなどの濃い鉛筆を使用して文字や線をはっきり出すことを活動の中で意識付けさせたい。そして、視覚情報及び聴覚情報から、要点を整理し、上記の内容をふまえて書く力や文章を構成する能力を育くみ、発表を通して、自分で文章化した内容を表現する力を身に付けることをねらいとする。</p>

(4) 本時の個人目標

<p>ア 物語の絵を見たり、楽しく聞いたりして、おおまかな流れを掴むことができる。</p> <p>イ 物語の世界を味わい、進んで楽しい場面を発表したり、文章で表現したりすることができる。</p>

(5) 個人目標に対する指導及び支援に当たって

<p><u>アについて</u></p> <p>・プリントやテレビで映し出す動画と同じ絵を活用することにより、視覚的・聴覚的におおまかな流れを振り返ることができるようにする。</p> <p><u>イについて</u></p> <p>・各場面で吹き出しを扱うことで、登場人物の表情や物語の内容の読み取り、自分の言葉でセリフを考え、表現することができるようにする。</p>

3 本時の実際

過程	主な学習活動 ※指導及び支援上の留意点は除く	資料・準備
導入 (10分)	1 始めの挨拶をする。 2 本時の学習内容を知る。 ・(前時の学習を確認) 3 本時の学習目標を知る。 登場人物の気持ちを考えよう。	・PC ・TV ・確認カード等一式
展開 (30分)	4 動画を見る。 5 プリントの吹き出しに台詞を書く。 6 発表をする。	・PC ・TV ・プリント ・タイマー ・指示棒 ・カード(登場人物) ・カード(表情)
終末 (5分)	7 次時の学習内容を知る。 8 終わりの挨拶をする。	・PC ・TV

テーマ研究⑦ 「授業検討会①」まとめ

【基本教諭】

① 授業者より

略案の 3 番，自分で文章化して表現すること，大きな字で書く，筆圧が弱いため濃い鉛筆をしていた。ICT活用で大型テレビを用いた。生徒の興味・関心が高い。

自分の言葉で表現することを重点に置いていた。マス目を活用したら効果的だと感じて取り組んでいる。全体を通して一回は見ているので，あとは生徒の感じた表現方法があると思っている。誤字・脱字については指導できるが，内容がそれている生徒に対する指導については課題が残る。対象生徒に対する課題は自分では感じていない。

②グループ発表

教材・題材について

あらすじの理解をしているが，場面が多いと感じた。ひとつの場面にしぼって，一番心が動いた場面についてのみ考える。「気持ち」に焦点化して。感情については難しいので他教科においても指導が必要。

TTの在り方について

プロのST，CTがしてほしいことを感じ取る。教師が寸劇をやってみてDさんの発言を引き出すのはどうか。シーンや場면을思い浮かべることができればいいのに

時間を区切って，Hさんのみの指導体制を改善する。他の子への指導も必要であると感じた。(他の生徒の学習保障)

参考資料

- ・ 鹿児島県総合教育センター 指導資料 特別支援教育 第 163 号
「知的障害のある児童生徒が主体的に活動する授業の工夫 ―みんなが参加できる授業を目指して―」
- ・ 鹿児島県総合教育センター 指導資料 特別支援教育 第 156 号
「知的障害のある児童生徒の生活に活かす教科指導の進め方 ―算数・数学科の指導を通して―」

グループにおける取組のまとめ（中学部 Cグループ）

教科「題材名」	国語「童話・物語 ～うその名人～」	授業者	墓本武志
アセスメントメンバー	川村雄一郎・古村洋介		

1 授業参観で出された意見〔○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見〕

- 授業のメリハリがよい。発表は大きな声。書く時間みんな無言で集中。バンバン書いていた。
- 授業の決まりがよい。「できました。」「どうするといいですか？」
- 動画を見ることでストーリー(あらすじ)をつかむことができ、その後、吹き出しのプリントすることで、つかんだことを自分なりの言葉で表現し深められる。
- 【Dさん】ワークシートの枠でバランスよく書いていた。
- 枠をつけたワークシートや場面の流れがわかる教具がよい。
- 絵カードで場面を3つに並べることは、でき事を考える手立てになっている。
- タイマーも活用し取り組む時間が分かる。
- DVDが教材としては、やや長すぎるのではないか。あらすじの展開として、内容をすべて見せていくと登場人物の気持ちを考える場面が多すぎるのでは？
- 登場人物の気持ちを問うているのか、台詞を考えさせているのか、生徒たちのイメージをふくらませているのか。焦点化をさらにすすめるとよい。
- ST(川村)と、落ち着かない生徒【I君】との会話や動きが、他の生徒の刺激になっている。
- 【Dさん】発表以外の発言が気になる。
- 【Dさん】テレビ画面が見えにくい位置にあったのではないか。
- ※ DVDは本日考えるところだけ見るようにしてもよい。
- ※ 「気持ちを考える」ことをより生徒の行動として具体化するとよい。4コマ漫画の活用。
- ※ 【Dさん】書くときに左手を閉じているので、広げて紙を押さえることも授業の中で声かけが必要。発言を制限することで発表も少なくなると考えると、どうしたらよいのかと思うが・
- 筆圧の弱さに対する支援は、文字スタンプを使ってもよいのではと感じた。
- ※ もう少します目は大きくて、量が少なくてもいいのでは(セリフなので)。
- ※ 表情カードで気持ちを考えてから台詞を考えると、思いつくのではないか。

2 授業検討会で出された意見〔○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見〕

- ※ DVDは長いので、本日の内容は、一番心を動かされた場面に絞るなどするのもよい。
- ※ 表出感情について、日常から手立てをするとよい。
- ※ (発表以外の発言が気になる→) ※活動・発言の場を多めに設定するのも一つの方法。
- ※ STが、落ち着かない生徒Iに関わる時間を区切るのも良いのではないか。

3 授業検討会を受けて、改善に取り組んだ点

〔実態把握を中心とした分析・解釈、目標達成のための手立て、他学部とのつながりなど〕

- ・ 気持ちについて考えたり、意思を表現したりするときに、必要に応じて、表情カードから選択して表出できるように、適切な感情の表出ができるようにする。
- ・ 【Dさん】筆圧が弱くても書きやすいように、鉛筆よりも書きやすいペンを場合によって使う。
- ・ 【Dさん】書くときに左手を広げて押さえるようにする。

4 アセスメントの一連の流れや授業参観→授業検討会を終えて、所属学部での「指導の一貫性・継続性」を行う上での成果や課題等について

〔○:成果 ●:課題(困っていること) ※:改善点や意見〕

- 題材に関連した力を、普段の学習や生活の中でどのように発揮しているか。アセスメントを活用することで、授業の展開に生かした。
- ※ 童話・物語について、生徒それぞれで、知識の量に差がある。知識の量を把握しながら、小学部・中学部段階で、家庭や学校で、読んだり、聞いたりする機会を設定できるとよい。
- ※ グループ内での細かいグループ学習の在り方。
- ※ 課題に取り組みやすくなる、見本の示し方と、選択肢の与え方について共有できるとよい。

【D グループ : E さん】

中学部 分析・課題シート

1 国・数のチェックリスト

国 語		数 学	
観点	(〇～〇歳レベル) そのレベルで〇が付かなかった項目の内容	観点	(〇～〇歳レベル) そのレベルで〇が付かなかった項目の内容
聞く	4～5歳 (〇3/6問) 物の位置関係を含む命令 (2～3歳) 日常、目に触れているものの特徴を聞いて正しく指差す (3～4歳) 左右の弁別、三つの簡単な同時命令 (4～5歳)	数と計算	5～6歳 (〇3/8問) 100までの数唱、2つずつ10まで数唱 和が10までの足し算 2桁の数字の読み書き
話す	3～4歳 (〇5/8問) 4語文を話す、ままごとで役を演じる 3語文の復唱	量と測定	4～5歳 (〇2/4問) 日付や時刻に関する言葉が分かる 時計を見て何時か興味をもつ
読む	3～4歳 (〇2/5問) 物の特徴を聞くと、正しい答を指せる 話がとぎれそうになると「どうしたの?」と催促する 絵本を見ながら、子ども同士いろいろなことを話す	図形	6～7歳 (〇2/3問) 自分を中心として上下が分かる (3～4歳) 自分を中心として左右が分かる (4～5歳) 前後、左右、上下などの言葉を正しく使う (6～7歳)
書く	6～7歳 (〇4/7問) 進んで文字を書こうとする 簡単な語いや短い文を平仮名や片仮名で書く 簡単な絵日記を書く	数量関係 実務	5～6歳 (〇3/5問) 子どもだけで色々なお店を作り、ごっこ遊びをする (4～5歳) 1対1対応をして5までの集合の大小が分かる 簡単な生活の処理を〇、×の表で表す

2 得意分野・不得意分野の洗い出し (全体像)

得意分野

- ① 経験した活動では、見通しをもって行動する
- ② 自ら挨拶をすることができる
- ③ 体を動かすこと、音楽の授業
- ④ 慣れた教師や友達に自らかかわる
- ⑤ 写真やイラストを見て、知っていることを言ったり、ジェスチャーで表現したりする
- ⑥ 好きな動画や写真を見ること (PC 操作)

不得意分野

- ① 長時間同じ作業 (学習) を続ける
- ② 突然、人前で発表する
- ③ 十分な見通しがない中で、新しい学習に取り組む
- ④ 授業参観で両親が来た中で授業を受ける
- ⑤ 自分の思いや意見を言葉で伝える

3 得意・不得意の理由

得意な理由

- ① 慣れてきた
- ② 彼に効き目のあるほめ方で手続きが行われた
- ③ 好き (楽しさが分かる)
- ④ コミュニケーションがとりたい
- ⑤ 人と上手に関わることができる
- ⑥ 昔から取り組んでいた

不得意な理由

- ③ やったことがない (モデルでは不十分)
- ①③ やりたくない気分
- ⑤ 他のツールがある

4 生徒の課題 (1と3の結果から)

- ・ 音声言語によるコミュニケーション行動の更なる獲得

5 生徒の目標 が見えてくる!!

数学科学習指導案(略案)

指導者 平 世理奈(CT) 板敷 大和(ST)

1 題材 金銭

2 対象生徒Eさんの実態

(1) 個別の指導計画における重点目標

- ・ 心理的に安定した状態で集団での活動に参加し、同じ場で友達と一緒に活動する量を増やしていくことができる。
- ・ 気分が乗らない時や取り組みたくない活動のときに適切な方法で教師に伝えることができる。
- ・ 自分から色々な教師・友達へ自分の要求を伝えたり、報告したりすることができる。

(2) 標準検査の結果

検査名(実施日)	検査結果 ※解釈等は(3)で述べる			
・ 本校チェックリスト	国語 聞く(4～5歳)	話す(3～4歳)	読む(3～4歳)	書く(6～7歳)
	数学 数と計算(5～6歳)	量と測定(4～5歳)	図形(6～7歳)	数量関係実務(5～6歳)

(3) 話し合いでの分析・見えてきた課題(標準検査の解釈等)

- ・ 慣れた教師や生徒に対しては、自らかかわり自分の意見や思いを言葉で伝えることから、これらの行動を広げる(対象の幅を広げる)ことでコミュニケーション力を向上させたい。
 - ・ やったことがない、本人がやりたくないなどの状況になると、寝転ぶなど音声言語以外でのコミュニケーションツールを使うことがあるので、音声言語での意志の表出場面を意図的に設定し、かかわる。
 - ・ 既習事項や日常でのできごとを音声言語で正しく伝えることもでき、繰り返しの学習が効果的である。
 - ・ プリント学習では、やるべきことと残り時間が分かれば、集中し「できました！」と意欲的に取り組む。
- これらのことから、①授業展開をある程度決められたものにする、②導入で本時の学習をイラストと同時に提示することで見通しをもたせる、③動作性のある学習を繰り返し行い、生徒の活動量の保障する、④できたことへの達成感を十分に味わわせることが、課題に対する手立てとして有効ではないかと考えられた。
- 本題材「金銭」については、2学年時に、お金を大切に扱うこと(財布の活用)、硬貨や紙幣の種類を理解すること、6種類のおもちゃ(全て100円)の中から欲しいものを選び「これ、ください」と言って簡単な買い物をすることなど金銭の扱いや買い物について学習しており、これらは、小学部生活科の内容から設定した。
- そこで、3学年時では、①両替などの等価関係について、人とのやり取り(音声言語での正しいコミュニケーション)をとおして理解すること、②簡単な買い物について、人とのやり取りをとおして指定された現金を出すことやおつりやレシートをもらうなど金銭の使い方に慣れることができるようにしたい。
- これらの学習を土台にすることで、年賀状の準備や12月の社会見学での買い物、食事代の支払いなどに意欲的かつ自信をもって取り組むことができ、これまでの「数と計算」の理解も向上すると考える。

(4) 本時の個人目標

- ア 「両替をお願いします」と言って1000円紙幣を手渡し、500円硬貨2枚を受け取ることができる。
- イ 支払いの場面でお金を手渡し、おつりとレシートを受け取り、買い物での成功体験を積み重ねることができる。

(5) 個人目標に対する指導及び支援に当たって

- アについて** 音声言語で自分の思いが伝わるということを十分に実感できるように、はっきりとしない言葉のときには、教師がくり返しながら理解を示し、再度言うように促すことで定着を図るようにする。
- イについて** 「これ、ください」や「お願いします」など生徒が発した音声言語を十分に共感することで、買い物の楽しさを味わいながら、支払いやおつり・レシートをもらう手順について定着を図るようにする。

3 本時の実際

過程	主な学習活動 ※指導及び支援上の留意点は除く	資料・準備
導入 (3分)	1 始めの挨拶をする。 2 本時の学習の流れを知る。 【①よむ、②あわせる、③もんだい、④かいもの】	・ 顔プレート ・ 学習内容プレート
展開 (37分)	3 硬貨や紙幣を見て、金額を発表する。【よむ】 4 指定された紙幣や硬貨を取り出す。【あわせる】 5 両替をする。【あわせる】 6 硬貨や紙幣についてのプリント学習をする。【もんだい】 7 買い物をする。【かいもの】 8 買い物をしたもので楽しむ。	・ PC ・ お金(財布) ・ プリント ・ レジ ・ おもちゃなど
終末 (5分)	9 後片付けをする。 10 本時を振り返る。 11 終わりの挨拶をする。	

テーマ研究⑧ 「授業検討会②」まとめ

【平教諭】

① 授業者より

個人目標のA(両替)について、前時から本題材に入ったが、これまでの学習の振り返りなどを中心に行ってから取り扱うことにしたため、取り扱わなかった。硬貨の種類は区別することはできた。

買い物の場面で支援ツールを工夫することで、一人でできることが多くなると感じた。対象生徒はチェックリストから図形に強いため、写真を使ったお金の種類の区別学習に取り組んでいる。

また、おつりを想定していなかったが、払い方によってはおつりが必要であると感じた。(レジにおつりの用意がなかった)

対象生徒のデジタルタイマーへの理解はある(10秒前からカウントを始める)ように思われる。

② グループ発表

生活単元学習との違いについて(数学科として)

生単と数学は流れの中のひとつなのか、目的はどうなのかで違う。実体験をとおして学べる。

数学⇒計算のことについて学習する。 <数学をとおして買い物>

生単⇒買い物について学習する <買物をとおして数学>

計算のことについての買い物学習なのでお金の回収もあり。生単とは目的が異なり、買物を数学科の題材として取り上げることについては問題ない。教師(指導者)が目的(ねらい)を明確にもち、生単との違いが明確化されていればよい。実体験として現物のお金の使用は有効である。

他のグループでの取り組みについて

両替のやりとり、マッチング、硬貨の種類

買い物学習を取り入れることで意欲が高まるのであれば有効

買い物学習をした後に題材に関連するプリント学習などでまとめの学習をすれば、数学的観点で評価でき、そうすることで生単との違いははっきりするのではないか。

生活とのつながりについて

実体験をとおした学習ということで生徒が金銭について学べることはよい。(本物の硬貨、紙幣の使用)

数学科としてのワークシートの在り方について

対象生徒の場合、マッチングをとおして学ぶことが有効であろう。視覚・聴覚優位に合わせて学ぶ方法を変えること(生徒の適正に合わせる)が重要である。

グループにおける取組のまとめ（中学部Dグループ）

教科「題材名」	数学「金銭」	授業者	平 世理奈
アセスメントメンバー	板敷 大和		

1 授業参観で出された意見〔○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見〕

○ Jさんへの「できました」のツール(iPod touch)はいいなと思いました。(3人)
○ グループの雰囲気明るくていいです。励まし合ったり、教え合ったり(2人)
○ 現金(本物)を使うことは現実感があっていいです。(実態に合っている)
● 現金の取り扱いは大丈夫か。(やぶったり、なくしたりしないか)
○ 買い物学習：学習したことを生かして実生活に活用する場面を設定していた。(雰囲気が本物らしくて良かった)
● 買い物学習：実際に近い形態で良いが、生単と数学の活動では何が違うか。(目標、支援・評価の在り方)
● 過去の校外学習の写真を見せて「かいものにいこう」の意欲作りができていたが、さらに意欲的(自発的)な活動にするにはどのような工夫が必要か？
● お金を先生からもらって、買い物して、時間になったら返す…実生活とのつながりがあるか？
○ プリント学習で丸をたくさんもらい、意欲が高まってよい。
● 集合数としての「120」の意識づけについては、「理解できている」という段階をどのようなアセスメントで判断するかが課題だと思われた。(120円はあえて金額の問題から計算の問題にかえたのか？)
○ ICT機器の活用で興味が高められて良かった。
●※ 「買い物ヒント」カードがレジの横ではなく、財布の中にあるといいなと思いました。
● デジタルタイマーに対する理解力はどうか。(活動の残り時間をプロジェクターで示していた)
※ アナログタイマーの方が視覚的には理解しやすいかもしれない。
● 財布が使いにくそうだった(出しにくい、入れにくい)
※ チェック式の財布はどうか。実生活とつなげるなら、本人所有の財布を使用させてはどうか？
● 買い物学習の①自己評価、②他者評価の方法を明確にするために、授業展開にどのような工夫が必要か？

2 授業検討会で出された意見〔○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見〕

○ 実体験を通した学習ということで生徒が金銭について学べることはよい。(本物の硬貨、紙幣の使用)
※ 生単と数学は流れの中のひとつなのか、目的はどうかで違う。
※ 計算のことについての買い物学習なのでお金の回収もあり。生単とは目的が異なり、買い物を数学科の題材として取り上げることにについては問題ない。教師(指導者)が目的(ねらい)を明確にもち、生単との違いが明確化されていけばよい。実体験として現物のお金の使用は有効である。
※ 買い物学習をした後に題材に関連するプリント学習などでまとめの学習をすれば、数学的観点で評価でき、そうすることで生単との違いははっきりするのではないか。
※ 対象生徒の場合、マッチングをとおして学ぶことが有効であろう。視覚・聴覚優位に合わせて学ぶ方法を変えること(生徒の適正に合わせる)が重要である。

3 授業検討会を受けて、改善に取り組んだ点

〔実態把握を中心とした分析・解釈、目標達成のための手立て、他学部とのつながりなど〕

・ 授業の展開を「買い物学習→関連するプリント学習」にした。(数学科としての評価)
・ 本物の硬貨や紙幣を使った音声や文字とのマッチングでは、財布から全て取り出して行うようにした。
・ 「言う」、「書く」などの動作性を多く入れながらくり返すことで、より自信をもって活動できるようにした。

4 アセスメントの一連の流れや授業参観→授業検討会を終えて、所属学部での「指導の一貫性・継続性」を行う上での成果や課題等について

〔○:成果 ●:課題(困っていること) ※:改善点や意見〕

○ チェックリストの分析から生徒の得意な方法を生かすことで、より主体的に学習に参加できることが分かった。
○ チェックリストの結果や見立てを複数の教師で共有し意見を出し合うことで生徒の実態把握を多くの教師で行うことができ、新たな支援のアイデアをもらったり、共有理解を図ったりする場にもなった。
● 生徒の学習目標と評価の引継については通知表(あゆみ)に留まってしまい、指導の意図や支援の具体例などを十分に引継できていない。
● 個別の指導計画における重点目標と関連性(つながり)のある各教科の目標設定が十分ではない。

【E グループ : F さん】

中学部 分析・課題シート

1 国・数のチェックリスト

国 語		数 学	
観点	(○～○歳レベル) そのレベルで○が付かなかった項目の内容	観点	(○～○歳レベル) そのレベルで○が付かなかった項目の内容
聞く	2～3歳レベル 「～シテ～スル」という二つの関係が分かる 3数詞を復唱する	数と計算	2～3歳レベル 3までの数字の読み書きをする
話す	1～2歳レベル きわめて対照的な大きさを表す言葉を使う	量と測定	2～3歳レベル 速い・遅いなどの用語の意味が分かり、 行動できる
読む	2～3歳レベル 物の用途が分かる	図形	2～3歳レベル なし
書く	2～3歳レベル なし	数量関係 実務	2～3歳レベル 長い、短いがわかる

2 得意分野・不得意分野の洗い出し（全体像）

得意分野

- ・ マッチング
- ・ 鬼ごっこ
- ・ 風に当たること
- ・ 動物や食べ物の名前を覚える
- ・ オウム返し

不得意分野

- ・ 大きな音
- ・ 体を触られる
- ・ 言葉による意思表示
- ・ 指差し
- ・ 体育座りを続けること
- ・ 同じ場所から動かずに立っていること

3 得意・不得意の理由

得意な理由

- ・ 同じ・違いが分かるから。
- ・ 楽しいから？
- ・ 落ち着くから？

不得意な理由

- ・ 聴覚過敏
- ・ 触覚過敏
- ・ 興味・関心が低く、意欲がない。
- ・ 出来なくても困らない。

4 生徒の課題（1と3の結果から）

- ・ コミュニケーションスキル（絵カード・動作サイン・指差し）を身に付けること
- ・ 学習への意欲

5 生徒の目標 が見えてくる！！

数学科学習指導案(略案)

指導者 徳重 浩二(CT) , 栄 華子(ST), 馬場 真理(ST)

1 題材 数を数えよう

2 対象生徒 Fさんの実態

(1) 個別の指導計画における重点目標

- ・ 活動の仕方や順序を覚え、一人でできることを増やすことができる。
- ・ 身振りやサイン、写真や絵カードを活用し、自分の意志を伝えることができる。

(2) 標準検査の結果

検査名(実施日)	検査結果 ※解釈等は(3)で述べる
本校チェックリスト (平成 26 年 8 月)	国語 聞く (2~3歳) 話す (1~2歳) 読む (2~3歳) 書く (2~3歳) 数学 数と計算 (2~3歳) 量と測定 (2~3歳) 図形 (2~3歳) 数量関係・実務 (2~3歳)

(3) 話し合いでの分析・見えてきた課題(標準検査の解釈等)

1 行動観察から

- ・ 自閉的傾向。聴覚過敏で、日頃から耳ふさぎをする場面が多い。また、触覚過敏で、体を触られると過剰に拒絶反応をしたり、自分の体を触った人の手をつかんで触られた部位に持っていき入力し直したりする行動も見られる。
- ・ 授業中は指導者の視線を気にして、視線が自分に向いていないことを確認すると一人でできる学習活動をしているときであってもすぐに姿勢を崩したり、離席したり、声を出して笑ったりして学習活動に取り組むことをやめることが多い。
→集中して学習課題に取り組める環境づくりが必要。

2 チェックリストから

- ・ 国数ともに「話す」以外はおおむね2~3歳レベルである(6~7歳のレベルでチェックが入っている項目もある)。また、小学部低学年からチェックの数があまり増えていない。
→1つでも多くチェックを入れられる項目を増やす。
※ 中学部二年生修了までにチェックを入れたい項目

数学	国語
【数と計算】 2~3歳レベル 3までの数字の読み書きをする。 3~4歳レベル 5までの個数、数詞と数字の対応をする。 【図形】 2~3歳レベル 円をまねてかく。 3~4歳レベル 十字をまねてかく。 直線、曲線をまねてかく。 【数量関係・実務】 4~5歳レベル 硬貨の種類が全てわかる。→3種類	【聞く】 2~3歳レベル 3数詞を復唱する。 【読む】 4~5歳レベル 平仮名で書かれた自分の名前が読める。 【書く】 3~4歳レベル 十字をまねてかく。 5~6歳レベル 自分の名前を平仮名で書く。 三角形をまねてかく。

(4) 本時の個人目標

- ア 活動に見通しをもち、「一人でする学習」をすべて一人ですることができる。
- イ 数字・図形をなぞり書き・視写した学習を生かし、自分の名前をなぞり書きしたり視写したりすることができる。

(5) 個人目標に対する指導及び支援に当たって

アについて

授業の始めに授業の流れを書いたプリントを生徒に提示することで、学習に見通しを持つことができるようにする。また、生徒の後ろに立つことで、生徒が集中して学習課題に取り組めるようにする。

イについて

筆記用具をマジックペンにすることで、自分で書いた線がはっきりと分かるようにする。視写が難しいときは、指導者が始点と終点を書き、その間を指でなぞる支援をすることで、書きかけを作り、生徒が自分で数字・図形・名前を書くことができるようにする。

3 本時の実際(別紙)

3 本時の実際 (40分間) ※ (生徒のトイレ及び移動時間確保のため、授業を10分短縮して行っている。)

過程		主な学習活動 ※指導及び支援上の留意点は除く			資料・準備
導入 (3分) 9:45~9:48	指導者：徳重	指導者：馬場		指導者 栄	
	生徒：F	生徒：K 生徒：L		生徒：M	
1 各自で活動Ⅰの準備をする。(教材・教具、場の設定) (2分) 2 始めの挨拶をする。(1分)					
展開 (32分) 9:48 ～ 10:20	活動Ⅰ (22分) 9:48~10:10	3 本時の学習の流れを教師と一緒に確認し、見通しを持つ。 4 一人でする学習活動 (1) 色並べ 赤もしくは青のシールが底に貼られたセルトレイの中に、同色のビー玉を1つずつ指でつかみ、計10個正しく入れる。 (2) 箸つかみ フェルトボールを箸でつかみ、セルトレイに1つずつ入れる。 (3) マッチング 同じ絵のカードを横並びにして5種10枚の絵カードをペアごとに台紙に貼る。 (4) パズル 8ピースのパズルをする。 5 教師と一緒にする学習活動 (1) なぞり書き ・ 数字(1~10) ・ 図形(○+△□) ・ 文字(自分の名前) (2) 視写 ・ 数字(1~3) ・ 図形(○+△) ・ 文字(自分の名前) (3) 硬貨の弁別 ・ 10円玉・100円玉・500円玉	3 シールを使い、マッチングしながら日付の確認をする。 4 二人で協力しながら課題を行う。 (1) マッチング 6種類の写真を、同じものとマッチングさせる。 (2) いちごならべ いちごの形をしたお手玉を、1から6まで順番に並べる。 5 一人でする学習 (1) おはじき 1~3までの数を枠の中に、おはじきで数えながら並べていく。 (2) パズル 0~9までの数字と記号のパズルを、順序よくはめていく。	3 本時の学習の流れを教師と一緒に確認し、見通しを持つ。 4 一人でする学習 (1) 色ならべ 赤、青、黄、白、緑の色玉を同じ色の枠に並べる。 (2) はしつかみ 箸でフェルトボールをつかみ、枠に入れる。 (3) パズル 46ピースのパズルをする。 (4) 線つなぎ 1~30間での数字を順序よく線でつなげる。 5 教師と一緒にする学習 (1) お金 200円、120円、150円、40円、500円、350円の中から教師が言った金額を出す。 (2) 足し算 ・ 5以下の数字同士の足し算をする。 ・ 6以上の数字がある足し算をする。	プリント ファイル 筆記用具
	活動Ⅱ (10分) 10:10~10:20	6 各自で活動Ⅰの片付けをする。(2分) 7 魚釣り大会の準備をする。(3分) 8 魚釣り大会をする。(7分)			フェルトの魚・さお タイマー・数字カード 海用の青いフェルト
終末 (5分) 10:20~10:25	9 魚釣り大会の片付けをする。(2分) 10 プリントに本時の振り返りを記入し、ファイルにとじる。(2分) 11 終わりの挨拶をする。(1分)			プリント ファイル 筆記用具	

テーマ研究⑧ 「授業検討会②」まとめ

【徳重教諭】

① 授業者より

1人でする学習については、1学期から取り組んでいること。いつもどおり間違えずにできた。8ピースのパズルに困惑していた。さらにピースを増やす予定である。

教師と一緒にする学習活動では、チェックリストを参考にし、できる項目を増やしたい目的で設定してある。

自分の名前を書くことが難しいため、図形の形を用いて名前を描く学習につなげたいと考えた学習をしている。触られることに過敏なので、嫌がっていたが今は抵抗なく受け入れている。調子によって今回は2の視写が難しかった。他者とのコミュニケーションを狙ったさかなつりである。今後もコミュニケーションにアプローチした課題を増やしていきたい。

② グループ発表

アセスメント向上の在り方について

どんなアセスメントがあるか。運動、視覚、注意力、記憶など細かなアセスメントが必要である。また、それを測るためにどのようなテストが必要であるか考えることも必要である。個々のチェックリストを用いていたり、オリジナルのチェック表を用いて様々な視点で実態把握をしたりすることが大事である。

評価について、前はできていたことができなくなったり、できなかったことができていたりすることがある。できた時の周りの状況(どうしてできたのか、どんな支援でできたか)、もちろん本人の調子もあると思うが、詳細に原因を分析して引き継ぐことができれば、アセスメントの向上は図られていくのではないか。

自発性・達成感の向上について

賞賛することで、次の行動が引き出せると考える。この繰り返しは、別項の達成感の向上にもつながると思う。

学習する内容を自分でスケジューリングさせることも自発性の向上につながると考えられる。学習内容や、自分の好きなことを自分で選択させ、一時間の計画を立てさせてみてはどうか。

グループにおける取組のまとめ（中学部Eグループ）

教科「題材名」	数学 「数を教えよう」	授業者	徳重 浩二 馬場 真理 栄 華子
アセスメントメンバー	徳重浩二，馬場真理，栄華子，藤山美由紀		

1 授業参観で出された意見〔○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見〕

- 一人でする活動，教師と一緒にする活動，友達と一緒にする活動と活動にメリハリがあった。
- ティーチプログラムの理論に基づいたスケジュールに対する見通しがよく理解されており，生徒が安心して活動に取り組んでいた。
- 一人一人に合った学習課題が設定されていた。
- 友達と一緒にする活動では，生徒の係分担がされており，準備・片付けを生徒がしていた。
- なぞり書きと視写の活動は大切であるが，内言語と文字言語の理解はどの程度の理解レベルなのか。
- 金種の学習は，視覚情報が優先しているのであれば，数字を並べて提示する意味はあるのか。段階的なステップ指導をどのように考えていくか。
- 数の学習では，1，2，5，10のまとまりの指導がなされるが，6のまとまりをした意図は？
- 一人でする学習が終わった後に生徒が達成感をもてる方法，支援をとっていくとさらに伸びるのでは？
- ※ 更なる自発的な行動，目標，見通しを持たせるための指導の在り方は？
- ※ 数学で身に付けた力を他の教育活動にどのように広げたらよいか。
- ※ 数学科に関する年間の個人目標が示されると授業内容の方向性が出てくるのでは。

2 授業検討会で出された意見〔○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見〕

- ※ 数学のアセスメントだけでなく，運動，視覚，注意力，記憶など細かなアセスメントも必要である。
- ※ 大きな賞賛を繰り返したり，生徒自身に自分の学習のスケジュールを立てさせたりすることで，さらなる自発性を引き出すことができるのでは。
- ※ これまでできていたことができなくなったり，しようとしなくなったりすることがある。それが生徒の体調によるものなのか（個人因子），学習環境によってなのか（環境因子），記録をして次年度以降に引き継いでいくことができればアセスメントの向上が図られていくと思われる。
- ※ 国語や社会生活一般のチェックリストの項目にも目を向けるなどもっと細やかなアセスメントをとる。

3 授業検討会を受けて，改善に取り組んだ点

〔実態把握を中心とした分析・解釈，目標達成のための手立て，他学部とのつながりなど〕

- ・ コミュニケーション能力を伸ばすため，STや周りの生徒と関わる場（「お願いします」「ありがとう」「下さい」）を多く設定した。
- ・ 数学で身に付けた力を他の教育活動に広げるため，まずは本生徒と関わる時間や機会が多い教師（ペア担・自活担当）と情報交換をこれまでよりも多くするようにした。
- ・ 更なる自発性や自主性を引き出すために，大きな賞賛を繰り返したり，生徒自身に自分の学習のスケジュールを立てさせたりした。また，トークンエコノミー法を授業に取り入れた。

4 アセスメントの一連の流れや授業参観→授業検討会を終えて，所属学部での「指導の一貫性・継続性」を行う上での成果や課題等について

〔○:成果 ●:課題(困っていること) ※:改善点や意見〕

- 学習目標の設定や学習内容，手立てを設定するために，チェックリストを活用することは有効であると思った。
- 日頃から所属学部の教員間のきめ細かな情報交換による情報共有と，それに基づく共通実践をしていくことが，生徒一人一人の能力をさらに引き出すことにつながることを再認識した。
- しかし，そのための時間をどのように確保していくか。また，中学部の全ての生徒の実態把握や共通実践は難しい面がある。
- ※ すべての生徒の実態把握は難しいが，共有する内容（たとえば個別の指導計画の全体像の部分）を検討することから始めるのもよいのでは。
- ※ より細かなチェックリストを活用し，発達の視点を踏まえたアセスメントを丁寧に行うことが大切である。

5 研究のまとめ

(1) 成果

- ・ 年度末にしか見ることのなかったチェックリストを活用することができたこと。
- ・ 他のグループの実践を見ることができて参考にすることができた。
- ・ 様式が統一されていたので、今年度はやるべきことが分かり、進めやすかった。
- ・ 対象授業を国語・数学に焦点化していたことがよかった。
- ・ 小グループでの話し合いの場が設定されたことで個人のテーマ研に対する研究意欲も高まった。
- ・ 批判されない授業研究のスタイルがよかった。

(2) 課題

- ・ チェックリストの項目は現状のままでよいのか再考する必要があると感じた。グループによっては別の視点でも実態把握していたのでそれを知りたいと感じた。
- ・ 他学部の参観者が少なかったため、他学部の意見が少ないように感じた。一貫性・継続性の部分でその部分は課題であったと感じている。
- ・ 実態把握の段階では評価者によってばらつきがあると感じた。
- ・ 今回のように国語・数学だけでは全体像を把握しきれないため、個別の指導計画にはつながらないのではないか。

(3) 改善点・来年度に向けて

- ・ 短期間では評価できない項目があると思う。その点に関しては長い目で評価することも必要である。
- ・ 今回の結果を踏まえて、来年度の国語・数学のグループ編成や指導計画などに結び付けられたらよいと感じた。その際は、前年度のグループ指導者を残すことで継続性があるのではないかと感じた。
- ・ 評価のばらつきをなくすためには、客観的な評価基準を作ることが必要である。
- ・ 生徒の把握の際に、重点目標だけではなくもっと共通理解する項目があってもよいのではないかと感じた。
- ・ 生徒の行動の原因を複数の目で検討する研究をしていきたい。
- ・ チェックリストの項目が細分化しすぎて活用しきれないことを実感した。
- ・ 社会で生活するときに、活用できる支援方法やツールを考えることも必要である。
- ・ 今年度の機会をきっかけにして、他教科にも拡大できたらよいと感じた。

(4) 他学部からの意見

- ・ 中学部のまとめにもあったように、チェックリスト以外の実態把握方法を考え、学校全体で共通理解していけたらよいと思う。

6 資料

① 「中間報告会」のねらい、流れ、ルール



平成 26 年度 テーマ研究⑤

「中間報告会」

鹿児島県立大島養護学校 中学部

期 日	平成 26 年 8 月 28 日 木曜日
時 間	10 : 10 ~ 11 : 10
場 所	音 楽 室
司会・記録	テーマ研究係（板敷，高野）

発表者が「発表して良かった」と思える中間報告会に！

☆ 中間報告会の流れ

- ① 各グループの記録係から「分析・課題シート」について説明【1分】
一番聞きたい所，迷った所，アドバイスが欲しい所を中心に！
- ② 発表者への質問タイム【1分】
「分析・課題シート」から見えてこない実態などについて簡潔に！
- ③ グループでの話し合い【5分】
発表者からの質問や疑問などに対して，建設的な意見を！
- ④ グループの発表【3分】
他グループの分析やアドバイスを共有！

中間報告会（話し合い）のルール

- 1 発表者（相談者）を支援することを目的とする。
- 2 テーマに関して，専門的な知識がある／ない，詳しくないといった基準や意見は持ち出さない。
- 3 発表者を批判しない。“もし自分が指導に当たるなら”，“もし自分が相談者ならどうする”といった視点で意見交換を行う。

☆ 発表の順番

順番	時間	発表グループ	資料
1	10:15~	E (〇〇, 〇〇, 〇〇)	P1~
2	10:30~	B (〇〇, 〇〇)	P5~
3	10:40~	D (〇〇, 〇〇)	P7~
4	10:50~	C (〇〇, 〇〇)	P9~
5	11:00~	A (〇〇, 〇〇)	P11~

☆ 話し合い編成グループ*

チーム名	ルリカケス	クロウサギ	アカショウビン
メンバー	A 小倉	A 緒方	A 田浦
	B 若松	B 駒走	B 宮崎
	C 墓本	C 古村	C 川村
	D 平	E 馬場	E 徳重
	藤 山	E 栄	E二 禮木

※ 話し合いでは役割を固定しない。(司会や発表の係は順番で！)

※ 司会の係は前ページの「中間報告会(話し合い)のルール 1~3」

を確認しながら進めてください。

② 「実践報告会」の流れ、話し合いの進め方



平成 26 年度 テーマ研究⑨

「実践報告会」

鹿児島県立大島養護学校 中学部

期 日	平成 26 年 12 月 5 日 金曜日
時 間	16 : 00 ~ 16 : 50
場 所	音 楽 室
司会・記録	テーマ研究係（板敷，高野）

☆ 実践報告会の流れ

- ① 本日の流れについて説明【2分】
- ② 各グループから「グループにおける取組のまとめ」について説明【3分×3】
中間報告会や授業検討会でのアドバイスや改善点を中心に！
- ③ グループでの話し合い【23分】
本年度の成果と課題や来年度の方向性などについて KJ 法を活用して
- ④ グループの発表【2分×3】
他グループの成果と課題を共有し来年度へ生かす（方向性の参考とする）

☆ 発表の順番

順番	時間	発表グループ	資料
1	16 : 02 ~	E (〇〇, 〇〇, 〇〇)	P 3 ~
2	16 : 05 ~	B (〇〇, 〇〇)	P 5 ~
3	16 : 08 ~	D (〇〇)	P 7 ~

☆ 話し合い編成グループ

チーム名	ルリカケス	クロウサギ	アカショウビン
メンバー	A 田浦	A 緒方	A 小倉
	B 駒走	B 若松	B 宮崎
	C 墓本	C 古村	C 川村
	E 馬場	D 平	E 徳重
	E 栄	E二 禮木	藤 山

☆ KJ 法の具体的な進め方

- 1 各グループ、リーダーと発表者を決める。【1分】
- 2 本年度のテーマ研究(全体、学部)について
成果・よかった所：桃色
課題・気になった所：青色
解決したいこと・改善点：黄色
を付箋紙に書く。【5分】
- 3 一人で付箋紙を貼りながらその内容についてコメントをする。【全員で8分】
- 4 次の人も同じように付箋紙を貼っていく。同じ意見は、その内容の近くに貼る。
- 5 全員が貼り終わったら、内容ごとに線で囲み、赤で見出しをつける。
(リーダー)【2分】
- 6 出された意見を参考にして、
「来年度のテーマ研究で取り組みたいこと(課題として残ったもの)」
「この場で共有しておきたい多く出された意見」
「この場で共有しておきたい問題点・改善点」
などを話し合い、3、4点書き出す。【7分】
- 7 各グループの発表者が2分以内で協議した内容を発表する。【6分】

高等部研究



高等部 数学「金銭」

高等部研究

VIII 高等部研究	70
------------	----

1 研究テーマ

高等部研究の趣旨

2 研究の経過（概要）

3 研究組織

4 研究の実際

研究の進め方について

Aグループ（課題分析，指導案，授業研究，取組のまとめ）	72
-----------------------------	----

Bグループ（課題分析，指導案，授業研究，取組のまとめ）	79
-----------------------------	----

Cグループ（課題分析，指導案，授業研究，取組のまとめ）	86
-----------------------------	----

Dグループ（課題分析，指導案，授業研究，取組のまとめ）	93
-----------------------------	----

Eグループ（課題分析，指導案，授業研究，取組のまとめ）	99
-----------------------------	----

Fグループ（課題分析，指導案，授業研究，取組のまとめ）	105
-----------------------------	-----

5 研究のまとめ	111
----------	-----

Ⅷ 高等部研究

1 研究テーマ 「一人一人の社会参加と自立をめざす一貫性・継続性のある指導」 ～アセスメントを利用した指導を中心に～（研究 1 年次）

(1) 高等部 研究の趣旨

国語、数学の領域に対象を絞り、アセスメント全般についての実践を通して、個人の状態像を理解し、必要な支援や指導を考えたり、将来の行動を予測したりする。そして、授業後の成果を検証し、アセスメントについて学び合うものである。

2 研究の経過（概要）

高等部におけるテーマ研究の実施経過は下の表のとおりである。

月	日	曜	主な研究内容		様式等の作成	形態
6	26	木	テーマ研究③	高等部の研究テーマについて（提案）		全体→ 高等部
7	10	木	テーマ研究④	各研究グループでの実態把握・分析を行う。 (全体像からの課題分析を中心に)	【様式 1（課題分析）】を 8 月 31 日までに提出。	各研究グ ループ
8	28	木	テーマ研究⑤			
9	25	木	テーマ研究⑥	中間報告会 ※学部全体で各研究グループの課 題分析（【様式 1】）について意見交換する。 →この後、修正等を加え、略案に反映。	【様式 2（略案）】を 9 月 中に検討。	高等部
10	1 ～ 15		各グループの 提供授業	各研究グループでこの期間に提供授業を行う。 ※提供授業の日程は 9 月中に決める。	【様式 2（略案）】を提供 授業の前々日までに提出。	各研究グ ループ
10	16	木	テーマ研究⑦	各研究グループで、ワークショップ型による提 供授業の評価・反省を行う。 ※マトリクスシートを利用	【様式 3（グループにおけ る取組のまとめ）】を作成。 11 月末までに提出。	各研究グ ループ
11	13	木	テーマ研究⑧	各グループで実践報告会に向けた準備。 （【様式 3】の作成）		
12	5	金	テーマ研究⑨	実践報告会（学部全体）、アンケート		高等部
1	22	木	テーマ研究⑩	高等部の研究発表、質疑応答		全体

3 研究組織

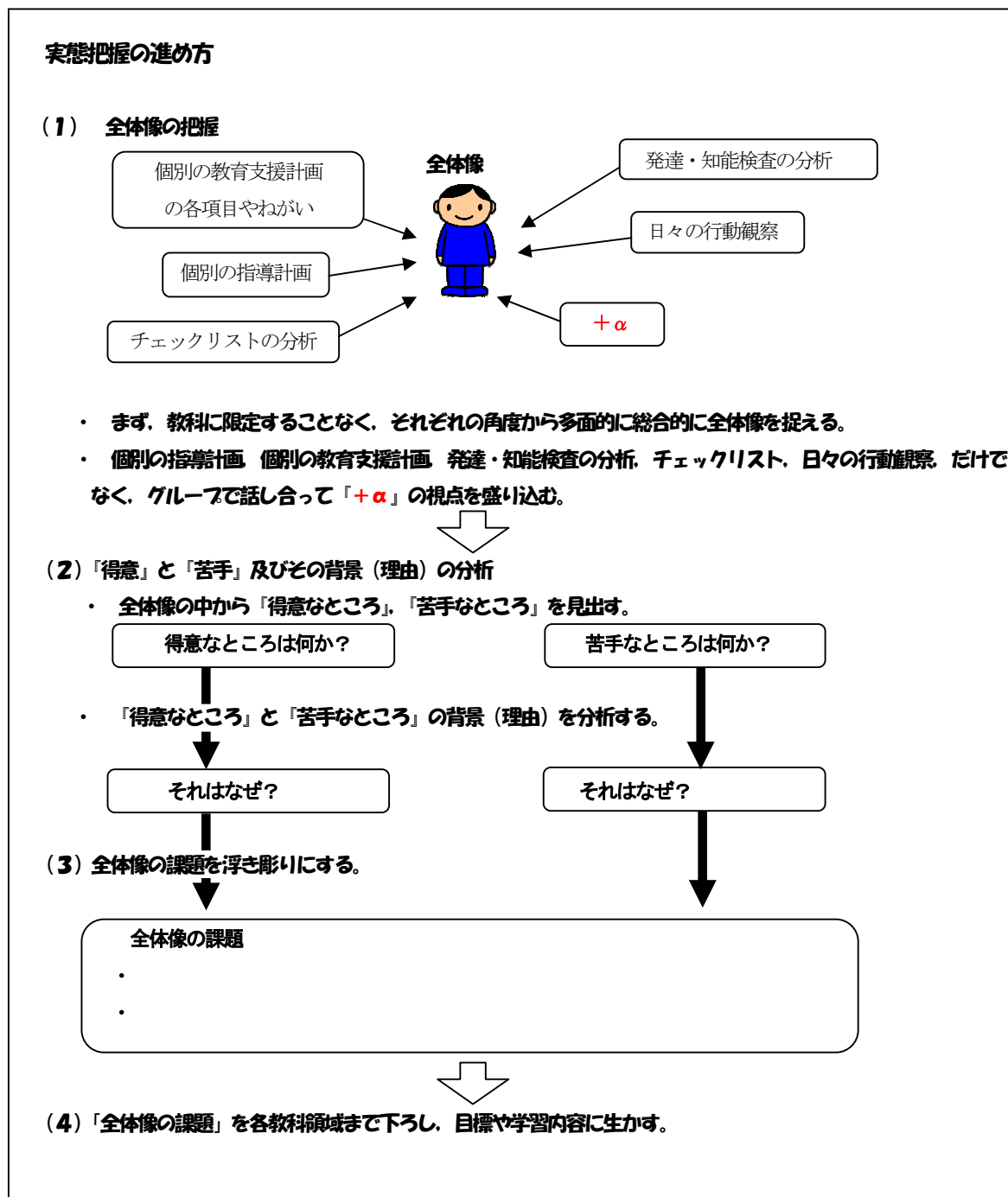
教科授業の指導グループを基本的な単位として、複数の指導グループを合わせて、6つの研究グループを編成した。各研究グループを中心に実態把握、分析、実践（授業）、授業研究、改善、まとめを行い、テーマ研究係がこれを取りまとめた。

高等部テーマ研究係（東 和史, 小野 恭一）						
	A	B	C	D	E	F
研究グループ	数学科	国語科	国語科	数学科	数学科	自立活動
対象の教科等	春口 陵二 大重 耕平 有満 勝利 淵上新一郎 内山 沙織	榊 慶太郎 濱田千代美 平 麻衣子 栢木 翔 島元 渚紗	宮ノ前真志 北原 貴志 島田 理香 榮 香菜子	上園菜穂子 岩元 美紀 前原 修一 最上 淑子 前山 優香 中和田明宏	栢 哲也 下野 千春 里 康一郎 宝 政樹 米里みなみ	永正 彰人 坂元 輝夫 前田みゆき 久保香菜子 小野 恭一 東 和史
構成メンバー						

4 研究の実際

(1) 研究の進め方について

テーマ研究③（6月26日）において、研究の趣旨、研究の進め方、研究グループについて係の提案を行った。そして、アセスメントを通じた研究を進める上で基礎となる実態把握の進め方について、モデルケースを提示して共通理解を図った。



「実態把握の進め方」自体は、個別の指導計画を立てる手法と大きく変わらないものであるが、テーマ研究では、全体像の把握において、研究グループごとに「+α」の視点を取り入れるようにした。その後、実態把握により明らかにした「全体像の課題」を各教科・領域まで下ろし、実践授業を行い、その成果を検証するようにした。

(2) Aグループ

ア Aグループの課題分析

テーマ研究 高等部 対象生徒の全体像を捉えるためのアセスメント 【様式1】 (1/2)

高等部 (A) グループ 対象生徒 (ア)

個別の教育支援計画

- ・全体に出した指示を、自分が理解するまで時間がかかる。
- ・話を聞くことが苦手。
- ・人に物事を尋ねることができない。

個別の指導計画

- ・積極的な会話がほとんどない。
- ・することが理解できるまで動かない。
- ・個別に指示した内容は理解することができる。
- ・どんなことにも丁寧に取り組む。

発達・知能検査

- ・特になし

チェックリスト

- ・書くことは丁寧な字を書く。ただ意味を持った文を書くことが難しい。
- ・計算が得意 (四則演算)

行動観察

- ・急がせるとパニックになる。
- ・勝ち負けにとてもこだわる。

+α []

- ・特になし

テーマ研究 高等部 対象生徒の全体像を捉えるためのアセスメント (2/2)

高等部 (A) グループ 対象生徒 (ア)

得意なところは何ですか？

- ・運動することが好き
- ・読みは内容を理解することは難しいが音読ができる。
- ・書くことは丁寧な字を書く。ただ意味を持った文を書くことが難しい。
- ・計算が得意 (四則演算)
- ・個別に指示した内容は理解することができる。
- ・どんなことにも丁寧に取り組む。

苦手なところは何ですか？

- ・全体に出した指示を、自分が理解するまで時間がかかる。
- ・話を聞くことが苦手
- ・人に物事を尋ねることができない。
- ・積極的な会話がほとんどない。
- ・することが理解できるまで動かない。
- ・間違うとショックを受ける (動揺する)
- ・急がせるとパニックになる。
- ・勝ち負けにととてもこだわる。

それはなぜですか？ (背景・理由)

- ・「やり方」を理解しやすい (すでに理解している。)
- ・「丁寧」に書くことが1つのアイデンティティかもしれない。
(自己を肯定する1つの手段か?)

それはなぜですか？ (背景・理由)

- ・日常生活動作に弱さがある。弱視も1つの原因かもしれない。
- ・間違うとショックを受けたり、急いで答えを出させることに抵抗があることから、自己肯定感が低いことが予想される。
- ・多少こだわりがあるかもしれない。
- ・短期記憶に弱さがあるため、指示を聞くことが難しいのかもしれない。
- ・自己肯定感の低さから発言も少ないのか？

分析

全体像としての課題

- 長い文章や指示が理解できない。
- やり方を理解するまで、物事に取り組まない。
- 経験の不足や発達のアンバランスから社会性が乏しいことが予想される。

全体像としての課題から見る、生徒アへの手立て

- ・授業全体をとおして指示は短くする。
- ・板書指示には文章を用いず、単語を大きく書きならべる形にする。
- ・ST がCT の指示を理解できたか必ず確認する。
- ・グループ学習を積極的に取り入れ、発言を多く引き出す。
- ・同じくグループ学習ではリーダー的な役割を与え、自己肯定感を高めることで言語活動を活発にする。

Aグループ
独自の視点！

イ 授業の実際

数学科学習指導案(略案)

日 時 平成 26 年 10 月 2 日(木)5 校時
 対 象 高等部男子 4 名女子 2 名計 6 名
 場 所 高等部 1 年 1 組 教室
 指導者 有 満 勝 利

1 題材 金銭

2 対象生徒アの実態

(1) 個別の指導計画における重点目標

- ・ 分からないときや困ったときに、自分から教師に尋ねることができる。
- ・ 授業時間は集中して、時間いっぱい取り組むことができる。

(2) 標準検査の結果

検査名(実施日)	検査結果 ※解釈等は(3)で述べる
WISC-III (H25. 6. 26)	IQ42 (結果のみ)

(3) 話し合いでの分析・見えてきた課題(標準検査の解釈等)

◎チェックリストの分析

- ①数と計算：3桁同士の乗法や小数の乗法，(2桁÷1桁)の除法をすることができる。また，5桁の数字を比べ，大小が分かたり，小数点を読み書きしたりすることもできる。
- ②量と測定：時刻を読んだり，簡単な時間の計算をしたりすることができる。3等分が分かる。
- ③図形：具体物を抽象化し円，四角形，三角形に分類したり，前後，左右，上下などの言葉を正しく使ったりすることができる。
- ④量的関係実務：買った物とおつりをレシートで調べることができる。また，棒グラフや折れ線グラフの読み方と書き方が分かる。

◎その他の分析

- 運動することが好き ○読みは，内容理解は難しいが音読することはできる
- 書くことは，ゆっくりと丁寧に書く ○計算が得意(四則演算)
- 指示されたことを理解するまでに時間がかかる ●することが理解できるまで行動に移さない
- 間違えると動揺する ●急がせるとパニックになる
- 人に物事を尋ねることが苦手

(4) 本時の個人目標

- ア 買うものを3つ選び，その合計が所持金の範囲内に収めることができる。
- イ 買うものの支払い金額とお釣りの受け渡しを正確に行うことができる。

(5) 個人目標に対する指導及び支援に当たって

アについて

- ・ グループ学習をすることで，友達から教わったり，友達の模倣したりしながら活動できるようにしていきたい。

イについて

- ・ ワークシートを用いることで，授業の内容をまとめながら学習できる。

3 本時の実際

過程	主な学習活動	指導及び支援上の手立て	資料・準備
導入 (10分)	1 始めの挨拶をする。 2 等価関係の復習をする。 3 本時の学習内容, 目標を知る。 目標: 持っているお金で好きなものを買おう!	・正しい姿勢をとり, 大きな声で挨拶ができるような言葉掛けを行う。 ・挙手を募り, 前に出て発表するように促す。(A班の生徒を中心に) ・お金模型を黒板に貼って確認する。 ・今日の学習内容と学習目標を全員に伝わるように提示する。	模型お金 目標カード
展開 (30分)	4 お金の提示の練習を行う。 5 買い物学習を行う。 ① 持っているお金を数える。 ② 買いたい品物を選ぶ。 ③ ワークシートに選んだ品物を記入する。 ④ 合計金額を計算する。 ⑤ お金の準備をする。 ⑥ レジで支払いをする。 ⑦ 釣り銭の確認をする。 (早く終わった生徒は, メニューの異なる組み合わせでもう一度行う。)	・150円, 370円など丁度の金額(A班), 98円, 168円などお釣りの出る金額(B班)で練習課題を提示する。 ・全員にワークシートを配付する。 ・硬貨の入った袋を配付する。 ・買い物の手順を全員で考え, 順番に提示する。 ・A班で分からない生徒には, 黒板の手順表を確認するように言葉掛けを行う。 ・計算機が必要な生徒には配付する。 ・レジ役は教師が行う。 ・所持金の範囲内で買うことができた生徒には, 「よくできたね」と称賛の言葉掛けを行う。 ・支払いの際に, 料金が足りない生徒には「足りませんよ」などの言葉掛けを行う。 ・支払いが済んだ生徒には, 自分が支払った金額とお釣りをワークシートにまとめることができるように言葉掛けを行う。 ・困っている生徒がいたら, 友達同士で教えあうことができるような言葉掛けを行う。	位取りカード 模型お金, 封筒 ワークシート レジスター 買い物手順カード 計算機
終末 (5分)	6 本時のまとめを行う。 7 次時の確認を行う。 8 終わりの挨拶をする。	・本日の学習を振り返り, 大切なことを意識させる。 ・次回は, 広告の中から好きなものを選んで買い物を行うことを伝える。 ・正しい姿勢をとり, 大きな声で挨拶ができるような言葉掛けを行う。	まとめカード 広告

ウ 授業研究

授業参観マトリクスシート

	良かったところ	気になったところ	改善点や意見
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習から授業へ向かう雰囲気が出ていた。ほめる声掛けも行ってた。 ・復習、前に出て正解のとき、花丸をすることで生徒の意欲は上がったと思います。 ・ワークシートがあることで整理(計算)がしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体格差があり、背が届きにくい生徒がいる。踏み台とか小さいホワイトボードとか… ・ワークシートの準備は、一人一人の目標達成のために必要な合理的配慮だろうか？ 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・何度か繰り返す(間違ってもチャレンジ)できるようになってくる。出力をたくさんさせる工夫だった。 ・お金の両替や実際の買い物の状況に近い設定があり良かったと思う。意欲的に活動し、試行錯誤していた。 ・A・Bの色分けは分かりやすい。 ・「〇〇をする」とかではなくて、どうすればいいかを書いてある(手掛かり)を言葉掛けしていた。 ・ワークシートが見開きB4でよかった。 ・何をすべきか分かって動ける黒板だった。 ・トレイの底の部分が色が違うもので、お金が見やすくてよいと思います。 ・弁当購入やチラシなど、将来の自立に向けてためになる教材を準備していることがよい。また、弁当、副菜、飲み物のバランス良い食事を考えることにもつながっていた。 ・メニューを選ぶ自己決定の場面があってよかった。 ・レジでのコミュニケーションができていた。また、順番を守るルールにつながる。 ・自己肯定感の低い生徒への肯定的な言葉掛け。 ・体験的な活動で、レジの場の設定、教師がレジを打つのもリアリティがあった。 ・教え合いの視点があり、答えた生徒が、他の生徒に「あってますか？」 	<ul style="list-style-type: none"> ・お金の数え方とか、確認してから活動でもよいかも？Aグループ。アさんがワークシートを広げてお金の計算、記入をすることがよく理解できず、固まっていた。周りを見てしばらくしてから動いた。 ・プリントサイズがA3のため机上のスペースが狭い気がしました。 ・教師がレジをしていると、配慮が必要な生徒への支援ができなくなる。レジが行列状態になった時の生徒の支援者が不在になる時間帯が気になった。生徒がレジをしても良かったのではないかと(実態把握が必要) ・友達同士で教え合うのは良いことですが、「考え方」を教えるのではなく、「答」を教えていたのが気になった。 ・Aの生徒のうち2名は、お金を金種区分シートに上手く置いていなかった。 ・買い物コーナーはA・B別々が良かったのでは？ ・アさんの指示の聞き取りの弱さ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・100円玉×5+50円玉=1000円玉に対応できるカウントシートの改善策があればよいのでは？ ・A・Bの生徒をペアにして教え合う。 ・生活に生かす、つなげるにはやはりもっと校外に出る。ニーズがありますね。 ・A班の学習課題はもう少しレベルを下げてよかった。 ・数の大小についての実態把握があると生徒の取り組む課題の設定も実態に合わせられると思います。 ・お金の計算やお金を数える作業のときは、筆箱など机上からおろした方がよいかなと思った。ファイルや筆箱を置く場所を決める。 ・実際の金額で買う。1000円札でどれだけ変えるかのほうが現実的。 ・途中で、●●さんにレジ係を代わってもらってもよいのでは？レジをする●●君への手立て、レジ用のワークシートを準備する。 ・話し合いのリーダーや役割を作る。学習リーダーの必要性。 ・お互いに確認したり、声を掛け合うのは、なかなか難しいですね。Bグループはリーダーみたいな人をたてて声を掛け合うようにしても良かったのかなと思いました。 ・支払ったお金とお釣りが一つの皿に入っていた。皿に仕切りをつけるとか。 ・レジの支払いでは、個人に財布を

	<p>と確認したり、「分からないときは友達と協力してみよう」と伝えたり、普段から生徒同士関わり合うことを大事にしているようで良いと思う。</p> <p>・等価関係で大きな数の理解にいたなくても500円×2枚=1000円というようなものは、中学部でもやっている。</p>		<p>持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①持っているお金の確認, ②買いたい品物を選ぶ, は逆の方がよいのでは? ・レジのときに学習の確認ができるので, グループでレジの時間をずらす。 ・●●が140円を10円1枚, 100円4枚としていた。グループの生徒同士の確認があるといい。 ・アさんへの視覚支援はどうでしょう? (位置や明るさ) また, アさんへの言葉掛け (短く, 具体的に) ・ワークシート (計算用) が1枚しかなかった。余分にあると。計算作業がすっきりするようになった。
<p>終末</p>			

エ まとめ

グループにおける取組のまとめ（高等部Aグループ）

教科「題材名」	数学「金銭」	授業者	有満
アセスメントメンバー	大重 春口 瀧上 内山		

1 授業参観で出された意見 [○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見]

- 前時の復習から授業へ向かう雰囲気が出ていた。できたら褒めるという声掛けも行っていった。
- 何度も繰り返すとできるようになってくる。出力をたくさんさせる工夫だった。
- 実際の買い物の状況に近い設定があり良かったと思う。
- 「～をする」とかではなくて、どうすればいいかわかるような言葉掛けがあった。
- 体験的な活動を取り入れているところは、良いと思う。
- 弁当、副菜、飲みものなどバランスの良い食事を考えることにも繋がっていた。
- 普段から友達同士で関わることを大事にしている様子が伝わった。
- ワークシートがあることで整理しやすい。
- ワークシートの準備（一人一人の目標達成のために必要な合理的配慮だろうか?）
- ワークシートがA3のため机上のスペースがせまい。
- 教師がレジをすると、配慮が必要な生徒への支援ができなくなる。
- 買い物コーナーは、A班B班別々が良かったのでは。
- A班の生徒のうち2名は金種区分シートにお金をうまく置いていなかった。
- ※ ファイルや筆箱を置く場所を決める。
- ※ 実際の金額で買う→1000円でどれだけ買えるかが現実的。
- ※ Bグループはリーダーを立てて声を掛け合うようにしたら良かったかも。
- ※ レジの支払いでは、個人に財布をもたせる。

2 授業検討会で出された意見 [○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見]

- 活動の手順が明確に示されていて分かりやすい。
- 友達同士での活動ができていて良かった。
- 友達同士の関わり方について。（答えを教えるのではなく、方法を話し合う）
- アさんへの手立てが少ない。

3 授業検討会を受けて、改善に取り組んだ点

[実態把握を中心とした分析・解釈、目標達成のための手立て、他学部とのつながりなど]

- ・ 具体的な言葉掛け
- ・ 視覚提示（手順、時計、量、質問カード）
- ・ 役割を与えて、参加率を高める

4 アセスメントの一連の流れや授業参観→授業検討会を終えて、所属学部での「指導の一貫性・継続性」を行う上での成果や課題等について

[○:成果 ●:課題(困っていること) ※:改善点や意見]

- 手立てを複数の教員で考えることにより、様々な視点から効率的な支援、手立てが出てきた。
- アセスメントの結果をふまえ、どのような支援や手立てを考えて実行することができたのか、PDCAのプロセスを含め文面に残すことができた。
- 学部においては、特定の生徒に対する指導の一貫性を保つためにアセスメントの共有をする必要があるのではないかと考える。

(3) Bグループ
ア 課題分析

テーマ研究 高等部 対象生徒の全体像を捉えるためのアセスメント 【様式1】 (1/2)

高等部 (B) グループ 対象生徒 (イ)

個別の教育支援計画

- ・計算. 推論など時間がかかることもあるが, 計算方法や解き方を示すことですぐに理解することができる。(中)
- ・鉛筆の持ち方などを指導した。(中)
- ・言葉に詰まることもあるが, 落ち着いて話すことができるので, 学校生活に問題はない(中)
- ・得意なことパソコン(中)
- ・技術の時間に, 自ら積極的に活動できる。(中)
- ・運動が苦手(中)
- ・歌うことが苦手(中)

個別の指導計画

- ・他人の言動により, 傷つきやすい面もある。
- ・人の話をあまりよく聞かないときもある。
- ・思ったことや感じたことを, すぐ口にする傾向がある。
- ・さまざまな場面で落ち着いて活動できるようになってほしい。(保護者のニーズ)

発達・知能検査

[WISC-III] H24.8.22 実施

V1Q67 PIQ55 FIQ57

解釈

- ・数を扱う力が苦手であり, 論理的な思考は得意。
- ・視覚的な短期記憶に弱さがあるが, 長期的な視覚的情報を保持することは得意。
- ・視覚的な情報よりも聴覚的な情報の方が理解しやすい。ただし, 語彙力は小学校低学年の水準。

チェックリスト

- ・新聞をあまり読みなれていない。(中)
→新聞記事を読ませてみる。
- ・作文の構成が苦手
- ・説明書, 領収書など読むことができない。

行動観察

- ・積極的でないが, 周囲を見てみんなと一緒に行動できる。
- ・周囲のスピードに合わせて, 行動できる。
- ・授業中の教師の話を聞いて, 補助的パートに入っていた。
- ・学習活動の準備などのパートができる。
- ・昼休みは, 1人で過ごすことが多い。

+α【 行動観察の続き 】

- ・自分の話を要約して話をするのが苦手。
- ・保健室に来室し症状などを説明するとき, まとまらず長くなる。
- ・音楽の授業では, 言葉が聞き取りやすい。

テーマ研究 高等部 対象生徒の全体像を捉えるためのアセスメント 【様式1】 (2/2)

高等部 (B) グループ 対象生徒 (イ)

得意なところは何ですか？

- ・論理的思考は得意と思われる。
- ・学習した内容を自分なりに、身につけて活かすことができる。
- ・路線バスを利用して、出かけることができる。

苦手なところは何ですか？

- ・相手に伝わるような、言葉での表現や文章を書くのが苦手である。
- ・人の話を最後まで、聞くのが苦手である。
- ・2つの作業を同時にすることが苦手。

分析

それはなぜですか？ (背景・理由)

- ・WISCの結果からもうかがえる。
- ・短い言葉で順序立てて、自分の思いを表現することができる。

それはなぜですか？ (背景・理由)

- ・言葉を理解することは得意と思われるが、知的水準は小学校低学年レベルである。

全体像としての課題

- 人の話をよく聞き、状況に応じて発言することができる。
- 自分の気持ちや考え、経験したことを相手に分かるように伝える。

イ 授業の実際

国語科学習指導案(略案)

日 時 平成 26 年 10 月 14 日(火) 5 校時

対 象 高等部 男子 4 名 女子 3 名 計 7 名

指導者 濱田千代美(CT) 榊慶太郎(ST)

1 題材 物語「大きなあめ玉」

2 対象生徒イの実態

(1) 個別の指導計画における重点目標

- ・ 人の話をよく聞き、状況に応じて発言することができる。
- ・ 自分の気持ちや考え、経験したことを相手に分かるように伝えることができる。

(2) 標準検査の結果

検査名(実施日)	検査結果 ※解釈等は(3)で述べる
WISC—Ⅲ (H24.8.22)	VIQ 67, PIQ 55, FIQ 57

(3) 話し合いでの分析・見えてきた課題(標準検査の解釈等)

(分析) 発達・知能検査の結果、視覚的情報処理能力より聴覚的情報処理能力が高い、言葉を聞いて理解することが得意だと考えられる。その際、語彙の理解力が小学校低学年の水準であること、聴覚的な短期記憶に弱さが見られることを考慮する。その他、論理的な思考を得意としていること、視覚的な短期記憶に弱さがあるが、長期的に視覚情報を保持することは得意としていると考えられる。国語のチェックリストの結果から(聞く)9歳以上、(話す)9歳以上、(読む)7～8歳水準で、物語の場面の移り変わりや情景を叙述を基に想像しながら読むこと、読んだ内容を要点を押さえながら簡潔に相手に分かりやすく伝えることが難しいと考える。個別の指導計画、行動観察の結果から、自分の考えを人前でははっきりと主張することができるが、他人の強い口調や言動によっては傷つくことや人との会話の流れにのれないことが続くと、発表や行動が消極的になると考えられる。本人の話では、話したいことは頭に浮かぶが適切な言葉がすぐに思い付かず、しばらくすると思い付くため、相手が本人のペースに合わせてくれると話しやすいとのことだった。学習や日常会話の中で、他人に自分の考えが受け入れられる、話をする友達が増えるなど人との関わりの中で自分の言動に自信をもつことにより、授業中の発言や係活動に積極性が見られるようになった一面があり、特に友達との関係性がコミュニケーション力を伸ばすことにつながると考える。

(全体像としての課題)

- ・ 視覚情報を覚えるまでに時間がかかり、文字や図形を認識するのが苦手である。
- ・ 聞いた内容を一時的に保持しながら会話の流れに沿った受け答えをすることが苦手である。

(課題解決のための手立て)

- ・ 聴覚情報と視覚情報を併用して、情報提供を行う。(視覚的に活動や課題の手順を明示し、言葉で繰り返し説明する。板書では、大事な箇所は色ペンで記入する、印を付ける、線で囲う、指差しをするなど行う。)
- ・ 指示は、短文で一つずつ出す。
- ・ 学習の中でたくさんの言葉に触れる機会を作り、言葉の意味や使い方を理解できるようにし、語彙を増やす。
- ・ 簡単な読み物を読んで(家庭での夕読み)感想を聞く。
- ・ 日記で、正しく主語や述語、修飾語を使い、文章を書くようにする。
- ・ SSTやロールプレイを通して、人との関わり方や要点を押さえた受け答えの仕方について学び、練習する。
- ・ LHRや給食、昼休み、行事、レクリエーションなど、気心の知れた友達との会話や余暇を楽しむ。
- ・ 要点を押さえた話し方の習得については、スモールステップで進める。まずは本人の伝えたいことを教師が要約して本人や周囲に伝えるようにし、本人がその話し方を知って使うようにする。

(国語における課題)

- ・ 文章の読解や漢字の習得に困難がある。
- ・ 音読の際、つまづき、読み間違い、読み飛ばしがあり、みんなと同じ速さで読むことが苦手である。
- ・ 口頭での指示や発問に対し、自分の考えや感想等、要点を押さえて簡潔に説明することが苦手である。
- ・ 問いの答えや感想文を書く際、伝えたい内容を主語や述語、修飾語の正しいつながりを意識して文章を書くことが難しい。

(国語における課題解決のための手立て)

- ・ 読み物の量や行間、文字の大きさ、太さ、フォントに気を付け、ワークシートを作成する。
- ・ 群読やロールプレイなど、友達のペースに合わせる練習や体験的な活動を取り入れる。
- ・ 縦書きの文章に触れる機会を作り、物語を読む際知らない語句はないか確認し、意味を理解できるようにする。
- ・ 物語を読む際は、黙読、教師の音読、友達と一緒に音読をするというように段階をふまえるようにする。
- ・ 問題集や宅習を通して、漢字を習得する。同音異義語等、言葉での意味づけをしながら覚えるようにする。
- ・ 問いの答えをワークシートに記入し、自分のペースで考えをまとめ、文章を書く時間を設定する。
- ・ 説明や発問は、具体的に簡単な短文で行い、本人が要点に気を付けて発表できるようにする。
- ・ 問いの答えや感想文をワークシートに記入し、正しく主語や述語、修飾語を使い、文章を書くようにする。
- ・ ワークシートに記入したものを確認しながら発表するようにしたり、発表する順番や内容に見通しをもつようにしたりして、主体的に発表できるようにする。

(4) 本時の個人目標

- ア 教師の手本を参考にして友達とペースを合わせながら「大きなあめ玉」の本文を一文ずつ読むことができる。
 イ 教師の発問に対し、ワークシートで確認しながら発問に沿った答えを発表することができる。

(5) 個人目標に対する指導及び支援に当たって

アについて

- ・ 量や行間、文字の大きさ、太さ、フォントに気を付けたワークシートの読み物を用意する。
- ・ 読み物を読む際は、黙読したり教師の音読を聞いたりしてから友達と一緒に音読をするようにする。

イについて

- ・ 読み物の内容に関する簡単な問いについて答えをじっくりと考える時間を設定し、読み物の内容を理解できるようにする。
- ・ ワークシートに記入した答えを教師と一緒に確認することにより、適切な文章表現や正しい文章が分かるようにする。
- ・ ワークシートを手掛かりにすることにより、自ら発表できるようにする。

3 本時の実際

過程	主な学習活動	指導及び支援上の手立て	資料・準備
導入 (7分)	1 始めの挨拶をする。 2 前時の学習をふり返る。 3 本時の学習について知り、学習のめあてを確認する。 「大きなあめ玉」を読んで、物語の内容を知り、あらすじをまとめよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 姿勢を正し、聞き取れる声で挨拶をするようにする。 ・ 「大きなあめ玉」のあらすじを思い出し、本時の学習へのつながりに期待をもつようにする。 ・ めあてを音読し、本時の学習内容が理解しやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語ファイル ・ めあて
展開 (30分)	4 本時の学習の流れを確認する。 5 「大きなあめ玉」を教師と一緒に音読する。 6 ワークシートの問いを解く。 7 ワークシートの問いについて発表し、物語の内容について確認する。 8 みんなでまとめた本時のあらすじをワークシートに記入する。 9 本時の学習をふり返り、あらすじについて確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習の流れを知ることにより、学習内容に見通しをもつようにする。 ・ 物語の本文と問題を黙読、音読することにより、物語の内容を理解しやすいようにする。 ・ 分からない語句があるか聞き、語句の意味を確認する。 ・ 机間巡視を行い、生徒の読解の進み具合を確認するとともに、物語の内容を生徒が理解できるようにする。 ・ STはCTの説明を生徒に個別に補足説明するとともに、後列の生徒を中心に問いの答えについて生徒の考えを引き出すようにする。 ・ 読解に必要な箇所があれば赤ペンなどで印を付けるようにする。 ・ CTは前列の生徒を中心に問いの答えについて生徒の考えを引き出すようにする。 ・ 早く問題を解く生徒には、別のワークシートを渡す。解き終わらなかったワークシートは宿題にし、後日提出するように伝える。 ・ 全員が共通のワークシートを解き終わったら答え合わせをする。 ・ 発表者と同じ考えの生徒がいるか確認し、多くの生徒に発表の機会を設定する。 ・ 生徒が考えを簡潔に分かりやすく発表することが難しい場合は、STがその意図をくみ取り、補足説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート ・ 赤ペン ・ ホワイトボード
終末 (8分)	10 感想を発表する。 11 次時の学習について知る。 12 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の学習に期待と見通しをもつようにする。 ・ 姿勢を正し、聞き取れる声で挨拶をするようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート

ウ 授業研究

授業参観マトリクスシート

	良かったところ	気になったところ	改善点や意見
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案やワークシートが詳細に書いてあり、とても分かりやすい。 ・見通しを持ちやすい板書になっている。 ・絵を用いてあり、分かりやすかった。 		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントの文字が大きめで見やすかった。 ・見通しを持ちやすいワークシートでした。 ・ワークシートが取り組みやすい。 ・プリントに問題を整理して書いていたこと。 ・プリントに課題を整理することで、効率的に授業を進められている。 ・プリントの字の大きさ、フォント等に留意し、読みやすいよう配慮していた。 ・細やかなワークシートの設問によって、生徒もスムーズに課題に取り組んでいた。 ・生徒の実態に応じて個別に的確にヒントを出していた。(2) ・丁寧な机間指導で、生徒はスムーズに課題に取り組んでいた。 ・ゆっくりと丁寧に文と一緒に読むことで、理解を助けることができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な生徒へのTTの関わり方は？ ・「確認」の活動では、自分の答えに対する自信のなさもあるため、正否の判断がしにくい状況への賞賛や花○が重要ですね。 ・文の大意を掴ませるといふめあてなので、文のキーワードをいくつか事前に抜き出させると分かりやすかったかもしれませんね。 ・(1) どのような方法ですか？に対して、「～という方法」と書ける生徒もいれば、本文をそのまま抜き出す生徒もいた。答え方についても学習していけるといいですね。 ・板書の仕方が気になりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文の内容を互いに説明したり、ロールプレイをすることで、言語活動を充実させると更にすごいと思いました。 ・生徒相互に話し合う活動を入れ、言語活動を高め合う展開もできると思う。 ・個別の実態差—プリントの問題量の差だけでなく、問題の出し方(ヒント有無含め)に区別を付けてもよいと思う。 ・小黒板を使って、視覚的情報として提示することでイメージ化がしやすい。 ・解答量(記述)の場合、選択する量の区切りに自信が無く、多く書くことがある。ワークの場合、解答の選択肢、キーワードの穴埋めはこれまで指導しているのかによって異なるが… ・答えは、本文中の一部を選ばせるか、考えさせて答えさせるのかをプリント中に明記しても良かったと思う。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学習態度が定着している。 ・教材の内容(あらすじ、事象のイメージ化、文言の理解度)及び学習(文章)量が適しているためか、集中して取り組んでいる。 ・生徒が非常に集中して課題に取り組んでおり、日ごろの成果が見られました。 		

エ まとめ

グループにおける取組のまとめ（高等部Bグループ）

教科「題材名」	国語「おおきなあめ玉」	授業者	濱田，榊
アセスメントメンバー	濱田，榊，平ま，島元，榊		

1 授業参観で出された意見 [○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見]

- 指導案やワークシートが詳細に書いてあり，とても分かりやすい。
- 見通しを持ちやすい板書になっている。
- 絵を用いてあり，分かりやすかった。
- プリントの文字が大きめで見やすかった。
- 見通しを持ちやすいワークシートでした。
- ワークシートが取り組みやすい。
- プリントに問題を整理して書いていたこと。
- プリントに課題を整理することで，効率的に授業を進められている。
- プリントの字の大きさ，フォント等に留意し，読みやすいよう配慮していた。
- 細やかなワークシートの設問によって，生徒もスムーズに課題に取り組んでいた。
- 生徒の実態に応じて個別に的確にヒントを出していた。(2)
- 丁寧な机間指導で，生徒はスムーズに課題に取り組んでいた。
- ゆっくりと丁寧に文と一緒に読むことで，理解を助けることができていた。
- 基本的な学習態度が定着している。
- 教材の内容（あらすじ，事象のイメージ化，文言の理解度）及び学習（文章）量が適しているためか，集中して取り組んでいる。
- 生徒が非常に集中して課題に取り組んでおり，日ごろの成果が見られました。
- 支援が必要な生徒へのTTの関わり方は？
- 「確認」の活動では，自分の答えに対する自信のなさもあるため，正否の判断がしにくい状況への賞賛や花○が重要ですね。
- 文の大意を掴ませるというめあてなので，文のキーワードをいくつか事前に抜き出させると分かりやすかったかもしれませんね。
- (1) どのような方法ですか？に対して，「～という方法」と書ける生徒もいれば，本文をそのまま抜き出す生徒もいた。答え方についても学習していけるといいですね。
- 板書の仕方が気になりました。
- ※文の内容を互いに説明したり，ロールプレイをすることで，言語活動を充実させると更にすごいと思いました。
- ※生徒相互に話し合う活動を入れ，言語活動を高め合う展開もできると思う。
- ※個別の実態差—プリントの問題量の差 だけでなく，問題の出し方（ヒント有無含め）に区別を付けてもよいと思う。
- ※小黒板を使って，視覚的情報として提示することでイメージ化がしやすい。
- ※解答量（記述）の場合，選択する量の区切りに自信が無く，多く書くことがある。ワークの場合，解答の選択肢，キーワードの穴埋めはこれまで指導しているのかによって異なるが…
- ※答えは，本文中の一部を選ばせるか，考えさせて答えさせるのかをプリント中に明記しても良かったと思う。

2 授業検討会で出された意見 [○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見]

- 生徒が集中して取り組むことができていた。
- 板書の字が読みやすかった。
- 付箋に書いていただく意見も、読み手が分かるような文章で書いていただかないと、意図が伝わらず、後に繋がらない。
- ※「生徒相互に話し合う活動を入れ、言語活動を高め合う展開」の意見があったが、この単元で、言語活動を更に取り入れるのであれば、問題数を減らすことで、話し合い活動等の時間を確保するか、予定されていた内容を2時間計画にすることが考えられる。ただし、生徒の話し合い活動は、本時では見られなかったが、前時までの学習では行っているので、学習活動の目標に合った活動量を検討していく必要がある。
- ※前時には、パソコンを使って視覚に訴える情報提供支援を行っている。
- ※設問に対する答え方の学習については、必要性がある。

3 授業検討会を受けて、改善に取り組んだ点

[実態把握を中心とした分析・解釈、目標達成のための手立て、他学部とのつながりなど]

- ・ワークシートの問題の一部を、選択肢やキーワードの穴埋めにすることによって生徒の実態に応じた資料を準備するようになった。
- ・小型のホワイトボードに図を書いて提示するなど、必要に応じた視覚的なアプローチを今後も継続して行う。
- ・設問に対する答え方についても、指導していくようにした。
- ※次時の学習までした後、作「おじいさんは、なぜ、あめの運び方についてアドバイスしたのか」「あなたがあめ玉を運びますか」という新たな問題提起をした後話し合い活動を取り入れる。

4 アセスメントの一連の流れや授業参観→授業検討会を終えて、所属学部での「指導の一貫性・継続性」を行う上での成果や課題等について

[○:成果 ●:課題(困っていること) ※:改善点や意見]

- 引き継ぎ資料をもとにアセスメントをしっかり行ったことで、これまでの学習の状態と本人の学習に対する課題をもとにした支援の準備をしやすかった。
- アセスメント結果とチェックリストを次年度にしっかりと引き継ぐことが課題。

(4) Cグループ
ア 課題分析

テーマ研究 高等部 対象生徒の全体像を捉えるためのアセスメント 【様式1】 (1/2)

高等部 (C) グループ 対象生徒 (ウ)

個別の教育支援計画

《学校生活》

- ・与えられた仕事に責任をもって取り組む。
- ・友達に優しい。
- ・運動能力が高い。

《進路》

- ・販売業や鮮魚部門の就職を希望。
- ・大阪で働きたい。

《家庭》

- ・早寝早起きなど規則正しい生活ができず、睡眠不足あり。
- ・家庭では家事の手伝いなど進んでする。

個別の指導計画

- ・自分の苦手なことをよく理解していない。
- ・集団のルールを守ることが苦手。
- ・人の話を集中して長く聞くことが苦手。
- ・週明けや週末などに活気がなく、顔を伏せて寝たりすることがある。
- ・衣服の裾がズボンに入っていないことがある。
- ・運動能力が高く、動きが活発である。

発達・知能検査

- ・WISC-Ⅲ (H22. 9. 16)
- ・VIQ65, PIQ58, FIQ57

行動観察

《学習面》

- ・自分で考えて文章を書くのが苦手。
- ・文字を書くことに苦手意識をもっている。
- ・姿勢がくずれる。
- ・集中力が継続しない。
- ・硬筆など文字をうつすことはよくでき、文字もきれいであった。

《生活面》

- ・注意すれば素直。(悪いふりをしている。)
- ・体を動かすことが好き。
- ・友達思いで、よく気がつく。

チェックリスト

《国語》

- ・要件を落とさずに要領よく話することが難しい。
- ・テレビ、ラジオなどを聞き、必要な情報を得ることが難しい。
- ・要領よくメモを取ったり、手紙を書いたりすることが難しい。
- ・他者の意見に関連づけて、自分の意見を述べるのが難しい。
- ・読み、書き、聞く→苦手。

+α []

- ・特になし

テーマ研究 高等部 対象生徒の全体像を捉えるためのアセスメント 【様式1】 (2/2)

高等部 (C) グループ 対象生徒 (ウ)

得意なところは何ですか？

- ・体を動かすこと。
- ・素直。
- ・友達思い。
- ・責任感がある。
- ・運動能力が高い。

苦手なところは何ですか？

- ・集中力がない。
- ・読み、書き、聞く。
- ・規則正しい生活ができていない。
- ・集団のルールを守ることが苦手。
- ・自分の苦手なところを理解していない。

それはなぜですか？ (背景・理由)

- ・ダンスが好き。
- ・身体能力が高い。
- ・できること、自信があること。

それはなぜですか？ (背景・理由)

- ・意識が低い。
- ・周囲の影響。
- ・苦手意識。

分
析

全体像としての課題

- できること、自信があることには意欲的に取り組めるが、苦手意識があるものに関しては消極的。
- 集団や社会のルールを守ろうとする意識が低い。

イ 授業の実際

国語科学習指導案(略案)

日 時 平成 26 年 10 月 14 日(火) 5 校時

対 象 高等部 男子 3 名 女子 3 名 計 6 名

指導者 島田理香(CT) 北原貴志(ST)

1 題材 正しい文を作ろう

2 対象生徒ウの実態

(1) 個別の指導計画における重点目標

- ・ 規則正しい生活リズムや集団における生活習慣を身に付けることができる。
- ・ 漢字や語句に気を付けて、短い文を正確に読んだり、書き写したりができる。
- ・ 状況に応じた適切な挨拶や敬語を正しく使うことができる。

(2) 標準検査の結果

検査名(実施日)	検査結果 ※解釈等は(3)で述べる
WISC (H22.9.16)	VIQ65, PIQ58, FIQ57
チェックリスト(国語)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要件を落とさずに要領よく話することが難しい。 ・ テレビ、ラジオなどを聞き、必要な情報を得ることが難しい。 ・ 要領よくメモを取ったり、手紙を書いたりすることが難しい。 ・ 他者の意見に関連づけて、自分の意見を述べるのが難しい。 ・ 読み、書き、聞く→苦手

(3) 話し合いでの分析・見えてきた課題(標準検査の解釈等)

〈学習面〉

- ・ 自分で考えて文章を書くのが苦手。
- ・ 文字を書くことに苦手意識をもっている。
- ・ 姿勢がくずれる。
- ・ 集中力が継続しない。
- ・ 硬筆など文字をうつすことはよくでき、文字もきれいであった。

〈生活面〉

- ・ 注意すれば素直。
- ・ 身体を動かすことがすき。
- ・ 友達思いで、よく気がつく。

〈全体としての課題〉

できること、自信があることには意欲的に取り組めるが、苦手意識があるものに関しては消極的。

(4) 本時の個人目標

- ア 主語・述語の整った文を作ることができる。
- イ 絵に描かれた状況を文で表現することができる。

(5) 個人目標に対する指導及び支援に当たって

アについて

初めは、単語カードを使って、文を作る順番に並べることができるようにする。

イについて

一覧表を用いて、「①だれ」「②いつ」「③どこで」「④なにをした」を整理して書くことができるようにする。

3 本時の実際			
過程	主な学習活動	指導及び支援上の手立て	資料・準備
導入 (5分)	1 始めの挨拶をする。 2 本時の学習内容について知る。 (今日のめあてを板書する <u>正しい文を作ろう</u>)	<ul style="list-style-type: none"> 聴覚障害の生徒への情報保障はできているか。 	
展開 (35分)	3 教師の準備した単語カードを一枚ずつ読みながら、「①だれ」「②いつ」「③どこで」「④何をした」の内容を確認する。 4 単語カードの中から、カードを一枚ずつ取り出し、カードの要素番号と台紙の番号をマッチングしながら、台紙に置く。 5 単語カードで構成された文を短文記入用紙に転記する。 6 絵を提示し、その状況を自由に発表する。 7 発表された文を一覧表に記入する。 8 例文と比べながら、表に記入した文の中で、抜けている言葉を考え、表に記入する。 9 1つのまとまりのある文として短文記入用紙に記入する。	<ul style="list-style-type: none"> 確認できていない生徒は、教師と一っしょに確認する。 机間指導を行い、できていない生徒がいたら、個別に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単語カード 台紙 絵
終末 (5分)	10 本時のまとめをする。 11 次時の予告を聞く。 12 終わりの挨拶をする。		

ウ 授業研究

授業参観マトリクスシート

	良かったところ	気になったところ	改善点や意見
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に例文を出して生徒を授業に引き込もうとしている様子が見られました。 		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストを見て、文作りに展開されていて、楽しい授業ですね。 ・ふせんを使つての文作り、試行錯誤しながらよく考えられているですね。 ・活動へとても興味をもって取り組んでいました。 ・絵を見ての5W1H文作りは、言語活動もあり、とても楽しそうでした。 ・いろいろな想像ができてよいため、自分でたくさん文を作ることができていた。 ・生徒が①②③④の順序を理解しながら、学習活動に集中している。 ・思い思いに文章を作っていてよかったです。文を構成しやすいようにワークシートができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵がカラーではなく白黒だったのは、何か意図があるか？ ・助詞の使い方の指導があると、さらに自分で文にまとめる作業が簡単にできたと思います。 ・ただ単語を並べるだけでは学習にならないので、文意がとおるようにするなどあればよかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・～で、～をなど文を作るときの注意事項として強調してもよいかと感じた。 ・どんなところに気をつければよいか、板書にあると生徒も活動しやすいと思いました。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で述語や修飾語を考えて、文を作る生徒がおり、めあてを達成できていると思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・WISC-Ⅲの検査の解釈の妥当性について、さらに検討をしてはどうでしょうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・日記の指導へ活かすために、自分の体験を次時で文にするとよいと思いました。 ・般化のために、自分の体験を文にする活動が次時にあると、すごくいいと思いました。 ・全員に話すときと、(●●さん)に話す(説明)をするときの声の大きさの調整。聴覚刺激に敏感な生徒もいるので。

エ まとめ

グループにおける取組のまとめ（高等部Cグループ）

教科「題材名」	国語「正しい文をつくろう」	授業者	島田
アセスメントメンバー	宮ノ前・榮・北原・島田		

1 授業参観で出された意見 [○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見]

- 最初に例文を出して生徒を授業に引き込もうとしている様子が見られました。
- イラストを見て、文作りに展開されていて、楽しい授業ですね。
- ふせんを使っの文作り、試行錯誤しながらよく考えられていいですね。
- 活動へとても興味をもって取り組んでいました。
- 絵を見ての5W1H文作りは、言語活動もあり、とても楽しそうでした。
- いろいろな想像ができてよいため、自分でたくさん文を作ることができていた。
- 生徒が①②③④の順序を理解しながら、学習活動に集中している。
- 思い思いに文章を作っていてよかったです。文を構成しやすいようにワークシートができています。
- 自分で述語や修飾語を考えて、文を作る生徒がおり、めあてを達成できていると思いました。
- 絵がカラーではなく白黒だったのは、何か意図があるか？
- 助詞の使い方の指導があると、さらに自分で文にまとめる作業が簡単にできたと思います。
- ただ単語を並べるだけでは学習にならないので、文意がとおるようにするなどあればよかったです。
- WISC-Ⅲの検査の解釈の妥当性について、さらに検討をしてはどうでしょうか？
- ※ ～で、～をなど文を作るときの注意事項として強調してもよいかと感じた。
- ※ どんなどころに気をつければよいか、板書にあると生徒も活動しやすいと思いました。
- ※ 日記の指導へ活かすために、自分の体験を次時で文にするとよいと思いました。
- ※ 般化のために、自分の体験を文にする活動が次時にあると、すごくいいと思いました。
- ※ 全員に話すときと、(●●さん)に話す(説明)をするときの声の大きさの調整。聴覚刺激に敏感な生徒もいるので。

2 授業検討会で出された意見 [○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見]

- 正しくない文があったが、逆にいろいろな文ができてよかった。今後のために生徒自身で考える機会になり、意見が活発になった。
- 興味関心を引き付ける内容で、見通しをもって全体的に意欲的に学習に取り組んでいた。
- 黒板に提示してあったイラストが見にくかった。
- 板書の仕方の工夫が必要。
- スピードに差がある。学習量の検討が必要では？
- ※ 文意が通るような単語を検討する必要がある。
- ※ WISCについては今後検討が必要。

3 授業検討会を受けて、改善に取り組んだ点

[実態把握を中心とした分析・解釈、目標達成のための手立て、他学部とのつながりなど]

- ・ 本人が意欲的に取り組めるように、視覚的に分かりやすいものをするようにした。
- ・ 意欲をさらに高めるために、読み書き以外の活動を少しずつ増やしていく。
- ・ イラストなどをさらに工夫していきたい。
- ・ 視覚的に意欲を高めるために工夫をし、板書の充実を図った(情報量の工夫)。
- ・ 助詞の使い方は今後、指導していく。

4 アセスメントの一連の流れや授業参観→授業検討会を終えて、所属学部での「指導の一貫性・継続性」を行う上での成果や課題等について

〔○:成果 ●:課題(困っていること) ※:改善点や意見〕

- 対象生徒に対しての指導の効果はあった。
- 様々な意見をもらえることで、授業を多面的に見ることができた。
- 実態差の大きいクラスでの一斉授業やグループ学習の限界。その際の工夫。
- 生徒によって、抱えている課題が違う。ずっと同じ課題をするのは難しい。
- 同じグループの授業を見られなかった。
- 一貫性、断続性を行うための引継資料がほしい（仕事量は増えますが…）。
- ※ 目標を具体的に、手立てまで書くと評価する際に分かりやすい。そのことが、次年度につながっていく。

(5) Dグループ

ア 課題分析

テーマ研究 高等部 対象生徒の全体像を捉えるためのアセスメント 【様式1】 (1/2)

高等部 (D) グループ 対象生徒 (エ)

個別の教育支援計画

【教育的ニーズ】

- ・時計を読んだりお金の計算をしたりできるようになってほしい。
- ・片仮名が書けるようになってほしい。
- ・自分の感情を調整する力を付けてほしい。
- ・今持っている力を生かした仕事をみつけてほしい。

発達・知能検査

【S-M社会生活能力検査】

CA 12歳6カ月 SA 9歳10カ月
(平成22年7月1日実施)

【田中ビネー-V】

IQ 29 精神年齢4歳7カ月
(平成25年12月5日実施)

検査は、環境を整えた状況で行ったので本人の意欲や集中力がいつも以上であった。感覚過敏の傾向もあるので、学習環境を整えることが重要であると思われる。また、理解できていそうな問題が、聞き取り理解する力が弱いため時間内に終わることができていなかった。視覚的な支援を合わせるとできるとと思われる。

行動観察

- ・行動の変更を受け入れるのに時間が掛かる。(理解はしているようで、5分くらいすると変更を受け入れて活動している。)
- ・男女の区別が曖昧だったり、友達のことをお兄ちゃんと言ったりすることがある。
- ・隣の家の水道の音が常に気になり不眠になりやすい。
- ・身体をごしごし洗うことができない。
- ・トランポリンなど不安定な物が非常に苦手。
- ・一斉指導では聞き逃しが多く、眼を閉じていることもある。
- ・挨拶が丁寧でお客様の対応がうまい。
- ・昔の出来事を概ね正しく記憶している。
- ・模倣や細かい手の動きが苦手。
- ・合唱が難しい。一人では歌える。
- ・自分のペースで作業を続けることができる。

個別の指導計画

【重点目標】

- ・自分の気持ちを友達や教師に伝え、友達の言葉や気持ち聞き、みんなと一緒に行動することができる。
- ・身だしなみなどを自ら整えることができる。
- ・小学校低学年程度の漢字の読み書きや、計算ができる。

チェックリスト

算数・数学：5～6歳レベル

(数と計算：5～6歳)和が10までの足し算をする。

差が5までの引き算をする。

(量と測定：4～5歳)直接比較で長さを比べる。暦を見て月日や曜日を言う。

(図形)具体物の中から、円・三角形・四角形を分類する。

(数量関係・実務：4～5歳)自動販売機でジュースを買う。大人と一緒に簡単な買い物をする。

国語

(聞く：5～6歳)相手の話を集中して聞ける時間が短い。

(話す：6～7歳)丁寧な言葉で話すことができる。気分により乱暴な言葉を使うことがある。

(読む：5～7歳)平仮名や小1程度の漢字で構成される文章は読むことができる。頭出しの言葉を読んで、自分で創作することができる。

(書く：6～7歳)視写ができる。4語程度を組み立てて、一日の出来事を振り返って日記を書くことができる。

+α 【 行動観察の続き 】

- ・自分の困り感に気付いていない。

テーマ研究 高等部 対象生徒の全体像を捉えるためのアセスメント 【様式1】 (2/2)

高等部 (D) グループ 対象生徒 (エ)

得意なところは何ですか？

- ・挨拶が丁寧に行える。
- ・字を書くのがすばやい。すらすら読める。
- ・昔の話をよく覚えている。
- ・人前で発表(何かする)ことは好きである。堂々としていて、間違いを恐れて固まることがない。

苦手なところは何ですか？

- ・周りの人とのコミュニケーションに課題がある。自分の話ばかりしてしまい、友達との会話が続かない。
- ・一斉指導で聞き逃しが多い。
- ・トランポリンなど不安定な物に乗るのが難しい。
- ・物の分別が難しい。
- ・体を洗うことが苦手である。
- ・ダンスの模倣が苦手である。
- ・特定の音が気になり過ぎる。

それはなぜですか？(背景・理由)

- ・エピソード記憶の良さ。
- ・これまでの経験によるコミュニケーション能力の成長。

それはなぜですか？(背景・理由)

- ・視覚・聴覚・触覚・前庭覚・固有覚等の刺激が受容量を超えて入ると、処理ができないのではないか(処理が困難なため、刺激過多になると必要な情報までシャットアウトしてしまう)。
※感覚過敏。
- ・障害による感覚過敏のため幼少期の試行錯誤経験が不足しているのではないか。
- ・概念形成が未発達。

分析

全体像としての課題

- 感覚の統合ができていないため、「感覚統合を作り直す」必要がある。
- 分類や概念の形成を促す必要がある。

イ 授業の実際

数学科学習指導案(略案)

日 時 平成 26 年 10 月 14 日(火)5 校時

対 象 高等部 男子 0 名 女子 4 名 計 4 名

指導者 前原 修一 (CT) 岩元 美紀 (ST)

1 題材 金銭「買い物しよう」

2 対象生徒工の実態

(1) 個別の指導計画における重点目標

- ・自分の気持ちを友達や教師に伝え、友達の言葉や気持ちを聞き、みんなと一緒に行動することができる。
- ・身だしなみなどを自ら整えることができる。
- ・小学校低学年程度の漢字の読み書きや計算ができる。

(2) 標準検査の結果

検査名(実施日)	検査結果 ※解釈等は(3)で述べる
S-M社会生活能力検査 (H22.6.4)	CA 12歳6か月 SA 9歳10か月 SQ 79
田中ビネー知能検査V (H25.6.18)	基底年齢 2歳 精神年齢 4歳7か月(55か月) IQ 29

(3) 話し合いでの分析・見えてきた課題(標準検査の解釈等)

【標準検査の解釈】

- ・田中ビネー知能検査Vは、検査環境を整えた中で行い、本人の意欲や集中力は通常以上であった。
- ・問題を理解する力が弱いため、解答が可能であろう問題も聞き取って、終えることができなかったが、視覚的な支援を合わせて対応すると解答も可能かと思われる。

【チェックリストの分析】

(算数・数学) 5～6歳レベル

- ・数と計算…和が10までの足し算をする。差が5までの引き算をする。
- ・量と測定…直接比較で長さを比べる。暦を見て月日や曜日を言う。
- ・図形…具体物の中から円・三角形・四角形を分類する。
- ・数量関係・実務…自動販売機でジュースを買う。大人と一緒に簡単な買い物をする。

【行動観察】

- ・行動の変更を受け入れるのに時間がかかる。(5分位すると変更を受け入れて活動し始める。)
- ・一斉指導では聞き漏らしが多く、目を閉じていることもある。
- ・模倣や細かい手の動きが苦手である。・挨拶が丁寧で接客ができる。
- ・自分で身体をごしごし洗うことができない。・トランポリンなど不安定なものが苦手である。
- ・特定の友人に命令口調で話す。・同級生に自分のことを「お姉ちゃん」と言って、会話する。
- ・周囲の生活音に敏感で不眠になりやすい。(聴覚過敏)・一人では歌えるが、合唱が難しい。
- ・他者の感情理解、異性との関わり方や認識(男女の区別)が曖昧である。
- ・自分のペースで作業を続けることができる。・本人は自分の困り感に気付いていない。

(4) 本時の個人目標

- ア 数字で書かれた3桁までの値段を見て、値段に見合った硬貨を正しく取り出すことができる。
- イ 商品を選んだり、お金を取り出したりするなど買い物を想定した活動を一人で行うことができる。

(5) 個人目標に対する指導及び支援に当たって

アについて

- ・段階的に学習を進めるために、本時では硬貨の金種を100円玉と10円玉の2種類に限定する。

イについて

- ・買い物を想定した活動を可能な限り一人で行えるように、困った時にはお助けカード(5枚程度)を利用させる。

3 本時の実際

過程	主な学習活動	指導及び支援上の手立て	資料・準備
<p>導入 (10分)</p>	<p>1 始めの挨拶をする。</p> <p>2 前時までの学習を振り返る。</p> <p>3 本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>◎ じぶんで好きなものやほしいものをえらんで、かってみよう。</p> </div>	<p>○ 大きな声で元気よく挨拶できるように言葉掛けをする。</p> <p>○ 前時の学習内容を想起することができるように、必要があれば実演する。</p> <p>○ 学習目標を提示し、前時までの学習を踏まえて、本時の学習への見通しをもつことができるようにする。</p>	<p>・学習目標カード</p>
<p>展開 (30分)</p>	<p>4 買い物学習をする。</p> <p>(1) 教室前方のホワイトボードに貼られた商品カードの中から1枚を選び取る。</p> <p>(2) 自分の席に戻り、選んだ商品カードに書かれた値段をカウントシートに並べる。</p> <p>(3) お金を取り出し、カウントシート上に並べる。</p> <p>(4) 取り出したお金と商品カードをコイントレイに乗せ、教師に報告する。</p> <p>(5) 教師に確認してもらい、終わった商品カードをホワイトボードの自分の目標一覧表に貼る。</p> <p>(6) 自分の目標数(一覧表)が達成できるまで、(1)～(5)を繰り返す。</p>	<p>○ 商品カードは値段で選ぶのではなく、自分の好きなものや欲しいものという視点から選ぶように言葉掛けをする。</p> <p>○ 必要があれば、ホワイトボードにもそれぞれの生徒が選んだ商品カードの値段を提示する。</p> <p>○ 金種の区別や正確に数えることが難しい実態もあるため、困った時は、「おたすけカード」を利用するように指導する。</p> <p>○ 実際の生活経験が不足しがちな実態もあるため、間違えずにうまくできた際は 称賛の言葉掛けをする。</p> <p>○ 間違えずにうまくできた成功体験を次の学習活動につなげられるように、意欲がもてる言葉掛けをする。</p> <p>○ 目標数は自己決定させるが、5つ程度を目標数に設定させる。</p>	<p>・模型硬貨(100円玉・10円玉)</p> <p>・お金カウントシート</p> <p>・コイントレイ</p> <p>・商品カード</p> <p>・お助けカード</p>
<p>終末 (5分)</p>	<p>5 学習したことを振り返る。</p> <p>6 次時の学習内容を知る。</p> <p>7 終わりの挨拶をする。</p>	<p>○ 自分だけでなく、友達の学習した成果にも注目できるようにする。</p> <p>○ 本時の学習内容との違いを提示することで、次回の学習に見通しをもつことができるようにする。</p>	<p>・学習振り返りカード</p>

ウ 授業研究

授業参観マトリクスシート

	良かったところ	気になったところ	改善点や意見
導入			<ul style="list-style-type: none"> ・手順確認ができるものがあればよいかなと思う。 ・集中力に課題があるので、後ろ2人の場の設定を変えてみてはどうか？
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・実際場面に近付け、少しでも般化させようという試みがすごいと思います。 ・繰り返しの活動が実態にあつていてとても良かったと思います。 ・できるだけ手立てを講じて、独力でさせようというところがよいと思います。 ・個に応じた手立てが立ててあつた。 ・買い物をする店を簡略化し、計算させることに集中させていた。 ・ボードにお金を並べる方法が実態に合っていたと思います。 ・金種を2種類に限定したことで、自発的に課題に向き合えるようになってきていると思う。 ・自信、達成感ももてる指導であつたと思う。 ・長所を活用した授業であつたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商品カードを取ったら、すぐにお金を並べられるが、カウントシートには前の金額が残って間違えていた。 ・エさん：目標数「8」に向けた意欲は分かるようであるが、カードを貼る場所が不確定のようであつた。（元に戻ってしまったり、●●さんの欄に貼ったり） 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標個数を示す1 2 3 4～8両者ともに示し、カードをマッチングする形態、または●●さんと欄を離しても良いかなと思う。 ・個別の指導計画（重点目標）の一つから伝えることも授業にあれば良いと思う。 ・言葉掛けをもっと減らしてもできていたかもしれません。 ・「多めに払う」「50円を使う」など、これからの目標が大変だと思いますが、頑張ってください。 ・これからどのように教材を減らして般化させるかが、とっても楽しみな授業だなあと思いました。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・次時への導入が丁寧になされていた。 		

エ まとめ

グループにおける取組のまとめ（高等部Dグループ）

教科「題材名」	数学科 金銭「買い物をしよう」	授業者	前原修一（C T）岩元美紀（S T）
アセスメントメンバー	上園菜穂子, 岩元美紀, 前原修一, 最上淑子, 前山優香, 中和田明宏		

1 授業参観で出された意見 [○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見]

- 実際場面に近づけ、少しでも般化させようという試みが良かった。
- 個に応じた手立てを講じ、生徒に独力でさせようという点が良かった。
- シートにお金を並べるなどの繰り返しの活動が実態に合っており、生徒も集中できていた。
- 金種を2種類に限定することで、自発的に課題へ向き合え、生徒が自信や達成感をもてる指導になっていた。
- 商品カードを取ったら、すぐにお金を並べられるが、カウントシートには前の金額が残って間違えていた。
- エさん：目標数「8」に向けた意欲は分かるようであるが、カードを貼る場所が不確定のようであった。（元に戻してしまったり、●●さんの欄に貼ったりなど）
- ※ 目標個数を示す1, 2, 3～8と商品カードの両者をホワイトボード上でマッチングさせていく形態やAさんとの目標提示欄を離しても良いのではないかと思う。

2 授業検討会で出された意見 [○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見]

- エさんは習熟の度合いも高く、「お助けカード」を1度も使わず、自力で学習を進めることができていた。
- エさんはミスなく学習を進められている最中は問題ないが、商品の値段が苦手な310円や510円等でつまづいて指導を受けると、その後の取組に支障をきたす傾向が見られた。
- エさんは集中力に課題があるため、後方の2人は同室で背中合わせの学習や別室での授業対応が望ましいのではないか。
- ※ 細かい計算は無理でも、実生活で500円や1,000円あれば、これくらいの品物は買えるという金銭感覚を身に付けられれば、本人も困らないのではないかと思う。

3 授業検討会を受けて、改善に取り組んだ点

〔実態把握を中心とした分析・解釈、目標達成のための手立て、他学部とのつながりなど〕

- ・ 自分の決めた目標数をマグネットなどの具体物に置き換えて、ホワイトボード上で商品カードとマグネットをマッチングさせる学習活動を取り入れ、次第に定着させることができた。
- ・ 50円玉や500円玉を理解するために、10円玉×5=50円玉や100円玉×5=500円玉などの補助教具（5コインセット）を作製し、段階的に学習を深めさせた。
- ・ 商品の値段が310円や510円の際に10円玉を10個準備しようとする傾向があるため、1円玉を学習の中に取り入れていくことで、理解を深めさせていく必要がある。

4 アセスメントの一連の流れや授業参観→授業検討会を終えて、所属学部での「指導の一貫性・継続性」を行う上での成果や課題等について

[○:成果 ●:課題(困っていること) ※:改善点や意見]

- アセスメントを授業作りに活用したことにより、日々の授業の狙いと自立につながる力との関連が明確になり、計画的な授業実践の展開のための一助となった。
- 指導の一貫性・継続性のために指導者間による使用教材・教具の引継ぎや自立につながる力が育っているか評価するための評価規準の作成等も今後は必要であろう。
- ※ 保護者と生徒の情報を共有できるように、学習の記録（あゆみ）の中に、授業実践（授業における生徒への支援や変容等）に対応して、家庭での生活体験にどう反映されているかの保護者の意見や感想を記入する欄を設け、今後の指導目標や支援等を見直す際の資料になればと考える。

(6) Eグループ
ア 課題分析

テーマ研究 高等部 対象生徒の全体像を捉えるためのアセスメント 【様式1】 (1/2)

高等部 (E) グループ 対象生徒 (オ)

個別の教育支援計画

- ・一桁同士の引き算ができる。
- ・20までの足し算ができる。
- ・自転車に乗れる。
- ・止める程度が分からない。削りすぎる。
(やすり掛け)
- ・友人と遊ぶ機会が少ない。
- ・自分から尋ねられない。
- ・牛乳、ヨーグルトを食べられるようになってきている。

個別の指導計画

- ・指示が意にそぐわないと相手から顔を逸らす、その場を離れる。
- ・周りの動きにつられて動く。
- ・友達に気付いたことを教えることができる。
- ・置き忘れる。
- ・持ってくるのを忘れる。
- ・手先を使った作業が苦手。
- ・動きのまねが難しい。

発達・知能検査

- ・WISC-IIIは実施しているが、検査結果に顕著な特徴が見られない。
- ・再度、補正をかけた上でプロフィールの分析を行う。

チェックリスト

- ・長音、促音が理解できていない。
- ・質問にすぐに答えることが難しいことがある。
- ・3桁の数字の読み書きが難しい。
- ・2桁、3桁の数字の読み書きができるが、2桁、3桁の大小は分からない。
- ・数の大小が分からない。
- ・円、三角形、四角形のマッチングができる。
- ・図形のなぞり書きや模写ができない。
- ・量感に欠ける。(いっぱい、たくさん、長い、短い、広い、狭い、重い、軽い、遠い、近い、深い、浅い、太い、細い、厚い、薄い)
- ・時計は1分単位で読める。

行動観察

- ・着脱、排せつ、食事、清潔に関することは自立している。
- ・操作、技能面で、カッター、はさみの扱いが一人では難しい?
- ・人のアドバイスや意見を1度や2度でなかなか受け入れない。(美術の授業)
- ・身体運動、ボディイメージが希薄
- ・決まった活動は必ずやる。(毎週金曜日の籠洗い、毎朝の健康観察簿配り)
- ・自分から興味のある友達に話し掛ける。

+α []

テーマ研究 高等部 対象生徒の全体像を捉えるためのアセスメント 【様式1】 (2/2)

高等部 (E) グループ 対象生徒 (オ)

得意なところは何ですか？

・決められたこと^①、任されたこと^②、引き受けたこと^③、理解していること^④などについて自分で取り組むことができる。(①～④などの状況が関連していることが前提か?)
 ・他人、周りの様子に気付くことができる。
 ・模倣、模写、視写ができる。

苦手なところは何ですか？

・模倣、模写、視写が難しい。
 ・ボディーイメージがあまりない。
 ・手先を使ったこと(作業など)が難しい。
 ・量感(量的な概念、感覚か?)が乏しい。

分析

それはなぜですか？(背景・理由)

・分かっている、分かったことについては、やる、やってみる。ただし、できるかどうかは分からない。

それはなぜですか？(背景・理由)

・分かっている、分かったことについては、やる、やってみる。が、細かい作業を伴うとうまく操作ができなかったり、仕上がり具合を判断することが難しかったりする。

全体像としての課題

- 量的概念、抽象的概念、感覚が乏しい。→ 具体的な操作、作業を繰り返しながら感覚を身に付ける。
- 他への意識はもっていて、ある程度のレベルで正確に捉えられているようなので、模倣などの方法から活動を進めるとよいのではないか。(ただし、アセスメントとして「模倣が難しい」という結果もある。)
- 理解の状況を教師は判断し、学習、活動を進めることが必須

イ 授業の実際

数学科学習指導案(略案)

日 時 平成 26 年 10 月 14 日(火) 4 校時
 対 象 高等部 男子 1 名 女子 1 名 計 2 名
 指導者 里 康 一 郎

1 題材 「お金」

2 対象生徒才の実態

(1) 個別の指導計画における重点目標

- ・ 分からないときや困ったときは、言葉や態度で支援を求めることができる。
- ・ 自分で鏡を見て身だしなみを整えることができる。
- ・ 自分の持ち物と他人の持ち物を間違えないようにすることができる。

(2) 標準検査の結果

検査名(実施日)	検査結果 ※解釈等は(3)で述べる
WISC-III	検査結果に顕著な特徴が見られない。
チェックリスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長音、促音が理解できていない。 ・ 質問にすぐに答えることが難しいことがある。 ・ 数の大小が分からない。 ・ 量感に欠ける。 ・ 図形のなぞり書きや模写ができない。

(3) 話し合いでの分析・見えてきた課題(標準検査の解釈等)

得意なところ

- ・ 決められたこと^①、任されたこと^②、引き受けたこと^③、理解していること^④などについて自分で取り組むことができる。(①～④などの状況が関連していることが前提か?)
- ・ 他人、周りの様子に気付くことができる。 ・ 模倣、模写、視写ができる。



- ・ 分かってる、分かったことについては、やる、やってみる。ただし、できるかどうかは分からない。

苦手なところ

- ・ 模倣、模写、視写が難しい。 ・ ボディーイメージがあまりない。
- ・ 手先を使ったこと(作業など)が難しい。 ・ 量感(量的な概念、感覚か?)が乏しい。



- ・ 分かってる、分かったことについては、やる、やってみる。が、細かな作業を伴うとうまく操作ができなかったり、仕上がり具合を判断することが難しかったりする。

分析の結果・仮説

量的概念、抽象的概念、感覚が乏しい。→ 具体的な操作、作業を繰り返しながら感覚を身に付ける。

他への意識はもっていて、ある程度のレベルで正確に捉えられているようなので、模倣などの方法から活動を進めるとよいのではないか。(ただし、アセスメントとして「模倣が難しい」という結果もある。)

理解の状況を教師は判断し、学習、活動を進めることが必須。

(4) 本時の個人目標

持っているお金で買うことができるものを判断することができる。

(5) 個人目標に対する指導及び支援に当たって

・分析の結果から、「具体的な操作、作業を繰り返しながら感覚を身に付ける」とのことだったので、これまで値段を見て、ちょうどのお金を出す練習を繰り返し行ってきた。本人もできるようになり、自信が付いてきている。導入で確認することで間違えずにできるようにしたい。間違えた場合は、位取りシートを使って一緒に理解を深めるようにする。

3 本時の実際

過程	主な学習活動	指導及び支援上の手立て	資料・準備
導入 (10分)	1 始めの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> 発表の場を設け、自分の思っていることを言えるようにする。 忘れていた場合、位に注目させるようにする。 目標をホワイトボードに書いて提示する。 目標を達成できると、自分で買い物ができるようになることを意識できるようにする。 	
	2 前時の復習をする。 ・3桁の数の大小		
	3 本時の目標を知る。 ・自分の持っているお金で買えるものを選ぼう。		
展開 (30分)	4 数の大小の練習プリントをする。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートと硬貨の入った封筒を配布する。 レジ役は教師が行う。 難しい場合は、位取りカードを使ってするようにする。 実際の買い物に近い状況を作り、校外学習の買い物で、自分で買い物することを言葉掛けする。 支払いが済んだ生徒には、支払ったお金とお釣りをワークシートにまとめることができるように言葉掛けを行う。 間違えた場合、次はできるように、位の確認などを行う。 	練習プリント お金 ワークシート 封筒 位取りカード 買い物用商品 (ジュース) (お菓子)
	5 買い物学習を行う。(25分)		
	① 買い物学習の準備をする。		
	② 持っているお金を数える。		
	③ 買いたいものの中から自分の持っているお金以下の値段の買える物を選ぶ。		
④ レジで支払いをする。			
⑤ 確認をする。			
	練習を繰り返す。		
終末 (5分)	6 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> 学習を振り返り、できたことと難しかったことを確認する。 次回は計算機を使って複数の物の値段を計算することを伝える。 	
	7 次時の確認をする。		
	8 終わりの挨拶をする。		

ウ まとめ

グループにおける取組のまとめ（高等部Eグループ）

教科「題材名」	金銭	授業者	里 康一郎
アセスメントメンバー	栢, 下野, 宝, 米里, 里		

1 授業参観で出された意見 [○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見]

- 生徒とレポートが取れているのが、最初で分かった。少人数授業ではとても大切と思った。
- 机上を常にすっきりさせていて、学習へ取り組む集中して入ることができる。
- ワークシートがシンプルで分かりやすかった。
- ワークシートを使って確認じっくりできていると思う。
- 前時までの振り返りをしっかりできていた。
- 机間指導では、生徒の自己肯定感を高めるような声掛けで優しく良い。
- 数学と買い物（生活）がリンクしていてよかった。
- 操作的な活動や体験的な活動としては、「値札を貼る」「買い物をする」活動は準備されている。
- 準備などでお互い助け合う場面が見られた。値札を貼ることで、そのもののだいたいの値段が分かるのはよい。
- 校外学習での買い物につなげていく予定の所がよい。
- 買い物実践に近付けるための準備がよくなされている。
- あるお金で買えるという題材設定は、実際場面に近くて良い。
- 100円→200円と金額を増やして考えていく流れは良かった。
- 買い物意欲をそそるような品物がよい。→実際の買い物に繋がる。
- 実物を使うことで更に学習意欲を高められているように感じた。
- 教材として本物を使用していたのがよい。
- 「買えない」という経験もあってよかった。
- 本時に入るまで時間が掛かっていた。
- 数字がたくさん並んでいて、ぱっと見たときどの数字を比べて答えればよいのか分かりづらかった。
- 数の大小比較・・位が分かる枠があるとよい。
- 値段設定は現実的な金額がよい。
- 活動の前に、位取りの学習をもう少し取り組んで活動に移れるとよい。
- 「量的な概念が乏しい」とあるが、数字での比較が多いため概念形成が難しいのではと感じた。
- 授業に対する見通しがもてないように感じた。
- 板書計画・・めあての表示を
- 板書計画が十分に練られていないと生徒の振り返りにも使えないので要検討。
- 板書計画や数字の書き方などをしっかり
- 買い物時、場の設定が窮屈だと感じた。
- この授業は何回目？生徒の活動に見通しがもてていないのでは？1回目なら仕方ないのですが・・・
- 100円玉1枚で買えるものを選択する活動の意味を理解しているのかが見えてこなかった。
- ※二人の実態差があるので金額をそれぞれ変えてもよかった。
- ※教師がレジ係ではなく生徒にレジ係を！教師が正否の判断をしまっている。
- ※学習の流れが分かるよう掲示（板書）が必要。
- ※学習の思考の過程が残るような板書にすると、振り返りやすい。

※100 円で買えるものは？の活動で何を狙ったのか、分かりにくい。もっと、金銭の種類と等価関係や大小を取り入れては？

※「持っているお金」の記入は、買い物を始める前に記入しているとよい。

※生徒が位取り用紙を使っているとき、教師も同様のものを使って説明すると分かりやすい。

※持っているお金の金額は、一定にして、繰り返し学習させるのもよい。

※3桁の大小・・・2択だけでなく3択もあるとよい。

※買えないときの説明が生徒に分かりやすくあるとよい。

※値札の所に文字だけでなく写真もあったらよい。

2 授業検討会で出された意見 [○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見]

○具体的な操作や作業を学習の中に取り入れたところが実態に合っていて良かった。

○事前に数字とお金をリンクさせる学習や位取りシートを使って表す活動を行い、本時につながってきている。

●※数(量)の概念形成が必要な生徒なので、大小を比べる活動をしてから本時の内容に移っていくと良かったのではないかと。

●※今回の授業では板書がなされていなかった。本人が学習内容を確認できるように、位取りシートもはって手順を残すようにしたり、一時間の学習内容が分かるようにしたりする。

●最終目標を、「校外学習で買い物ができるようにする」とのことだったが、買い物についての実態をもう少し確認してみると提示された金額よりも多い金額のお金を出す練習が必要になるのではないかと。目標をまず、お金の大小が分かるかどうか設定した方が実態に合っているのではないかと。

3 授業検討会を受けて、改善に取り組んだ点

[実態把握を中心とした分析・解釈、目標達成のための手立て、他学部とのつながりなど]

・大小を比べる活動を、取り入れた。理解できていると思っていた数の大小も、不十分な部分もあったので大小の分かるシートを使って取り組んでいる。

・板書計画を立てて授業をするようにした。まとめて振り返りもすることができるので、分かりやすい授業ができていると感じている。

4 アセスメントの一連の流れや授業参観→授業検討会を終えて、所属学部での「指導の一貫性・継続性」を行う上での成果や課題等について [○:成果 ●:課題(困っていること) ※:改善点や意見]

○ケースに対する指導内容や指導方法を見出すために今回の手続きはある程度有効であった。

○いくつかの視点ごとに情報を収集・整理し、それを更に分析することで得られたより具体的な指導課題等が、授業を組み立てる上でのポイントになった。

●今回の手続きを日常的に行うにはそれなりの時間を要する。現在の学校運営上その時間を確保することは難しい。

※各教科等の年間指導計画において単元や題材を更に整理し、長期スパンで指導できるようにする、つまり一つの単元や題材に時間を掛けることで指導の成果(積み上げ)につなげることができるのではないかと。

(7) Fグループ

ア 課題分析

テーマ研究 高等部 対象生徒の全体像を捉えるためのアセスメント 【様式1】 (1/2)
 高等部 (F) グループ 対象生徒 (カ)

個別の教育支援計画

- 【教育】・曜日は言えるが、月が難しい
 - ・言葉による依頼やお礼に課題
- 【労働】・卒業後は未定である。保護者は1年程度入所させ別々に暮らすことを考えている。
- 【福祉】・●●介護サービス (月一回利用)
 - ・長期休暇中は△△施設を日中利用
- 【ねがい】・自分の名前/級友の名前を読める
 - ・排泄や着替えの面でできることを増やす
 - ・「ありがとう」「ごめんなさい」を自分から言える
- 【家庭生活】・休日はDVDを見て過ごす

個別の指導計画

- ・中3①自分から視線を向けて挨拶やお礼の言葉を相手に聞こえる声で述べる
 - ②知らなかった名詞 (生活に必要な語彙) を中心に新しい語彙を10~20程度増やすことができる。
- ・高1①トイレや給水を誰にでも自分から依頼できる
 - ②話すときは、相手の目を見て相手に伝わるように大きな声で話すことができる
 - ③話すときは言葉の語尾までしっかりと話し相手に伝えることができる。

発達・知能検査

- 【MEPA】
- 姿勢(P) -P5, P6 (四つばい位, パラシュート反応)
- 移動(Lo) -Lo5, Lo6 (はいはい)
- 移動(M) -M7, M8 (おもちゃを振る, 出された2つの物を同時に持てる)
 - が, 適切な実践プログラムであると考えられる。
- 【S-M 社会生活能力検査】
- 身辺自立 (SH) 2-10 移動 (LO-10)
- 作業 (O) 2-9 意思交換 (C) 3-9
- 集団参加 (S) 3-7 自己統制 (SD) 4-3
- 【職業生活】チェックリスト
- ・根気や持続性は, 指導者が近くにいる場合とそうでない場合などでムラがある。
- ・素直で真面目な性格。誰とも協調性がある。

チェックリスト

- 【国語】
- ・話す/聞くの方が比較的発達している。順序立てる・要点を捉えることに課題。概ね6~7歳程度。
- ・図形や絵の移動/絵の脱落の発見など視覚認知に課題。
- 【数学】
- ・領域によって偏りがある。特に数と計算, 図形については到達度が低い。数の合成・分解や図形を描くという項目が未達成で視覚認知に課題があると思われる。
- 【社会生活】
- ・自発的な運動やボディイメージの形成が難しい。
- ・小さなものを指先 (指の腹) でつまむことができる。
- ・地域生活や電話応対などは, 経験不足

行動観察

- ・笛のカチャカチャする音が好き。
- ・依頼が日常的に当たり前になりつつある。
- ・手元を見ずに食べ物を口に運ぶ。
- ・おやつ (チョコレート) の量が多い。
- ・教師や大人との会話を好み積極的に関わりをもとうとする。
- ・積極的に会話をするが, 授業に関係ない話題を出すことが多々ある。
- ・興味のあるものや人は遠くからでも判別できる。
- ・視力が弱いので眼鏡を使用している。
- ・聴覚に優れていて正確に情報を処理することができる。

+α 【 行動観察続き 】

- ・大きな音が苦手。
- ・周囲の話をよく聞いている。興味のある人の名前や家族のことなどは覚えている。
- ・身体の全体の部位や各部位の筋緊張が起こりやすい。麻痺の強い左手をあまり使おうとしない。
- ・シャツやズボンは一人で脱ぐことができる。着衣の際には, 一部支援が必要。
- ・喜びや楽しさ→表情や発声で伝える。
- ・語彙が豊かで単語をつなげて文で表現する。
- ・相手の立場や状況にふさわしい言葉遣い。

テーマ研究 高等部 対象生徒の全体像を捉えるためのアセスメント 【様式 1】 (2/2)

高等部 (F) グループ 対象生徒 (カ)

得意なところは何ですか？

【認知面】
 ・書く・読むに比べ、話す・聞くが得意。(視覚に比べ聴覚優位) →長所活用
 ・笛のカチャカチャする音が好きである (音の好み)
 ・興味のあるものや人は遠くからでも判別できる。→長所活用
 ・音で聞いた言葉を、正確に情報処理することができる。→長所活用
 ・周囲の話をよく聞いている。興味のある人のことなどは覚えている。→長所活用
 ・色をはっきりと区別することができる。→長所活用、認知を補うため活用
【コミュニケーション面】
 ・依頼を日常的に行うことができる。
 ・喜びや楽しさ→表情や発声で伝えることができる。
 ・教師や大人との会話を好み、積極的に関わりをもととすることができる。→動機付け
 ・語彙が豊かで、単語をつなげて文を表現することができる。→長所活用、コミュニケーションの中心課題
【身体及び動作面】
 ・シャツやズボンは一人で脱ぐことができる。(着衣の際には、一部支援が必要)

苦手なところは何ですか？

【認知面】
 ・図形などの視覚認知が弱い。
 →色をはっきり区別することを生かして空間認知
 ・順序立てる・要点を捉える/要点を話す
 →三語文程度の簡単な文を話せる。
 ・数の合成・分解や図形を描くという項目が未達成
 →課題が難しい
 ・大きな音が苦手
【コミュニケーション面】
 ・授業に関係ない話題を出すことが多々ある。
 →興味のある先生や関心のある話題で話せる。
 ・自分でできることも依頼して済ませてしまうことがある。
 →身体の不自由さ、親しすぎる関係が背景に
【身体及び動作面】
 ・手元を見ずに食べ物を口に運ぶ
 ・視力が低いため眼鏡を使用している。
 ・身体全体や各部位の筋緊張が起りやすい
 ・麻痺の強い左手をあまり使おうとしない

分析

それはなぜですか？ (背景・理由)

【認知面】
 ・視覚に比べ聴覚が優位であると考えられる。
 →長所活用
 ・好きな物事、あるいは人物に関するエピソード記憶が得意なのではないか。
 →体験的な学習の有効性
【コミュニケーション面】
 ・成功体験→コミュニケーション意欲の向上
 →聴覚、発語機能の向上 (好循環) →動機付け
 ・他者への関心が育ってきている。(関心を更に広げていくことが今後の課題) →動機付け
【身体及び動作面】
 ・今までの学習の成果が発揮できている。残存機能をできるだけ維持していくことが今後の課題。
 →適切な課題を継続的に実施。

それはなぜですか？ (背景・理由)

【認知面】
 ・脳性まひの障害特性上、視覚認知が困難な場合がある。
 →見え方の分析や捉えやすいシンボルの大きさ/角度など、更にアセスメントする。簡単な形の弁別を徹底する。
 ・ワーキングメモリー (容量には限界がある) の課題が順序立てて考えることの困難さ？
 →限られたワーキングメモリーを考慮した支援 (簡単な文で他者に失礼にならない表現など) を検討
【コミュニケーション面】
 ・状況や他者の感情等に関する理解ができるが、簡単な表現で支援者側が簡単に要求を満たす状況がある。呼吸や身体の麻痺で発語が苦しいのでは？
 →簡単な文でいつでも話せる状況づくりをする。話す際、基本的なルールをはっきり決めて、それに大人も対応する。
【身体及び動作面】
 ・身体の変形、拘縮の進行 (可動域の減少) 脳性まひのタイプを考慮→進行の防止へ
 ・食事に関しては、姿勢や補助食器の種類、置く場所等、いろいろ変えて試してみるとより良い方法があるかも？
 →日常的な動作で課題の訓練

全体像としての課題

- 前後左右等の位置の理解→色による手掛かりで学習する/視覚とボディイメージの統合へ/遊びの要素を取り入れ継続する。
- 誰にでも丁寧かつ簡潔な依頼ができる。→言いやすい言葉を選ぶ。/モデリングをして、定着を図る。
- 形の弁別 →まずは、簡単な図形の弁別から始める。/色の弁別などと複合して課題設定の領域を徐々に広げていく。
- 動作の課題 (現在の機能の維持を目的) →日常的な動作の中に意識的に取り入れられる動作を設定する。/自活などでは遊びの要素も取り入れる。

イ 授業の実際

自立活動学習指導案(略案)

日 時 平成 26 年 10 月 10 日(金)5 校時

対 象 高等部 男子 1 名 計 1 名

指 導 者 小 野 恭 一

1 活動名 「形の弁別・道案内」

2 対象生徒力の実態

(1) 個別の指導計画における重点目標

- ・ トイレや給水など一人で行うことが難しいことは、自分から誰にでも依頼することができる。
- ・ 話したり挨拶をしたりするときは、相手の目を見て言葉の語尾までしっかりと話すことができる。
- ・ 様々な更衣動作に取り組み、衣服の着脱をスムーズにすることができる。

(2) 標準検査の結果

検査名(実施日)	検査結果 ※解釈等は(3)で述べる
・MEPA-II (H23)	・姿勢(P)—P5, P6 (四つばい位, パラシュート反応), 移動(Lo)—Lo5, Lo6 (はいはい), 移動(M)—M7, M8 (おもちゃを振る, 出された2つのものを同時に持てる) が適切なプログラムであると考えられる。
・S-M 社会生活能力検査 (H18) ※H26にも確認	・身辺自立(SH)2-10, 移動(L)0-10, 作業(O)2-9, 意思交換(C)3-9, 集団行動(S)3-7, 自己統制(SD)4-3 である。
・チェックリスト (国語)	・話す・聞くの力が比較的発達している。順序立てて要点を捉えることに課題。概ね6-7歳程度。 ・図形や絵の移動・絵の脱落の発見など視覚認知に課題。
・チェックリスト (数学)	・領域によって偏りがある。とくに数と計算, 図形について到達度が低い。数の合成・分解や図形を描くという項目が未達成で視覚認知に課題があると思われる。
・チェックリスト (社会生活)	・自発的な運動やボディイメージの形成が難しい。 ・小さなものを指先(指の腹)でつまむことができる。 ・地域生活や電話応対などは、経験不足によると思われる。

(3) 話し合いでの分析・見えてきた課題(標準検査の解釈等)

☆分析☆

【認知面】

- ・ 視覚に比べ、聴覚が優位であると考えられる。→長所活用
- ・好きな物事、あるいは人物に関するエピソード記憶が得意なのではないか。→体験的な学習の有効性
- ・脳性まひの障害特性上、視覚認知が困難な場合があるが、色をはっきり区別することができる。→長所活用
- ・三語文程度の簡単な文を話せる。→長所活用
- ・順序立てて考えることは難しい。→限られたワーキングメモリーを考慮した支援を検討する。

【コミュニケーション面】

- ・語彙が豊かで、単語をつなげて文で表現することができる。→成功体験によるコミュニケーション意欲の向上を図り、聴覚、発語機能の向上につなげる。動機づけにする。
- ・呼吸や体のまひで発語が苦しい可能性がある。→簡単かつ丁寧な文でいつでも話せる状況づくりをする。
- ・他者への関心が育ってきている。→関心を広げる。動機づけにする。

【身体及び動作面】

- ・更衣や食事などの日常動作は、今までの学習の成果が発揮できている。残存機能をできるだけ維持していくことが今後の課題。また、身体の変形や拘縮の進行を防止することも課題。→適切な課題を継続的に実施。

☆全体像としての課題と手立て☆

【視覚とボディイメージを統合させる(前後左右などの空間把握)】

手立て: 左右の色分けをし、意識づけをしていく。遊びの要素を取り入れ持続する。

【誰にでも丁寧かつ簡潔な依頼ができる】

手立て: 言いやすい言葉を選ぶ。モデリングをして、定着を図る。

【形の弁別】

手立て: まずは、簡単な図形の弁別から始める。色の弁別などと複合して課題設定の領域を徐々に広げていく。

【動作の課題(現在の機能の維持を目的)】

手立て: 日常的な動作の中に意識的に取り入れられる動作を設定する。自活などでは遊びの要素も取り入れる。

(4) 本時の個人目標

- ア 同色の2種類の形(球・立方体)のブロックを、形ごとに弁別することができる。
 イ 腕に付けた赤(右)と青(左)のバンドを手掛かりに、左右の方向を伝えて道案内することができる。

(5) 個人目標に対する指導及び支援に当たって

アについて

- ・ブロックを弁別して入れる箱に、同形・同色の見本のブロックを入れて提示する。
- ・手で触って形を確認することで、視覚認知を補うようにする。

イについて

- ・興味のある教師のいる教室までの道案内をするようにする。
- ・左右を色と関連付けて意識できるようにする。

3 本時の実際

過程	主な学習活動	指導及び支援上の手立て	資料・準備
13:40 導入 (5分) 13:45	1 始めの挨拶をする。 2 本時の学習内容を知る。 3 本時の学習目標を知る。 「左右の言葉や腕/バンドの色を使って、道案内をすることができる。」	・大きな声で挨拶できるように言葉掛けをする。 ・学習内容をボードに示し、説明するようにする。	・ボード
13:45	4 文字のマッチングをする。 ・ことばカードの中から「●●」(自分の名前)のカードを探し、選ぶ。 ・選んだカードを見本カードと見比べる。	・写真を用意し、見本のことばカードの示す名前を意識できるようにする。 ・「●●」のほかにも、クラスメートの名前カード2枚を用意する。	・書見台 ・言葉ボード ・言葉カード ・見本カード ・写真
展開 (30分) 13:15	5 ブロックを使った色と形の弁別をする。 ①1種類の形のブロックで色による弁別をする。 ②同色で2種類の形(球・立方体)のブロックを弁別する。	・ブロックを弁別して入れる箱に、同形・同色の見本のブロックを入れて提示するようにする。 ・弁別をする前に見本のブロックを手で触るようにする。 ・球を「ボール」、立方体を「はこ」と呼ぶようにする。 ・できる活動(1種類の形のブロックの色の分別)から取り組むことで、自信を持てるようにする。	・ブロック ・箱 ・トレイ
13:15	6 道案内をする。 ・第1目的地「小学部●組」 ・第2目的地「高等部△組」	・右腕に赤のバンド、左腕に青のバンドを付けるようにする。 ・実際に校内を移動しながら道案内をするようにする。 ・バンドの色と左右を確認してから出発するようにする。 ・左右が分からないときは、進みたい方向の色を言うように言葉掛けをする。 ・左右と色の関係を間違った際は、再度確認するようにする。	・赤のバンド ・青のバンド
13:15	7 評価をする。	・評価基準を言葉で伝え、三段階で自己評価するようにする。 評価基準 ◎: 全て左右や色を正しく伝えて、目的地まで道案内をすることができた。 ○: ときどき間違ったが、目的地まで道案内をすることができた。 △: 目的地まで道案内をすることが難しかった。	
終末 (5分) 13:20	8 終わりの挨拶をする。	・大きな声で挨拶できるように言葉掛けをする。	

ウ 授業研究

授業参観マトリクスシート

	良かったところ	気になったところ	改善点や意見
導入		<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールには線が必要だと思います。特に視覚に課題があるので分かりやすさは必要。 ・スケジュールには写真、文字をしっかり提示して読んでから始める（教室掲示にも絵カードは必要だと思います）。大きさも見やすい大ききさで。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールや時間割などの枠は学校である程度統一できたらいいですね。 ・弁別は製作とあわせて「〇〇をつくろう」、「〇〇さんにプレゼントする〇〇をつくろう」などの活動の設定があってもいい。
展開	<p>【実態把握と課題設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題把握に努め、課題の設定に努めている。 ・意欲を持って学習課題に取り組む姿に日頃の積み重ねを感じた。 <p>【進め方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オさんが考えたりする「間」をしっかりまってかわるところはとてもいいと思います。／生徒の反応を大切に、待つところは待ちながら進めていた。 ・「前は失敗したけど、今回はできました」という言葉掛けがよかった。 <p>【教材・教具】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材教具の使いやすさ。／教材(文字カード)は厚みがあって操作しやすくいい。(枠にラインは必要だと思います)／カードの厚み。実態からも取り扱いやすい。／つまみやすいカードを手作りされていてよかった。 ・フォント、文字ブロックが分かりやすい(はね、はらいなど)。 <p>【授業の様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらの生徒も落ち着いた状態で授業に参加していた。／参観者が多いのに頑張っている(集中している)●●さんは、素晴らしい成長を感じました。 	<p>【色と形の弁別】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色弁別は今までもずっと取り組んでいる課題なので、弱さよりも得意なことからのアプローチがいい。 ・形の弁別については、視覚で判断しているのか？触覚で判断しているのか？少々実態が分からず判断しづらいですね。「視覚認知に課題」ありとしているので。／「視ること」へのアプローチが必要なのではないか。 <p>【道案内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ道案内なのか？コミュニケーションで？／道案内の意味は？ゴールに目的を持っていくことが必要。 ・意欲が高いことがとても大切だと思います。「道案内」に意欲は？ ・色に置き換えることで混乱するのではないか。／リストバンドで色分けする必要があるのか？手を挙げることでできたらいのでは？／左右の手を挙げて、行く方向を示すことができていたので、その後に「左右どっち？」「色」を質問すると複雑になっていたように思った。道案内であれば指すでも成立していたと思う。／道案内では、「右」とオさんが言ったら、右に行って修正するのはその後がいいのでは？ 	<p>【言葉カード(文字)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①写真カードを見て名前をいう ②文字カードをそれに選んで貼る。(言語活動とあわせる。) <p>【道案内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道案内には「〇〇先生にこれをもっていこう」、「〇〇を見つけないこう」で見つけたらゴール。／それぞれの活動の目的や意図、どんな力につながるか？について意識付けできると良いと思う。
終末			

エ まとめ

グループにおける取組のまとめ（高等部Fグループ）

教科「題材名」	自立活動「形の弁別・道案内」	授業者	小野
アセスメントメンバー	永正, 坂元, 久保, 前田, 東か, 小野		

1 授業参観で出された意見 [○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見]

- いろんな道具を使って、個別の活動を充実させている。
- 右に赤ベルト、左に青ベルトをすることで、左右を区別させ、実際校舎内で本人が右左を指示させながら動く学習が、うまくいかなかったので、改善した方がよいのではないかと。

2 授業検討会で出された意見 [○:良かったところ ●:気になったところ ※:改善点や意見]

- 道具を使って個別の活動を充実させているが、少し実態に合わない部分は改善したらより良く改善されると考えられる。
- 左右にベルトをして左右を区別し、教師を道案内する活動は、現在の状態では課題が難しすぎる。左右に色のベルトを着けての対応のみの訓練または他の訓練で確実に定着できてから応用である道案内する活動に入った方がよいのではないかと。

3 授業検討会を受けて、改善に取り組んだ点

[実態把握を中心とした分析・解釈、目標達成のための手立て、他学部とのつながりなど]

- ・ ブロックー平面のものが良いという意見もあったが立体でやった。形はうまくいかなかった。
→三つの形で区分をしたら良いのでは。
- ・ 同色で形（立方体、球など）の区別→複数の色混合でも形で区別できる。→円柱を加える（同色3図形で）
- ・ 右左の確認→右を赤、左を青のベルトで対応させ、行く方向の色を聞く課題
赤が右であるとの定着が60パーセントくらいだった。見て確認した。
- ・ 文字の認識ー平仮名はできなかった。
- ・ 眼鏡をかけると良く見えるようになり、3cm四方程度の大きさのものなら識別できるようである。

4 アセスメントの一連の流れや授業参観→授業検討会を終えて、所属学部での「指導の一貫性・継続性」を行う上での成果や課題等について

[○:成果 ●:課題(困っていること) ※:改善点や意見]

- これまでの記述式の指導計画等に加え、検査法などのアセスメントをすることで、より詳細かつ正確に生徒の実態把握ができ、課題も適切な習熟度のものが設定できた。
- ※ アセスメントについて、多様なものがあるので、多くのアセスメントについて文献研究などが必要である。

5 研究のまとめ

(1) 成果

- 各研究グループを主体に、アセスメントの「実態の整理→実態の分析→全体像としての課題の設定→研究授業→授業検討→授業改善へ向けた検討」という一連の流れを実践することで、アセスメントについて教員相互の学び合いにつながった。
- 実態把握の方法について、様々な視点からより詳細に学ぶことができた。
- 一人の生徒を多くの視点で見ることで、生徒の特性をより深く知ることにつながった。
- 対象生徒について、適切な習熟度の課題を設定し、指導の効果を確認することができた。
- 計画的な授業実践の展開のための一助となった。

(2) 課題

- 「アセスメント」についての理解・共有が十分でなかった。また、今後の引継ぎ（実践）についても課題が残った。
- 指導の一貫性・継続性のために年間指導計画について見直す必要があるのではないかと。
- 一人一人の社会参加と自立について、評価するための評価規準について検討する必要があるのではないかと。
- 学習指導要領や各種検査法（WISC-Ⅲ等）についての基礎的な知識を深めるための学習が不十分であった。
- 今回のテーマ研究で扱った「アセスメント」を普段の授業づくりにおとすことは難しいと感じた。
- チェックリストの正確さ、教育支援計画などの様式が活用しやすいか見直す必要を感じた。

(3) 改善点・来年度へ向けて

実践報告会后に実施したアンケートには、下記のような意見が上がった。

- ・係の年度当初の提案どおりで3か年計画でよいと思う。
- ・来年度も今年度と同じような形式で進める。
- ・テーマの見直し、再検討が必要ではないだろうか。
- ・全員が共通するテーマにするため、学部ごとにテーマを設定する。
- ・教育課程の見直しと評価規準について踏み込んだ研究を行う。
- ・チェックリスト、個別の教育支援計画等の書式見直しを行う。
- ・学部学年を横断した研究グループで進める。
- ・学習指導要領や各種検査法に関する基礎的な研究を行う。
- ・高等部は作業学習を中心とした研究を行い、今年度の取組を反映させた形で進める。
- ・体力テストの活用を行う。

今年度はアセスメントの一連の流れについて学び合うことができ、一定の成果が上がった。しかし、来年度のテーマ研究を模索する上で、以下の点について検討する余地があると思われる。

- ☆ 研究のテーマ（行動観察、各種検査法、年間指導計画、評価規準等）について。
→その上で、テーマに沿った研究グループの編成（教科等、学部・学年の単位）を行う。
- ☆ 普段の授業づくりに生かす方策について。
- ☆ アセスメントの理解と共有（引継含む）の方策について。

研究のまとめ

～来年度へ向けて～



研究のまとめ

IX	研究のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・	112
1	成果	
2	課題	
3	来年度へ向けて	
4	テーマ研究⑪（平成27年2月12日）より	
X	参考・引用文献・・・・・・・・・・・・・・・・	115

Ⅸ 研究のまとめ

本年度は研究テーマ「一人一人の社会参加と自立をめざす一貫性・継続性のある指導」について、研究の方法（手立て）として、副テーマ「アセスメントを利用した指導を中心に」を掲げた。その結果、私たちは以下のような成果と課題を実感した。《資料 2》

1 成果

- ・ アセスメントをチームで取り組み、同じ視点をもって授業に取り組めた。（一貫性）
- ・ アセスメントの方法が理解でき、共通実践できた。（理解・共有）
- ・ アセスメントを基にした授業作りの具体的な方法が分かった。（授業づくりに役立った）
- ・ アセスメントをすることで、指導の裏付けができた。（客観的なデータ）
- ・ 全員でアセスメントについて学ぶことができた。（アセスメントの大切さ）
- ・ 複数の視点（意見）から実態や課題をとられた結果、実践の幅が広がった。（授業に生かした）
- ・ 他の先生の意見がとても勉強になった。（実践例の紹介も勉強になった）
- ・ 各種検査やチェックリストの重要性を感じた。
- ・ 授業研究でたくさんの意見を聞くことができ、授業改善につながった。
- ・ 各種検査やチェックリストを用いることで、多方面から児童生徒を見て、新たな気づきがあることが分かった。（深い実態把握）
- ・ チェックリストの使い方、活用の仕方について、実践を通して取り組めた。
- ・ 日々の授業をグループで考える時間が確保できた。（学部内の話し合いの充実）
- ・ 仲間と一緒に授業作りをする意識が高まった。

2 課題

- ・ 一貫性・継続性が見えてこない、分かりにくい。（大きなテーマとのつながり）
- ・ 社会参加と自立にどのようにつなげるか。
- ・ アセスメントにかかる時間の設定（確保）は、テーマ研究がないとできない。
- ・ 様式ややり方を学部独自のものとすると、引継時に一貫性・継続性に難しさが生じる
- ・ 分析の資料が多く、限られた児童生徒しか実施できない。
- ・ 研究授業（授業実践）を全員で見ることができる体制づくり。（授業検討会の参加）
- ・ 今回の研究の流れをどう継続していくか。
- ・ T・Tにおける、CTとSTとの共通理解、共通実践（事前の打ち合わせ）
- ・ 課題は見えてきても、どうしてよいか悩む（経験年数の少ない職員が多い？）
- ・ チェックリストの評価基準があいまいで、人のよって評価が変わっている。（正確性）
- ・ 国語、算数・数学で取り組んだので、一部の職員に授業者が偏った。（負担感）
- ・ アセスメント後の実践、改善。
- ・ テーマの語義を明確にする必要性。

3 来年度へ向けて

今年度の研究から、以下のような解決すべき課題があげられた。

- (1) 教育課程（年間指導計画）の見直し（学部を越えて）
- (2) チェックリストの項目，評価基準の見直し
- (3) 自立と社会参加に必要な能力の洗い出し（それぞれの段階で習得させたい力（目標）の明確化，学部教育目標との関連性，継続性）
- (4) 継続性への煩雑さを減らす（校務の情報化）プログラム（システム）作成
- (5) 今年度の研究の深化（子どもの実態把握と目標設定，研究授業，授業検討会）
- (6) 基本的な教科・領域の考え方の徹底（特別支援教育に関する専門性の向上）
- (7) 心理検査（知能検査）の基本的な見方と指導への生かし方
- (8) ケース会やミーティングにおける話し合いのシステム，ルール作り（ゴールの明確化）

また，年度当初に行った職員アンケート（平成 25 年 5 月実施）《資料 1》で多く挙げられた「キャリア教育」についても主テーマに迫る方法として活用する価値があるように思われる。さらに，今年度の反省から，来年度の研究組織は，学部を解いた縦割りがふさわしい。

これらのことや残りの研究期間（2年），実施できるテーマ研究の時間（年間 10 回）を考慮し，一貫性・継続性のある指導へつなげるために，“テーマ研究”として取り組んでいく優先順位を考えると，上記の(1)～(3)が最も重要性の高い課題だと思われる。

まとめると，私たちは，今年度の研究にて，「一貫性のある指導」とは，心理検査(知能検査)や本校の財産であるチェックリストを基にした分析(解釈)を複数の職員で行い，得られた個別の教育的ニーズに向かって，児童生徒に関係する者が手立てや関わり方を共有して指導するということを見出した。その中で，この「一貫性のある指導」を学年や学部が変わっても受け継いでいく“バトンパス”のような「継続性のある指導」として実践することで「一人一人の社会参加と自立」につながるという考えになった。

その中で，アセスメントの流れの中で複数の職員による解釈(分析)によるぶれが少なからずあったことから，判断基準をより明確にしたチェックリストの作成(現在のチェックリストの見直し)や一貫性・継続性のある指導においてヨコの指導(発達)を大切にしながら，タテの指導(発達)のぶれを少なくするための系統性のある教育課程を求めていきたいと考えるようになった。

上記のまとめや来年度の以降の研究構想図（イメージ）について次ページに示す。（図 4）

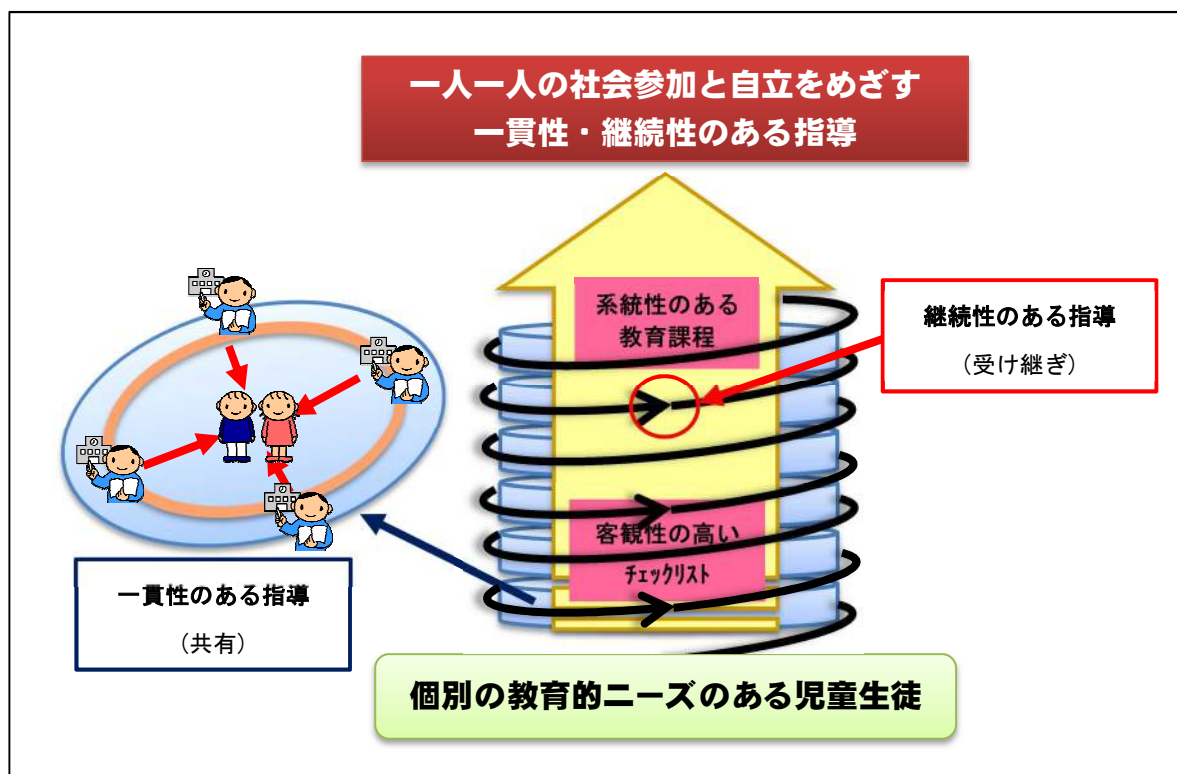


図 4 来年度以降の研究のイメージ(案)

4 テーマ研究⑪(平成 27 年 2 月 12 日)より

本年度の研究の成果と課題から来年度へ向けて

- (1) 教育課程(年間指導計画)の見直し(学部を越えて)
- (2) チェックリストの項目, 評価基準の見直し
- (3) 自立と社会参加に必要な能力の洗い出し(それぞれの段階で習得させたい力(目標)の明確化, 学部教育目標との関連性, 継続性)

が解決すべき課題として大きくあげられたが, 一方, (1)の教育課程については以下のような再考すべき事項が挙げられた。

- ・ 学習指導要領全体の改訂(英語教育を含む)への中央教育審議会答申は, 2017 年 2 月を予定(これまでおおむね 10 年に 1 度となっている改訂サイクルを 1 年程度前倒しして諮問)
- ・ 中央教育審議会答申後, 文部科学省で学校教育法施行規則改正や学習指導要領改訂に取り組み, 例えば小学校英語については, 2020(平成 32)年度から全面実施することを目指す
- ・ 次期学習指導要領では, 学習指導要領全体の構造についても, 今後「育成すべき資質・能力」それを育成するために必要な各教科等の目標, 内容, 学習評価の在り方をセットにして見直す(「育成すべき資質・能力」が明確化され学習指導要領の構造自体が見直される)

これらのことから、来年度より 2 か年の研究として、副テーマ「教育課程」について取り上げた場合、研究の最終的なまとめが出たほぼ同時期に、学習指導要領全体の改訂への中央教育審議会答申が出ることになり、再度、次期学習指導要領へ向けての教育課程の編成を行うという流れになることが予想された。

そこで、これらのことを全職員で共通理解した上で、今年度の成果と解決すべき課題から来年度以降の研究の方向性(副テーマと具体的な研究の方法)を小グループでの話し合いを通して意見(アイディア)を出し合った。以下にその結果を示す。

<副テーマとして取り上げたいもの>

- ・ チェックリストの見直しと活用(項目をもっと具体的に誰がつけても同じ評価になるように)
- ・ アセスメント(今年度)の深化
- ・ それぞれの段階で習得させたい力(目標)の明確化(児童生徒に直接伝えられるキーワード)
- ・ 自立と社会参加に必要な能力の洗い出し
- ・ 目標達成するため指導・支援の方法を一覧にし、共有する
- ・ ICT の活用
- ・ 定型発達への理解
- ・ 指導方法についての研究
- ・ 性に関する指導(各学部の系統性)
- ・ 日常生活の指導の一貫性
- ・ 障害の特性を考慮した学習指導法

<具体的な進め方>

- ・ 今年度の方法を他学部の職員を交えて考える(学部の考え方(意見)が一つにまとまる)
- ・ 教科等をどれか一つにしぼって他学部の授業(教材・教具)を作る(一貫性が出てくる)
- ・ チェックリストの見直しを行い、アセスメントシートを作成する
- ・ よりよい授業作りのための教材・教具作りをする

<共有しておきたい多く出された意見>

- ・ 本校以外のチェックリストなどを他にも知りたい
- ・ 教材・教具を共有したい
- ・ ワークシートや自作教材等の集約をしたい
- ・ 写真や絵、シンボルマークを学校で共有したい(一貫性)
- ・ 日頃の授業実践レベルで研究を進めていきたい
- ・ 研究授業(特別に準備して)しなければならない、とやらなくてもよいのではないか

X 参考・引用文献

- ・ 文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)
- ・ 文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部)
- ・ 文部科学省 HP「今後の中央教育審議会の審議イメージ」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/
- ・ 中央教育審議会 初等中等教育分科会(平成 24 年 7 月 23 日)
「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」
- ・ 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 HP「アセスメントとは」
<https://www.nise.go.jp/portal/elearn/asesument.html>
- ・ 鹿児島県総合教育センター 平成 25 年度研究紀要
「特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究 一知的障害のある児童生徒の pdca サイクルに基づいた授業づくりを目指して-」
- ・ 鹿児島県総合教育センター 指導資料
「知的障害のある児童生徒に対する発達の視点を踏まえたアセスメントの在り方」(平成 25 年 4 月発行)
「校内研修の充実をめざして」(平成 22 年 10 月発行)

資料



(イラスト：中学部3年 田中陸「ヤルショウビン」)

XI 資料

＜資料 1＞

平成 26 年度から始まる「研究テーマ」についてのアンケート(集約)

平成 26 年 5 月 1 4 日

1 「継続性・一貫性のある指導に関する研究」という研究テーマを複数年(2～3年)取り組むとして、掘り下げて研究するにふさわしい内容等は次のうちどれだとお考えですか。

- ア キャリア教育 15人
 イ アセスメントを考慮した授業、目標、評価 19人
 ウ 性に関する指導 4人
 エ 情報モラルの指導 0人
 オ その他 4人(発達段階とそれに応じた指導、ICT活用 or 授業づくり、教科等の指導、自閉症の生徒への指導)

それはなぜですか。

ア キャリア教育

- 重点取組事項に中等教育の充実について取り組むことが挙げられており、小との連携も含めるとキャリア教育について研修を進めることがいいと思うから。
- 小中高それぞれの段階で何を指導すればよいか把握することは大切だと思うから。
- 一貫性のある指導＝キャリア教育だと思うから。
- 「継続」を考えるならふさわしいから
- 小では日生を中心に身のまわりのことをできるようにする。中では作業など、高では総合的に三年に焦点を当てて研究ができるから。
- それぞれの発達段階に応じた指導が必要であるから。
- 生徒の成長と共に研究していけると思ったから。
- 卒業後、生徒達に、望む姿を実現させるためには、各授業場面でキャリア教育の視点をもって指導するのは大切である。しかし、毎回の授業が、そうできているわけではなく、時に確認することで、ちゃんとできたりたくさんの先生方と考えを共有できたりすると良いと思うから。
- 小中高一貫した指導はキャリア教育の視点で取り組む方が現実的だと思うから。
- 小学部から意識して指導しないと間に合わないから。
- 弱いから。
- 年齢(学部)毎に押さえておきたい課題があると思うから。また、なぜこの活動に取り組むのか将来どのようにつながるのか早い段階で分かっていると指導のポイントも押さえやすいと思うから。
- 指導の継続性や一貫性を小中高で共通理解することで進めることができる内容であると考えているから。

イ アセスメントを考慮した授業、目標、評価

- 普段の学習に生かすことができるから。
- 成果が分かりやすい形で出てきそうだから。
- よりよい授業を行いたいと思うから。
- 行われている指導・支援が将来的に(中・高等部、社会に出てから)、どのようにつながっていくのかが把握・理解した上で授業を立てていきたいから。
- 専門的な知識が乏しいと実態把握が難しいので学んでいきたいから。
- 昨年度の成果と課題を踏まえた内容であるから。
- 「〇〇な実態であり、△△な課題があるから。」とか「こういう良さをもっと伸ばし、次へのステップにしたいから。」という視点での授業づくりと教師自身の評価をつけるということが大切だから。
- アセスメントなくして指導は成り立たないと思うので、一番力を入れるべきところだと思う。チームで行うアセスメント→PDCAサイクルと昨年度までの研究も生かせるから。
- 日々授業の中で課題を感じる事が多く、他の先生と話す場がもっとほしいから。
- 他の先生と相談し、話す機会がもっと増えたらいいと思うから。
- 今までアセスメントについて考えたことがなかった。ケース会での藤山先生の話聞いてアセスメントを考慮することの意義がわかった気がするが、もっと勉強したいと思ったから。(2名)
- テーマ研を通してPDCAに対する意識がさらに強まったと思う。また、他の職員の授業におけるアセスメントを学びたいから。
- PDCAサイクルが重要視されているので、授業にいかすことができるよう、たくさんのことを学びたいから。
- 特別支援教育の基本であると思うから。
- 指導にあたってまずはアセスメントがしっかりされていると課題は明確になるが、その視点が多くあつて難しいため、学年が終わるころにも「実態がよくわからない」となってしまうから。
- 日々の教育の中で、目標の設定の仕方、評価の方法、実践の難しさを感じているから。
- 児童生徒の発達段階や障害の特性をしっかりと把握した上での指導が重要だと思います。そのためにはアセスメントをしっかりと行うことが必要であり、その積み重ねが「継続性・一貫性のある指導」へと繋がっていくと思うから。

ウ 性に関する指導

- 学校全体の取り組みとして縦のつながりや、「小学部のときどうだった。」など話をしやすいので。また、

男女の関わり方など社会に出るまでに伝えていったり、考える機会を作ったりすることは必要だと思うから。

- ・ 性に関する指導は学部でもその充実が課題に挙がっているから。
- ・ 年に数回、性に関する指導を保健の授業で取り扱っているが（高等部では特に）、年間を通して少しずつ生徒が知識を身に付けられるよう指導した方が良いと思う。小中高それぞれの段階にあった指導ができると将来的にも良いと思う。授業は特に体育指導の先生方でしてくださるが、担任としても指導したいので何をどのように指導すればよいか研修的なことができれば良いと思うから。
- ・ 年間を通して小中高どの学部でも定期的に学習する機会のあるテーマでいろいろな実態に応じた学習内容を組み立てるとよいと考えるから。
- ・ 指導が必要にもかかわらず、保健・体育が中心になってしまっているから。

オ その他

- ICT活用 or 授業づくり
 - ・ ICT活用は学習指導要領でもうたわれているから。
- 教科等の指導
 - ・ 本校の小から高までの教育課程における教科等の指導の段階性、継続性が十分でないと思うから。
- 自閉症の生徒への指導
 - ・ 対応が難しいから。意欲的に授業や作業に取り組ませる方向があれば。

② どのようなことが「継続性・一貫性のある指導」だとお考えですか。実際に取り組まれていることなどがありましたら、併せてお書きください。

- ・ 小・中・高と近い指導観をもって、子どもたちの生活や学習指導に当たること。
- ・ 小から高卒業までにその子の目標に向かって指導していくこと。
- ・ 前担任が行ってきただけを継続しつつ成長に合わせて支援を変えていくこと。
- ・ パターン化して子どもたちが見通しをもって活動できること。反省（子どもの様子、授業内容等）をT1～Tαで共通理解していくこと（授業前の打ち合わせなど）。
- ・ 1回の授業じゃなくて同じようなテーマで1年通して行うこと？
- ・ 小学部、中学部、高等部のそれぞれの中でのつながり、又、小・中・高の12年間のつながりが「継続性・一貫性のある指導」になると思う。小学部では、日生活（トイレ指導、着替えの指導）などは目に見えて継続性はあると思う。他の教科もあると思うのですが・・・。
- ・ 引き継ぎを受け、それを基に指導にあたること。
- ・ 小→中→高それぞれの段階で習得させたい力（目標）を明確にし、それに向けた指導を行うこと。
- ・ 全職員が同じ方法で支援・指導にあたること。
- ・ 引き継ぎを確実にやり、アセスメントがしっかり行われた上で指導を行うこと。
- ・ 個別の支援計画をもとに、将来像の共有化をすること
- ・ それまでに指導していたことについて指導意図を伝えるためにDVD等で引き継ぐこと。
- ・ 知的障害のある児童生徒にとって指導の定着までには繰り返し指導することが必要であると思う。だから、単発的に行うのではなく、「わかる→できる」にするために年間の指導を3年間繰り返していくこと（例：月一回性教育の内容を3年間する）がそうなのではと思う。
- ・ 生徒の成長をさらに伸ばせるように職員が変わっても引き継いでいけるもの
- ・ 引き継ぎとその後の情報共有、指導計画の精度の向上とその活用をすること
- ・ テーマ研で授業前・授業後に話し合う機会が多くあったので、テーマ研究だけで終わらず、常にこのような話し合いの場を作ること。生徒の変容に気付くためにも継続して行うこと。
- ・ 個の障害における状態から1に書いたことを踏まえ、テーマを挙げることで一貫性及び継続性になると思う。
- ・ 職場見学（校外学習）→作業・その他の教科→校内実習（職場体験・現場実習）→作業・その他の教科の流れ
- ・ 小・中・高の発達段階に応じて指導することはもちろん、教育課程から一貫して系統的な内容を含めること。
- ・ 小学部児童：働く人たちにインタビュー等、中学部生徒：短期間の職場体験、高等部生徒：長期間の職場体験。
- ・ 2～3か月集中実践のような一時的でなく、一定の期間内（1年や2～3年のスパン）に月一回などの定期的な指導実践をすること。
- ・ 小学部から高等部までの指導。
- ・ 小、中、高の一貫、教師の共通理解がしっかりとできた指導。
- ・ 学部間の指導に一貫性があるもの。（現在、学部間での共通理解が不十分であるため、指導に一貫性を欠いているから）
- ・ 現在取り組んでいる学習が、2年後、5年後どのように生かされるのか？を意識すること。
- ・ 2年後、5年後、10年後求められる力はどのようなものか、そのために今しなければいけない学習は何かと意識すること。
- ・ 小中高の継続性・一貫性を考えるなら、教育課程の共通理解、段階に応じた教育課程の設定、本校小中高の児童生徒にどのような力を身につけさせたいか、それにのっとった教育課程の特色を出すこと。
- ・ 教育課程上に位置付けられており、どの教科でも意識して指導できる態勢になること。
- ・ 指導の基本は授業で、それにつながりがなければ一貫性はない。年間指導計画を各学部で付き合わせるべきである。
- ・ 現在はそれぞれの学部でそれぞれに対応されているような感じなので、発達段階に応じた目標、学習内容で進めていくこと。

③ どのような編成方法が研究を進めやすいと思いますか。

- ア 学部別のグループ 19人
 イ 課題意識をもとにした縦割りのグループ 12人
 ウ 教科等別 3人
 エ その他 5人(ア&イ 2人, イ&ウ 1人, 内容による 1人, 未選択 1人)

それはなぜですか。

ア 学部別のグループ

- ・ 実際と一緒に授業を行う機会が多いので。
- ・ 発達段階や授業形態が近いため、共通した課題等を深めることができるため。
- ・ 実態・生活年齢を考えるとやりやすいと考えるから。
- ・ 取り組みやすい。連携がとりやすいから。
- ・ 同じ授業づくり、課程で授業をしているので話しやすいから。相談しやすいから。
- ・ 相談しやすい。実態をある程度分かっているから。
- ・ スケジュール等が組みやすい。生徒の情報を共有できるから。
- ・ 授業の参観→意見から改善や共通理解を図ることにつなげていくにあたって、学部を超えてのグループは昨年度の反省を踏まえると難しいと思うから。
- ・ 普通の授業での課題がわかる。研究しやすい。縦割りだとこれまでの授業の様子、生徒の実態などから知る必要が出てくるから。
- ・ 消去法。縦割りだと参観に課題があるから。教科等も同様。
- ・ 距離が近いから。
- ・ 全体研究(テーマ)→学部研究(テーマ)に下りてきた方が、軸がぶれないと思う。
- ・ アセスメントを考慮した授業、目標、評価をしたときに当該生徒の目標からの評価の過程が分かりやすいから。
- ・ 実際に授業実践し、それを見直し改善する教師グループでの研究が深めやすいから。
- ・ 時間割や教育課程上、他学部との合同で研究していくことは難しいと思うから。可能であれば縦割りグループでも良いかと思う。

イ 課題意識をもとにした縦割りのグループ

- ・ 各学部の職員がまざっていた方が継続性・一貫性のある話がしやすいのではないかと思うから。
- ・ 他学部の職員の意見も聞いた方がよいと思うから。
- ・ 他学部との情報交換・交流が必要だと思うから。
- ・ 実態・生活年齢を考えるとやりやすいと考えるから。
- ・ 「継続性・一貫性」を求めるならば、縦割りグループが良いと思うが、なかなか研修がすすまない(他学部の授業に対して意見が述べにくい)というデメリットがある。それを克服できるなら「イ」が良いと思う。
- ・ 昨年度まで学部でのチームで取り組んできた。縦割りのチームも数年掛けて成り立つようにできればよいと思うから。
- ・ 継続性、一貫性を学校全体で考え、深める研修を目指すためには、学部を解いた縦割がよいと思うから。
- ・ 小中高連携の視点から。
- ・ 逆に学部別の研修で何が「一貫性のある指導」でしょうか。去年も三三五五だと思っから。
- ・ 継続性、一貫性という観点から。課題や具体的取り組みが見付けやすいので。
- ・ 一貫性・継続性のため。

ウ 教科等別

- ・ ぜひ縦割りで、教育課程の形態の部会もテーマ研究に引きこんでやりましょう。(教育課程にまで踏み込んだ研究が必要であると考えから。)
- ・ 準備や事後指導に生かせるから。

4 「継続性・一貫性のある指導に関する研究」というテーマの検証をどのように進めるべきかアイデアやお考えがありましたら教えてください。

- ・ 難しいですね。敢えて言うならば・・・タイプ別（この言葉はあまり良くないが）に検証していく児童生徒を挙げ、研究を進めていく。
- ・ 課題別のグループで個々の指導を考えていく。
- ・ ある学年に着目して2～3年間の経緯をまとめていく。
- ・ （キャリア教育に限定して）職場見学や校外学習、学校生活での課題を作業学習やその他の授業で取り組み、改善していく。（例：目標、評価方法の見直し、作業日誌やあいさつ・報告の方法の見直し・統一化、授業方法、教材・教具の工夫など）
- ・ ①子どもの姿で検証 ②アンケートで検証 ③授業で検証
- ・ 子どもの変容を3年間追っていく。その際あえて他学部をまたぐような生徒を抽出の対象とする。そうすることで小中校の連携もとれるのではないか。
- ・ 学部ごとに生徒をピックアップし、その子の変容を見る。できるだけ類似課題をもつ児童生徒を。
- ・ 学習指導要領や教育課程の理解を深める。
- ・ 長期的スパンでの検証が必要。今年度を基準として3年目を評価の年とする。
- ・ 職員研修（進路指導）6月中旬とからめた方がいいのでは。他学部乗り入れ等の研修と関連させる。
- ・ 一年次：指導計画の整備、弱いところのあらいだし 二年次：指導計画を基に理論班、授業班、設営班などに分かれて仮説を立てる（前年度のまとめを基に）仮説を基に実証するための理論を立てて授業、生徒の変容をフィードバック。
※仮説は本校独自のものか、それともどこかの実践例をひっばってくるかどちらでもよい。
- ・ キャリア教育ならば、その履修内容や実践内容について個別のカルテを作成し、次の学部へ引き継いでいくような方法が望ましいかと思います。

5 テーマ研究について、御意見、御要望、アドバイスなどございましたらお書きください。

- ・ もし教科等の指導を中心に教育課程の研究をするのであれば、単元題材を各教科ごとにしぼって比較することもできる。2学期の研究授業、授業公開もその流れに組み込むこともできる。
- ・ テーマ研究を意識しなくても自然と取り組めるようになるといいですね。
- ・ 教育課程の見直しをして、それにそった授業をしていくと分かりやすいと思う。
- ・ きちんと生徒に返ってくる研修がしたい。
- ・ 大変ですが、チーフがんばってください。

《資料 2》

テーマ研究⑩ 「学部研究 報告会」アンケート（集約）

平成 27 年 1 月 22 日（木） テーマ研究係

回収：小学部 13 人，中学部 14 人，高等部 24 人

1 学部研究 報告会を受けて、各学部の研究について、ご意見・ご感想などをお書きください。

- ・ 「アセスメント」が分からない段階から参加して、小グループの研究組織だったので少しずつ理解すること出来たと思う。
- ・ 他学部の授業を参観することがなかなかないので、⑩にはない授業の様子を見ることができてよかった。「複数の視点で！」ということは、小・中・高共通してよかったのだと感じた。
- ・ 他学部の発表をきくことで、どのような研修が行われていたか分かって良かった。実際に授業を見ることができないのは残念だが、調整も難しいので仕方ない…
- ・ チェックリストの活用の仕方は、それぞれの学部でよく実態把握されているなど感じた。
- ・ 全体で出された方向性に沿って研究が行われていた。
- ・ 全ての職員が実のある研究ができたと思う。
- ・ 各学部のテーマ研究の先生方を中心に、具体的な研究がなされていてすごいなと思った。
- ・ 各学部特色のある指導がなされていることが分かりました。
- ・ 当日参加できませんでしたが、実践的な取り組みがどの学部もなされていることが資料を拝見して感じました。係の先生方、研究に携わったすべての先生方、お疲れ様でした。
- ・ 個に対する異なる支援の方法とツールの活用において、研究前、学部、全体の報告会等を受けて、いろんな視点から実践を通して学ぶことができた。
- ・ 多くの教師の実践例から学ぶことが多かったです。
- ・ 各学部の取組を知って、それぞれの学部の特性（徴？）などに合わせて、アセスメントシートなどが違っていて、勉強になりました。
- ・ アセスメントの大切さを改めて感じた。人と共有することで指導につながることや複数の視点で見ることでたくさんの糸口があることを実践を通して学べた。
- ・ どの学部もよく研究・実践していると感心しました。
- ・ それぞれの学部がどういう取り組みをしているのか知ることができ、よかったです。
- ・ 全グループではなく、小・高のように抽出したグループの事例を挙げての発表は分かりやすかった。
- ・ 各学部、全員で研究に取り組み、多数の意見を出し合いながら研究を進め、その後の改善にも生かすことができたと思います。
- ・ 様式・やり方を独自のものとする、引継時において一貫性・継続性に難しさが生じるのではないかな。
- ・ それぞれの学部でグループに分かれて生徒を抽出し、グループ内で研究・実践ができたことはすばらしいと思う。
- ・ **小学部** 小さいものの上に大きいものを乗せることに意欲を持つ場合も考えられないか。 **高等部** 「左右の方向」はどこを中心とするかどことどこを比較するかを本人が設定できるかが大切な点かと思う。
- ・ 対象児童生徒を絞ったとはいえ、チェックリストや検査を用いたアセスメントの流れについて実践できたことは大きい。チーム大島養護が機能した場面であった。この流れを来年度以降「こんな風にしたよな～」と思いついたり、「他の人の意見や見方を聞いてみよう」と思ったりしたら、今年度研究をやった甲斐があると思う。
- ・ 良かった。
- ・ 他学部の報告を受け、複数の目で児童・生徒の課題や授業の改善点を見つけ研究に取り組んでおり、授業づくりにとっても役立ったのではないかと感じた。
- ・ テーマに基づいて多くの先生方で授業を見て検討するいい機会となっている。各学部とも、授業や指導の工夫がされていると思った。
- ・ 同じ研究内容ですが、発達段階に応じてそれぞれの課題が見えてきました。小グループの中に入り、テーマ研究を行ってきましたが、授業参観できず、うまく参加できない職員も多かったように思います。来年度以降グループ編成を工夫していく必要があると思います。
- ・ グループでの意見交換が行いやすかった
- ・ 小学部のスライドを用いた授業の進め方、分かりやすかったです。どの学部もいろんな工夫がされているなと思った。
- ・ 各学部チェックリストの活用がなされていた。中学部のまとめにもあったように、チェックリスト以外の実態把握方法を考え、学校全体で共通理解できたら良いと思う。
- ・ 高等部は一人にしばって研究を行った為、充実した研究になったと思う。
- ・ 学部間の方向性が少しづれているように感じました。アセスメントについて理解の共有や引継に課題を感じます。
- ・ 各学部、細やかな話し合いなどが行われており、授業の方法や取り組み方など参考になった。
- ・ すばらしかったと思います。みんないっしょけんめいだなあと感じました。

- ・ 各学部で実態に応じた取り組みがなされているのは参考になったが、各学部の研究について相違点などが一覧表にまとめられているとさらに研究内容を深められると思う。
- ・ 工夫されていて素晴らしいと思いました。
- ・ それぞれの学部で工夫がなされていてよかった。テーマ研究のためだけでなく、日頃の授業でも課題を見付けて、授業の内容、手立て、教材などを考えていければいいと思った。（やっていないわけではないのですが…もっと深く）
- ・ 各学部の全職員で何らかの役割を担当し、研究を進めるという雰囲気が大変すばらしいと思った。発表も時間を区切ったことでコンパクトになり良かった。
- ・ どの学部もそれぞれの方法ですすめられていてよかったです。成果と課題が発表されましたが、やはり、児童生徒の変容まで知りたかったです。それによって全体像にも具体的な変化が見え、その変化を追うことでより発達段階に応じて指導ができるのではないのでしょうか。
- ・ 他学部の授業をなかなかみることが難しいので、1つの事例について、授業の内容、成果・課題について時間をとって説明があり良かった。
- ・ 各学部とも、アセスメントを受けてどう授業に生かしていくかの流れができてきている点は良かったと思います。
- ・ アセスメントのよさを実感できた。
- ・ 年間を通してこのテーマ研究の奥深さに実感しています。この研究をさらに浸透させる為にも職員同士の共通理解、再認識が必要だと思います。授業者、係の方ありがとうございます。

2 あなたが実感する(考える)今年度のテーマ研究の成果と課題についてお書きください。

【成果】

- ・ アセスメントの方法が理解でき、共通実践できた。
- ・ 各種検査などを用いたり、多方面から子どもをみることで新たな気づきがあることが分かったこと。
- ・ アセスメントを基にする授業づくりの具体的方法が分かった。
- ・ 一人の児童についてチェックリストを活用し、それに基づいて+αの項目も話し合いながら、協議することができた。他の先生の意見がとても勉強になった。
- ・ 複数の視点から実態や課題をとらえることで実践の幅が広がった。
- ・ グループに分かれたので、他のクラスの子の実態がわかる（一緒にチェックリストや行動観察を行ったため）
- ・ チェックリストの活用の仕方は実践して取り組めた。
- ・ チェックリストを生かし（活用のし）方
- ・ チームでの実態把握、目標設定等々
- ・ 高等部の発表でもあったが、全員でアセスメントについて学び合うというのがよかったと思う。
- ・ チェックリストの活用の仕方を知れたこと
- ・ アセスメントをすることで指導の裏付けができること（なぜその指導をするのか）
- ・ 児童が今何を課題としているのかを考えた上で指導ができた。
- ・ チェックリストの使い方が分かった。使って授業を作った。チェックリストを手にして使う機会を作り出した。
- ・ 生徒一人一人の見方（学習活動）や理解の仕方などが目に見えた。
- ・ チェックリストの活用の仕方についてまなぶことができた。
- ・ アセスメントって大事だなと改めて思ったこと。
- ・ アセスメントをチームで取り組み、同じ視点をもって授業にとりくめたこと（一貫性）
- ・ 「アセスメント」について理解・共有がされたこと。
- ・ 子ども一人一人のことがよくわかり、どういう支援をしたらいいのかわかることができ、良かったです。
- ・ 様々なグループの発表・授業を見ることで実態に合った指導法を知ることができた。
- ・ 実態把握のためにチェックリストやアセスメントをすることでより深く実態が分かり、授業に生かすことができた。
- ・ 日々の授業をグループで考える時間を確保できたこと。
- ・ 他学部や他グループの研究・実践を知ることができ、様々な角度からアプローチを学ぶことができた。
- ・ 学部内での話し合いが充実した。他学部の取組が報告会でよく分かった。
- ・ みんなで児童生徒の見方を話し合ったこと（子どもの大事な大事な1年間！複数の目・意見がよりよい1年間へ！）
- ・ 国語、算数・数学にしばってアセスメントの一連の流れができた（学べた）こと
- ・ 今まで、実態把握をするときに日々の行動観察に偏りがちだったが、チェックリストなど客観性のある材料を活かすことで、より正確な実態把握ができることが分かった。
- ・ 仲間と一緒に授業づくりをする意識が高まった。
- ・ 授業研究を行い、たくさんの方々から意見を聞くことができ良かった。授業改善の手助けになった。
- ・ 複数の教員で授業づくりをすることができた。
- ・ 多くの先生方で、授業を絞って授業づくりをした結果、話し合いがしやすかった。
- ・ 実態把握においてより深く共有することができた。
- ・ 対象生徒の実態把握をじっくりできたこと。普段ではなかなか時間がなく、チェックリストを見直して実態

を項目別に見直すことがないのでよかった。

- ・ 実態把握についていろいろな視点で話し合うことができた。
- ・ 他の授業での様子が話し合いの中で分かった。
- ・ アセスメントにおいてお互いに学び合うことができた。
- ・ チェックリストの活用や各種検査法の重要性を感じられたことです。
- ・ チェックリストの活用の仕方が分かった。
- ・ アセスメントを授業に活用したこと。
- ・ 複数の目で対象生徒を見れたこと。
- ・ 係や先生方の頑張り、作られた資料
- ・ アセスメントについて考えたり、それにもとづいた授業づくりを問い直す良い機会となった。
- ・ 授業の内容について改めて考えることができました。
- ・ 授業の作り方、チェックリスト、検査法の活用方法が分かった。授業の質を少し上げられたと思う。
- ・ 対象生徒について複数の教師の視点を交えたことで、深い実態把握につながった。
- ・ アセスメントを行うことで全体像がみえ、より具体的な手立てを考えることができた。
- ・ 本校チェックリストや各検査、個人に関する資料、複数の教師の視点により、複合的、総合的にアセスメントを行い、課題を焦点化する点
- ・ とりあえず、何らかの検査等をつかって実態把握をし、習熟度に合った課題を授業に取り入れることで、授業が改善したこと。
- ・ アセスメントすることで教員間の共通理解ができた。

2 あなたが実感する(考える)今年度のテーマ研究の成果と課題についてお書きください。

【成果】

- ・ アセスメントにかかる時間の設定（確保）テーマ研究がなければ、できないような…
- ・ 分析の際、資料が多く学級の全児童で実施できない。
- ・ 他学部との指導の一貫性・継続性というのが見えてこなかった。
- ・ 一つの教科のみでしかアセスメントをしていないので、他の教科でもこのアセスメントでよいのかどうか…
- ・ 今後、チェックリストを活用して授業を作っていく先生方が多く出てくるのかな？と思う。
- ・ 今回の研究の流れをどう継続していくか。子ども全員に還元するためにはどうすればよいか。（職員の意識かな）
- ・ 大きなテーマとのつながり
- ・ 他学部とのつながり（指導の一貫性・継続性）が分かりにくかった。
- ・ 学部間 or 学部内での一貫した指導の難しさ
- ・ 支援ツールは個において異なるため、指導・支援法において、事前に密な ST との共通を図る必要性を感じた。
- ・ ここが課題！と分かっているけど、どういうアプローチをしていったらいいのかなと悩んだこと（経験年数が少ない人が多いと、こう思うことが多いように感じた）
- ・ 「アセスメント」について学ぶ時間、情報を共有する時間がもう少しほしい。
- ・ 教育課程や年間計画、チェックリストの見直し
- ・ チェックリストをより活用する（できる）ための評価基準というものがあれば人によって評価が変わることはないのでは？と感じた。
- ・ 他学部とのつながりや継続性（今年だけでは成果をあげられるものでもないと感じつつ）
- ・ 授業実践の様子を全員でみることでできるような体制づくりができればよかったのでは
- ・ 今年度のことを社会参加と自立、一貫性・継続性のある指導にどうつなげるか。
- ・ 複数の職員で子どもを見る大切さは十分実感できたが、複数の意見でピントを合わせないといけないという事実から現在のチェックリストの問題点（改善の必要性）を感じている。
- ・ 検査結果やチェックリストは行ってはいるが、十分に分析する力がまだない。
- ・ この取組を次年度般化すること。
- ・ 一人に焦点を当てた研究だったが、実際は複数人で授業をするので、その取組についても勉強していきたい。
- ・ 普段授業をなかなかみれない教員はイメージがつきにくい。
- ・ なかなか他のグループの授業を見学することが難しい。
- ・ 今年度行ったアセスメント後の実践
- ・ アセスメントのさらなる共有
- ・ 高等部では国数担当者でない職員も結構いるので、授業づくりや反省などほとんど授業担当者任せになってしまった。
- ・ チェックリストの正確性
- ・ 日頃から他の職員とコミュニケーションをとることが大切だと思った。
- ・ 指導の一貫性・継続性のための年間指導計画の作成（学部をこえて、教科ごとに）
- ・ アセスメントについてのそもそもの理解が共有できなかったこと。
- ・ 対象生徒についてはよかったが、それ以外の生徒の分までアセスメントする時間がなかった。

- ・ 来年度以降につながるかどうか。
- ・ 生徒への還元
- ・ グループで取り組んだ結果、国・数の担当者などに授業者が偏り、負担感を感じる方もいたように思う。
- ・ いろいろな先生の授業を見ること。
- ・ 他のグループの授業や分析を見ることができればよかった。
- ・ 対象生徒以外の生徒にこの研究の成果をどのように還元できるか。
- ・ 小・中・高、共通して一貫性・継続性が挙げられた。やはり他学部の実情を知らないまますすんでいくこと。
- ・ 本校チェックリストの活用について →教科担当が年度初め、年度末以外にどれだけチェックリストを見直したり、随時生徒の達成度と照らし合わせて正確に記録できているか。(単元によっては年間を通して取り扱っていないものもあり、記録が正確にとれているか教師個人にゆだねられている)
- ・ 「アセスメント」の語義を各種検査やチェックリストだけでなく、それを授業に取り入れるまで全体としてとらえた先生方の中に、以前の PDCA サイクル全体の研修との違いがわからなかったとする意見もあったので、テーマの語義を明確にする必要があると考える。
- ・ アセスメント後の実践、改善などの引継
- ・ チェックリストの活用法

3 あなたが考える「本校において最も必要とされる研究内容」を理由と併せてお書きください。

- ・ 障害理解、国語、算数にしばって研究を深める。
- ・ チェックリストだけでは分からないので、発達段階にあった指導の取組
- ・ 授業力向上 理論と実践をバランスよく研修することで日々の授業に生かせるとよい
- ・ 教科等における学部内や小学部、中学部、高等部との一貫性・継続性 一貫性・継続性が目に見えてあれば指導しやすいと考えるから。
- ・ 子どもの実態把握と目標設定、目標達成のための手立て。今年度の研究を更に深めたい。
- ・ 教科、教科外に限らず、授業力向上 →学校に一番もとめられていることだと思うから。
- ・ 子どもたちへ授業で還元できるように、日々の授業とのつながりのある研究がよいと思う。
- ・ 各学部の一貫した指導のために必要なことは何か。 → 一年間指導してきたことがつながっていないことが多いような気がする…。
- ・ 基本的な領域・教科の考え方の徹底。個々の専門性の向上(授業づくりの前段階にある職員がいる事実から)
- ・ 重点目標以外にも多くの項目への共通理解を学部の中で全職員が回り、還元すること及び繰り返し学習における系統性の重大さを感じる。
- ・ 心理検査の基本的な結果の見方と指導への生かし方 (理由:検査の結果を出して、はい終わり!となっている場合が多いから)
- ・ 「子ども理解」に関すること。実践にすぐに役立つことも必要ですが、その基となる発達や子どものとらえ方などみんなで研究したい。
- ・ 校務分掌における煩雑さを減らすことで生徒への教育が充実するような研究?「様式の統一化」を研究テーマにしてもよいと思う。あるいは「教材・教具をチームで考え、作成する」研究など
- ・ 高等部でも基礎的な内容は大切であるが、小・中学部でより基礎を充実させ、高では 10~12 年目のまとめ(仕上げ)をして社会に出られるとよい。指導の一貫性、連携が大切。
- ・ ミーティングやケース会など「子どものため」を思ってやっていることが業務内容(やりこなすべきこと)としてのニュアンスが強くなってきていることから、話し合い等の目的やゴールを明確にした効率の良い(ただ時間が設定してある、思いついたことをただ話し合うのではなく)会の在り方(ルール、システム作り)を残したい。(大島養護のやり方はいいよね!と他の支援学校からも思ってもらえるような)
- ・ 日常使用しているもの(教育支援計画、指導計画等)を用いて、アセスメントしていく。また年度が変わるとテーマ研究で用いた書式が活用されないのは、もったいないので。
- ・ 教育課程がもう少し具体的に研究して改善できたらどの先生方も基本線をそろえて指導しやすいと思う。
- ・ 「本校」がよいのでしょうか?学部ごとにテーマを決めたらだめなのでしょうか?各学部で必要な内容(テーマ)が色々あると思います。高は作業学習の取組内容とか
- ・ 学部をこえた指導の一貫性・継続性
- ・ 教育課程に踏み込んだ研究。研究授業・授業研究ありきのやり方は違和感があります。
- ・ 全体研修の最初の 10 分、その場所でそれぞれの本を読むってどうですか?
- ・ 進路につながる指導
- ・ 複数の目で、様々な意見を!
- ・ 今、この内容をすすめているのであれば、この研究をすすめるのがよいと思います。
- ・ 個人個人が研究テーマを設定することで年間を通して研究に取り組むことで全職員がレベルアップを目指すべきではないか?

- ・ たくさんあるので「最も」と限定されるようなものは書けない。何が「最も」なのか。優先順位をつけることに意味はないと思う。
- ・ 様々な扱い方（検査など）を活用したアセスメントを利用した指導。今の方向性でよいと思います。教師それぞれメインにしている扱い方が違うと思うので、視野を広げたい。
- ・ 障害特性に合った効果的な支援についてです。ひとくちに養護学校と行っても、さまざまな特性を持った生徒がいるからです。
- ・ 年間指導計画の見直しを含めたより一貫性のある授業作り。
- ・ 社会自立に必要な能力（特に必要とされる能力）の分析と、その能力のアセスメントの実施、それを授業に生かすための方策を含めた研修

4 あなたは「何を明らかにするのか」、**「何のために検査を実施するのか」**など目的を明確にしてから**心理検査(知能検査)**を行いましたか。

<担任のみ回答のため省略>

5 **チェックリストや心理検査(知能検査)**はいつ実施しましたか。

<担任のみ回答のため省略>

6 **来年度以降の2か年のテーマ研究について、具体的な方向性・研究方法・成果の形についてアイディアやご意見がありましたらお書きください。**

- ・ チェックリストをダイレクトに評価の際、活用できるようにする授業づくりの在り方
- ・ 他学部の授業を見られるように工夫できたら…
- ・ 題材などを固定して、小・中・高の授業実践や目標について検証する(?) みたいな方法で小・中・高のつながりが見えたら成果になっていくのではないかなと思う。
- ・ テーマ研究から波及する教育課程の編成（指導計画の見直し） 明らかに必要と思われる。
- ・ 「一人一人の自立と社会参加を目指した」、「一貫性・継続性」を実感できる研究 → 具体的じゃなくてすみません
- ・ 一貫性・継続性のある指導をするための方法をどうすべきかなども研究してみたいですね。
- ・ 個々の指導計画（あゆみ等）があるのでそれを吟味し、他の人と相談したり聞いたりする基本的なつなぎについて取り組んでいく。先輩は後輩を指導する。学部縦割り、年齢縦割りではどうでしょう？
- ・ 研究方法、成果に関して適度な教材教具の活用と中でも ICT の活用を用いることで授業に変化をつけ、生徒の意欲的な取り組みが目に見えた。そのためには要望として ICT 環境の充実を見直してほしい。
- ・ この生徒がこの行動をするのはなぜだろう？ どうアプローチしたらいいだろう？ など話し合っていけたらいいなと思います。
- ・ 学部を混ぜたグループでの研究を行うと、共有できることが増えると思う。
- ・ 「記録の取り方」についてはぜひ研修を行ってほしい。すべての内容に通じるので。ワークショップ型研修で同じ VTR を見てみんなで記録をとってみて主観点だったりすることなどに気付く、または必要とする記録の取り方とは…など。
- ・ 行動分析・行動療法を2年続けることで効果が感じられると思うので、行動分析の手法を学んで自分のものにできたらありがたい。
- ・ 先輩方がそうしてきたように、校務を行う上での問題点をテーマ研究の時間を使って、縦割りのグループで改善していけばいい。もちろん主題にせまる方法として当てはまる内容に限る。
- ・ 他学部の参観が難しいという意見（事実）から、学部ごとの研究ではなく、学部を解いた縦割りのグループで研究を進めるのはどうか。そうすることで、研究の時間に他学部の職員が混ざる環境を設定できる。
- ・ 客観性（量、頻度など数値化する）の高いチェックリストの作成と活用。
- ・ 来年度以降につながるかどうかは、一人一人の職員が取り組むかどうかであって、係のみが考える（行う）ことではない。今年度の職員が来年度の4月、新たなクラスでの出会いの際、今回のアセスメントの一連の流れを少しでも実践できれば大きな成果だと思う。
- ・ テーマ研究の在り方については色々な意見があると思うが、テーマ研究のおかげで分からないことは、自分で考える・調べる（自己研修）の機会が与えられていると思います。
- ・ 教育課程において発達年齢や段階、チェックリストに基づいた学習内容の系統性について研究してはどうか。大もとのテーマについて再考してはどうか？「継続性？」と「系統性？」言葉・用語があいまいでは？
- ・ （ただの希望です）全体像のとらえ方をもっと丁寧にじっくり学びたい。今さらですが、初歩の初歩から。①「できる」方から教えてもらって、まずは②モデルケースでやってみる、③ちゃんととらえられているか「できる」方と確認する（してもらおう）ということをやりたい。今年度は、すぐにグループに分かれての実践に入ったので、その前の段階をじっくりやりたい。グループの先生方とやってみましたが、自分にアセスメントの力がついたらという疑問です。すみません。

- 検査やチェックリストが適性かどうか、いろいろな検査について学びたい。
- 何か形に残るといいですね。
- 研究を進める中で一度提案された資料作成の様式が変更されることがあったので、係会でしっかりもんだ後に提案していただきたい。また、ある程度、作成資料の様式は、各学部で共通のものを使用することが望ましいと思う。
- 1年目で出た成果が何らかの形で2年目以降に生かされるようなテーマ研究になれば良いと思います。(抽象的ですがすみません…。)
- 東京都の「自立と社会参加に向けた高等部における自閉症教育の充実」(H26.3)は参考になる研究だと思いました。



お わ り に

本年度は、昨年度までの3か年での研究の実績を踏まえ、11月18日には鹿児島県特別支援教育研究会大島大会に係る授業公開として、外部から70名余の参加者を得て開催することができました。研究授業及び授業研究並びに四分科会を設定し、総合教育センター等から指導者を招聘し、御指導いただきました。3年間で身につけた授業づくりの実績を本県の特別支援教育の推進に向けて、他校での研究にも反映できる取組ができたのではないかと信じております。

さて、特別支援教育が整備されていく中で、インクルーシブ教育システムの構築が幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校において、今後整備していくことが大きな課題となってきます。平成26年度は文部科学省のインクルーシブ教育システム構築モデル地域事業（スクールクラスター）〔本県事業名「教育資源活用モデル地域事業」〕に奄美市教育委員会が推進地域として、また、奄美大島群島内の教育委員会がモデル地域となった2年目として、本校では、更に特別支援教育を推進していくために、①センター的機能の充実、②合理的配慮協力員への助言・情報提供（基礎的環境整備、合理的配慮の情報収集及び国立特別支援研究所の合理的配慮等のデータベース化のための情報提供等）③大島教育事務所・奄美市教委との連携し、各小中学校等への支援について取り組んできました。平成26年度の成果を踏まえ、各幼・保、小中高等学校での特別支援教育の自立に向けて次年度以降の取組を更に拡充し、大島地区の充実を図っていくために支援部員及び特別支援教育コーディネーターをはじめ全職員で取り組みを進めてまいります。

研究の成果をまとめましたので御一読いただき、御意見をお寄せいただければ幸いです。

最後に、本校では学校評価の「自己評価」や外部アンケートを基に学校運営の改善に取り組んでいるところです。本年度の学校評価で課題として見えてきたものは「中学部、高等部での中等教育の充実」でした。この課題解決に向けても、次年度は校内体制を整備し取り組んでいきたいと考えています。

平成27年3月

教 頭 上 原 峻

研 究 同 人

【校長】 中村 良一 【教頭】 上原 峻 【事務長】 梶原 成人

小学部		
東	明	美
中	水	教
中	村	か
飛	永	雄
平		千
松	元	真
竹	元	浩
大	瀧	梨
嘉	村	徳
藤	尾	友
實	島	あ
原		正
板	坂	佑
寺	下	悟
尾	前	誠
団	塚	ル

中学部		
藤	山	美
駒	走	俊
栄		華
馬	場	真
小	倉	寿
徳	重	浩
宮	崎	
板	敷	大
高	野	博
墓	本	武
川	村	雄
若	松	千
緒	方	
二	禮	智
平		世
田	浦	清
古	村	洋
山	田	知

高等部		
栞		哲
有	満	勝
内	山	沙
岩	元	美
濱	田	千
里		康
島	田	理
宝		政
上	園	菜
栞	木	
北	原	貴
米	里	み
宮	前	真
下	野	千
沢	上	新
小	野	恭
久	保	香
最	上	淑
坂	元	輝
前	田	み
永	正	彰
前	原	修
神		慶
大	重	耕
東		和
春	口	陵
平		麻
中	村	志
元	尾	
前	山	優
中	和	明
榮		香

養護教諭		
塗	木	ひろみ
島	元	渚

事務部		
柳		正
小	山	田
龍	田	孝
津	川	興
福	田	智

栄養教諭		
飛	松	佳
		子

訪問教育非常勤講師		
深	川	ケイ
春	山	梅

看護師		
碓	山	由
與		ひより

合理的配慮協力員		
山	名	友
		香

テーマ研究係から

小学部の研究はテーマソングでの幕開けとなりました。学部での審議でいろいろ迷惑も掛けましたが、先生方のやる気とパワーで、結果“実のある研究”ができたと思います。ありがとうございました。小学部 団塚ルミ

「こうなのかなあ?」「そういうことか!」と、みんなで子どものことを考えたり話したりするのは、改めて楽しいなあと感じました。そんな心と時間の余裕が常に欲しいです。お疲れ様でした。小学部 中水教仁

今年一年テーマ研究の係として、学校全体で研究したいことについて考えて、実践してもらうためには、段取りする力が必要であると感じました。板敷先生ありがとうございました。中学部 高野博一

感謝です！
背中を押し、道を示し、伝え、支え、進めてくださったすべての先生方あってこそこの「テーマ研究」なんだと痛感した一年間。おかげ様でした。中学部 板敷大和

テーマ研究への御協力、ありがとうございました。多くの先生方のサポートをいただき、無事に一年次の研究を終えることができました。次年度も「楽しく学び合える」テーマ研究を、よろしくお願い致します。高等部 東 和史

共同研究の難しさ、面白さといった醍醐味を感じる一年でした。多くの先生方のご協力のおかげで、ここまでたどり着いたのだと思います。
ありがっさまりょうた。
高等部 小野恭一
追記 「山に捨てたものは拾ってよかったですね。東先生(笑)」